

福島市民憲章作文コンクール

作品集の発刊に寄せて

「福島市民憲章作文コンクール」は、同市民憲章の普及、啓発のため市内の中学一年生を対象に行っており、十三回目の開催となる今回は、十七校百三十四点の応募をいただきました。

応募数は毎年右肩上がりで増加しており、今年度は過去最多数の応募となりました。応募いただいた生徒のみなさんに御礼を申し上げますとともに、本コンクールを通して、市民憲章の精神がさらに多くの市民の皆様浸透される機会となるよう願っております。

さて、今年の応募作品につきましては、身近な体験を題材としたものが多く、日頃の自分たちの生活の中に市民憲章の精神が活かされていることを上手にまとめているものが多数見受けられました。市民憲章の趣旨は、条文を通して自分の理想のまちをイメージし、現状に気づき、行動につなげることでありますが、中学生らしい視点での素晴らしい「気づき」が多数みられたことも、コンクールの成果の一つであったと思います。

同世代の中学生の皆さんをはじめ、ぜひ大人の方々にも読んでいただきたい内容です。

福島市民憲章は、市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年四月に制定されました。これからも、市民憲章の意義を一人でも多くの市民の皆様にお伝えし、「住んで良かったと、心から思える福島市」になりますよう普及啓発に努めてまいりますので、皆様もぜひ市民憲章を日常生活に活かしていただきますようお願い申し上げます。

結びに、本コンクールの開催にあたり、各学校で作文指導にあたっていただきました先生方をはじめ関係各位に対しまして、心より御礼を申し上げます。

平成三十年一月

福島市民憲章推進協議会会長

山 本 和 宏

ふるさとへの自信と誇り

「福島プライド」

地域を大切に、福島市、福島県、日本、世界の未来を創る若者たちの声を聴いた。たくましさを感じ、安心して未来を託すことができる。中学生の今、できないことは多い。思うだけだ。感じるだけだ。でも、やがて、実行してくれるだろう。必ず、やってくれるだろう。

やり遂げた自信。心をつないだ地域の誇り。これが「福島プライド」だ。そして、「福島プライド」をもつ若者たちが、明日の福島を創る。「福島プライド」を身に付けるきっかけになったコンクール。開催の企画をしてくださった方々、支援して下さった方々、ご指導いただいた先生方、応募した中学生諸君。大勢の皆様に感謝申し上げます。

中学生の目は新鮮だ。

小学生では感じない。

大人では気づけない。

目に見えないものまで見極める。

でも、何もできない僕がいる。

中学生の心は繊細だ。

奉仕の気持ちが育っている。

感謝の思いをもっている。

自分にもできることを探している。

でも、変わらない私がいる。

中学生の未来は輝いている。

何もできない僕と変わらない私で未来を創る。

何もできないから、何かできる僕になる。

変わらないから、変われる私になる。

新鮮な目と繊細な心もち、

振り返らずに、

立ち止まらずに、

前進するだけで、

できる僕に、変われる私になるはずだ。

そんな僕と私で創る未来こそ、

ふるさとへの自信と誇り、福島プライド。

平成三十年一月

福島市民憲章推進協議会委員
福島市中学校長会 福島市立西根中学校長

古 川 豊

目次

◆金賞

わたしのまち

福島市立福島第二中学校 鈴木美聡……………1

◆銀賞

自分にとっての価値観
福島のきれいなまちづくり

福島市立岳陽中学校 鈴木茉莉……………2
福島市立松陵中学校 熊坂好織……………3

◆銅賞

小さな親切
心のつながり
福島市民憲章と私たちの立子山

福島市立福島第二中学校 佐々木涼帆……………4
福島市立渡利中学校 高野伊吹……………5
福島市立立子山中学校 寺島貴大……………6

◆佳作

近所の親切な人たち
思いやりの心
素敵な未来へ
福島市民憲章について
小さな優しさから大きな愛を。
親切で愛情あふれるまちをつくりましょう
希望にあふれた明るいまちにするために
未来へつなぐきれいなまち
福島のために私たちができること

福島市立福島第一中学校 高橋紫帆……………7
福島市立福島第二中学校 宮川結生……………8
福島市立渡利中学校 菅原温良……………9
福島市立渡利中学校 酒井咲……………10
福島市立清水中学校 渡辺陽菜……………11
福島市立清水中学校 佐藤葵……………12
福島市立北信中学校 数又琴羽……………13
福島市立立子山中学校 佐久間茜……………14
福島市立松陵中学校 菅野慧斗……………15

福島市立松陵中学校	布施野由実	16
福島市立松陵中学校	小林美空	17

福島市立福島第一中学校 齋藤 咲良……………18

福島市立福島第一中学校 室本眞聖……………19

福島市立福島第一中学校
川崎
諒……………20

福島市立福島第一中学校 川村歩 毅……………21

福島市立福島第一中学校 岩本 遥……………22

福島市立福島第一中学校 及川優奈……………23

福島市立福島第一中学校 松浦彩果……………24

福島市立福島第一中学校 齋藤 滉……………25

福島市立福島第二中学校 西形吉平……………26

福島市立福島第二中学校 落合一堯……………27

福島市立福島第二中学校 堀口龍也……………28

福島市立福島第二中学校 安部 陽斗……………29

福島市立福島第二中学校 渡辺 遙 名…………… 30

福島市立福島第二中学校 宮本健吾……………31

福島市立福島第二中学校 渡 辺 舞 桜 …… 32

福島市立福島第四中学校 石黒智尋……………33

福島市立福島第四中学校 窪 大河…………… 34

福島市立福島第四中学校 安齋 亮斗…………… 35

福島市立福島第四中学校 金子凌……………36

福島市立福島第四中学校 金子直央……………37

福島市立福島第四中学校 高岩 香那 …………… 38

ふるさとの発展と未来

福島市立信陵中学校

青

咲
絵

.....

61

福島市立大島中学校	福島市立大島中学校	福島市立立子山中学校	福島市立立子山中学校	福島市立立子山中学校	福島市立立子山中学校	福島市立西信中学校	福島市立西信中学校	福島市立西信中学校	福島市立西信中学校	福島市立西信中学校	福島市立西信中学校	福島市立西信中学校	福島市立西信中学校	福島市立西信中学校	福島市立北信中学校	福島市立北信中学校	福島市立北信中学校	福島市立信陵中学校	福島市立信陵中学校	福島市立信陵中学校	福島市立信陵中学校		
長谷川	佐藤	加藤	村上	渡辺	大内	荒橋	高橋	加藤	阿部	大谷	二瓶	加藤	阿部	加藤	須田	西牧	井上	阿部	菅波	加藤	青木	大宮	濱崎
夢奈	実来	亮汰	浩樹	望愛	悠暉	歩美	優希	飛天		百花	叶瑛	彩夏	百花	黎華	美咲	桃花	桃花	晴斗	遙華	龍輝	結郁		流歌
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	
86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63

空も水もきれいなみどりのまち
きれいなまちを造るため
勉強は楽しい
日常から一つ一つ
読書の輪でつながるまち
愛情や希望あふれる町にしよう
『魔法の言葉』でたくさん笑顔を
福島市民憲章をもっと知ろう
福島市をきれいにする
みどり豊かな輝く明日へ
これからの福島をよくするために
福島市民憲章の大切さを知り
身近なものが幸せ
親切で愛情あふれるまち
福島の良き未来のために
『福島市が愛情でいっぱい』になるために
福島の良さを広げる
あたたかいまちにするために
笑顔あふれる福島市に
きれいなまちづくりのために
安全で健康な町にしよう
親切で愛情のあふれる町に
やさしさ溢れる町のために
福島がよりよいまちになるために

金賞

「わたしのまち」

福島市立福島第二中学校

鈴木 美 聡

福島市民憲章の一つ、「空も水もきれいなみどりのまち」を見て、私は緑豊かな信夫山や静かに流れる祓川を思い出す。市内の中にある様々な自然にいつも感動を覚える。小さい時からなじみ深いこの場所は、父とよく散歩に出かけ、美しい風景を身近に感じ、とても心地よく感じていた。そのため、震災の影響によって外で遊ぶことが出来なくなった時は、とても悲しくなった。植物や水、あらゆる所に放射性物質が付いていると知った時には、自分の周りの自然が生きている感じがしなくなった。あの日から六年もの月日が経つと、記憶は薄れていき、新しい家が次々と建ち、街並みが整備されていくのを見ると、もう生活の中から震災は消え去ったかのように錯覚する。しかし、たまに目にする廃棄物の山や震災の爪跡を残した家屋は、どこか寂し気だ。

この夏、また父と信夫山で散歩することができた。祓川沿いの道を進む。山を登ることが楽しみで、早く行こうといつもより急ぎ歩く自分がいた。目印となる大きな鉛筆の像を通り過ぎ、ようやくいつもの信夫山を登り始める所までたどり着いた。四十を少し過ぎた父を急かし、先に登る。別に急ぐ必要なんてないのに、なぜかわくわくしてしまう。この山には神社や展望台、公園やアスレチック遊具などがある。それぞれ違った雰囲気だから、それを見るのが楽しい。遊具の形はバラエティにとみ、すべり台は特にお気に入りだ。父に「小さい時が懐かしい。」と話す。「そうだね。」とにこにこされた。少し進むと結構急な階段と、緩やかで長い坂道に分かれる。「どっちから行きたい。」と聞かれ、私はいつも悩む。どちらも好きな道だからだ。階段から行くのと急だが、普段よりも少し高い位置から木々を見下ろせる。階段を登って道なりに進めば、私の一番好きな公園がある。一方で、坂道を進めば、木々や草花をじっくり見ることができる。両側の木がトンネルで影を作り涼しい。結局、私は階段を選んだ。

暑い。日差しが背に当たり、思いの外暑かった。やっぱり坂道の方が良かったかなと、今更ながら後悔する。父に「暑いね。」と話しかけ、うなづいた。階段を登り終えると、涼しさが待っていた。かなり長めに休けいし、公園にたどりついた。風が心地良く、一気に草花の香りが通り過ぎた。

このまちは清く美しい。祓川、阿武隈川のせせらぎ、四季折々、表情豊かな信夫山、花見山、そこに囲まれた様々な芸術文化の拠点、音楽堂や文化センター、美術館など学びを深める場所がたくさんある。これから七年もすれば私は成人する。そのために、中学生の私はできることがあれば、何でもやりたいと思う。この福島市民として、地域に根ざし、貢献できるような大人になりたい。

銀賞

「自分にとっての価値観」

福島市立岳陽中学校

鈴木 茉琳

「福島市民憲章」と聞いて私は最初、「子どもである私達にできることはないのではないか。」という、あきらめたような気持ちだった。内容を見ても、小さな心づかいではできても、「子どもや、少しの人ではどうにもならない」と思ってしまう部分があった。しかし、「親切で愛情あふれるまちをつくる」というのを見て、私の周りはどうか、考えてみた。

まず、私の考えた愛情のあふれるまちは、身近でいうと、「いじめのない人々が支え合う温かい町」ではないかと思った。例えば、自分がいじめにあっていたらどうだろう。心に大きな傷ができ、少しずつ、少しずつ大きくなる胸の痛み。きつとなみだが止まらず、今すぐにでも消えてしまいたくなるだろう。私は、自分が死んだらどうなのか、考えたことがある。私が死んでも

きつと、風もふけば花も咲く。そして季節はめぐり続けるのだろう。でも、自分のために流れるなみだがあり、悲しんでくれる人がいる。それはどんなに幸せなことだろうか。ゲートが残した言葉に、「あの人が私を愛してから、自分が自分にとってどれほどの価値あるものになったことだろう。」というものがある。この言葉を聞いて私は、自分にとっての価値はだれかの存在で変わることなんだと強く思った。ならば、落ちこんでしまった人には、

「大丈夫だよ。」

と声をかけて話を聞いて自分の気持ちが変われば、相手の心はとても軽くなると思う。手をさしのべて、光のある明るい所へひき上げてあげれば、心がとても温かくなると思う。これならば、私にもできる。相手のことを相手の立場になつて考えれば、きつと見えてくる景色も変わるだろう。相手が子供でも大人でも困った人がいるなら迷わず手をさしのべてあげられる人がこの世界にどれだけいるのだろう。最初は一つまみほどでも、片手でにぎれるほど、両手で支えられるほど、両手からあふれてしまうほ

ど、と少しずつでも、どんなに時間が経ってもいいから変わればいいと思う。しかし、思っているだけでは何も変わらない。ならば、自分からたくさん行動すればいい。たくさん行動すれば気づいたときにはきつと周りも変わるだろう。少しでも何度も何度もかさねればいずれ山のように高くなり、もう一歩先へ進むことができる。そう考えてみたら、最初の自然や他の事もいつの間にかできてくると思う。

私達が一歩、また一歩と先に進めばきつと今まで以上に自然が豊かになり、たくさんの人が救われる。そのためにまずは、私の思いえがく人々の支え合える町をつくるのが大事だと思う。相手にとっての自分の価値観が少しでも良くなるように、心の底から相手を大切に思える人に私はなろうと思う。福島市民全員がそうなるよう一生懸命努力したい。

銀賞

「福島ofきれいなまちづくり」

福島市立松陵中学校

熊坂 好織

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という条文を見て思いうかんだものは、さくらやめがね橋です。

私は、花の種類の中で一番さくらが好きです。小さいころ、初めてさくらを見て最初に思ったことは、きれいで一つひとつ支え合いながら咲いているということです。さくらは、遠くから見ると、大きな花が細かく咲いているように見えますが、近くから見ると、小さい花が一つひとつ他のさくらの花と一緒になっていることがわかります。他にも、さくらは開花する時期が異なります。さくらには、温かさが必要ですが、寒さも必要なのです。それによって、夏に咲いたり、冬に咲いたりバラバラです。この二つから分かることは、自分だけではできないことがたくさんあることです。さくらのように、小さな花が一つひ

とつ他のさくらの花と一緒にになり、支え合うことが大切だと思いました。

めがね橋は、私の帰り道の途中の所にある私の身近な物です。そのめがね橋は昔から建ててあり、私がここに来る前にもあり、まだもともとそんなに古くなくてすごいと思いました。めがね橋が古くなくてもまだ丈夫でいられる理由は、近所の人や地域の人たちの心がけやきづいたらごみを拾うなどの活動があるからだと思っています。だからきれいでいつまでも丈夫な橋になるのだと思います。それに、川にはこいがおよいでいたり、かもがおよいでいることもあります。しかし、その近くにゴミ捨て場のような所があるため、どうしてもゴミが川の中にしずんでしまうことがあります。それで、地域の人はゴミを拾ったり捨てないよう心がける取り組みを行っているのです。このような地域の人の活動によって、めがね橋は、きれいでいつまでも古くならない橋になっているのです。

ですから私も自分にでもできるような活動に積極的に取り組もうと思いました。最

近も川が汚くならないように、せんざいのつける量を減らしたり、自然を大切に植物を育てたり、など地域の行事にも参加しました。それ以外にも、学校行事で交流会があり、小学校に行き、本の紹介を行い、交流を深めようと委員会で協力して行いました。

私もこの町の一人として、そらやみずを大切にし、きれいなまちを守るための活動をしていきたいです。そのために今、むだなゴミや資源をよごすようなことはしないような取り組みをしています。例えば、いらなくなった物をもう一度使えるようにリサイクルに出したり、自分で身近な物で使えるようにアレンジしたりと、日々の活動に力を入れて過ごしています。これからも持続していきたいです。

銅賞

「小さな親切」

福島市立福島第二中学校

佐々木 涼帆

私は福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまち」について考えました。どのような行動が「親切で愛情あふれるまち」につながるか想像した時、私は小学校六年生の時に参加したボランティアを思い出しました。

私が参加したのは、就学前健診の手伝いでした。私の仕事は、お母さん達が学校の説明を聞いている間に新生児の健診のつきそいをする事でした。新生児達はみんな緊張している様子でしたがこれからの小学校生活を楽しむようににも見えませんでした。そんな中、私の班の一人の女の子がお母さんと離れたくないと泣いていました。女の子のお母さんは心配そうにしましたが説明会にも行かなければならないので、とても困っていました。でも、結局女の子は泣きやまずお母さんと離れること

ができませんでした。そして、女の子のお母さんは説明会に行きませんでした。みんなと同じペースで健診するのが難しくなってきたので、私と女の子そして女の子のお母さんの三人でゆっくり行うことにしました。私は、どうしたら良いのか分からず、時々女の子に話しかけることしかできませんでした。そして、女の子が泣きやまないままボランティアは終わってしまいました。「何もしてあげられなかった。」と思い帰ろうとしていると先生に呼ばれました。まだ仕事が残っていたのかなと思議に思いなながらも行ってみると、そこに居たのは、あの泣いていた女の子とお母さんでした。女の子はもう泣きやんでいました。二人はわざわざ私をさがして、「ありがとうございました。」とお礼を言いに来てくれました。私は女の子に泣きやんでもらうこともお母さんに説明会に行ってもらうこともできなかったの、お礼を言いに来てくれたことにとてもおどろきました。そして、私は何もしてあげられなかったんじゃないと思うと胸が熱くなりました。

私の今回の行動は「何かしてあげたい」

という思いから始まりました。私の「何かしてあげたい」は本当に小さなことでした。ですが「ありがとう」と言われ、私の中で大きな喜びとなりました。この出来事から私は、「自分にもできることがあるんだ。」と感じました。そして、それはどんなに小さなことでもいいんだと思いました。どんなに小さなことでも救われる人は必ずいます。いろいろな悩んでも行動にうつさなければ気持ちが伝わることはありません。一人一人がかかわりを大切に、だれかのために一生懸命になって行動するところから、「親切で愛情あふれるまち」につながるっていくのだと私は思います。

これからは、私ができることを自分なりに考えて行動にうつしていきたいと思います。一人一人の小さな親切がつながっていけば、もっと愛情あふれるまちになると思っています。

銅賞

「心のつながり」

福島市立渡利中学校

高野 伊吹

市民憲章のうちの一つ、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」これを見て、なるほど、福島市って、けっこうみどりが多いのだなあ、と改めて思った。よく考えてみれば、南高の桜並木、四季折々咲きみだれる道沿いの花だん、小さい頃夢中で拾った県庁前トチの実、そして桃源郷花見山……。実はたくさん緑と花がある。その中でも、特に私のお気に入りには駅前の花時計だ。時期によっていろんな花が色とりどりに咲いていてとてもきれいだ。

でも、なんで草花が大切なんだろう。もちろん花はきれいではあるが、他のものと同じ、ないと困るようなものでもないし、なくても生きていける。それに、お世話も大変だ。そんなことを考えた。すると、「花や木は、心にゆとりを持たせてくれるんだよ。人によって様々だけど、季節の

移ろいを感じたり、きれいなものを見たりすることでほっと一息つけるでしょ。そうやって潤いと余裕があれば、人にも優しくなれるし、そうすれば場も明るくなって楽しい気分になれる。気分転換にもなるしいいことづくめじゃない？」

と母が言った。確かに、青空や緑の木々、鮮やかな花を見ると、おだやかな気持ちになれるし、元気をとりもどすことができる。きれいな物をきれいと言うなにげない一時こそが、実は一番大切なのではないかと思った。そしてこれは、「親切で愛情あふれるまち」をつくるためにも重要だと思う。

私達の住む渡利地区では、町内会と子ども会との交流が盛んである。例えばクリスマス会ではお茶を飲みながら楽しくお話ししたり、ちょっとしたゲームをしたりして、親睦を深める。そして、十二月の二十四日、二十五日になると、クリスマスカードを作ってお年寄りの方の家に届けに行く。お年寄りの方は普段どんなことを考えているのかも分かるし、そこから学ぶことも多い。人の優しさや温かさにもふれることもある。

インターネット社会とよばれる今、人々との関わりが希薄になってきつつある。そんな今だからこそ、このような交流・地域のつながりを大切にするべきだと思う。

市民憲章に出会うまではこのようなことも考えたこともなかったし、地域についても同様で私は何も住んでいる地域のことを分かってなかったなと思った。また、私たちはいろいろな人に支えられていることを再確認することができた。お祭りの太鼓を教えてくれるおじいさん、登校する時に見守ってくれる方々、そして先生や友達、家族のみんな……。その人達への感謝を忘れないことが、「すてきな町」を作っていく第一歩だと思う。私達の心の礎として、市民憲章を心に刻み、一日一日を素晴らしいものにしていきたい。

銅賞

「福島市民憲章と私たちの立子山」

福島市立立子山中学校

寺 島 貴 大

私は、今回の作文コンクールを通して、市民憲章の向こうに私の住む立子山地区を透かして見て、地区の紹介をしながら市民憲章について改めて考えてみることにした。

「空も水もきれいなみどりの立子山」：立子山地区はもとより、緑がまぶしく、風も空気もさわやかな地域である。中学校や家から見える千貫森も美しく、自然が豊かな立子山は、地区そのものが里山ともいえる。児童生徒数こそかなり減少しているものの、小中学校や保育園の周りはPTAの保護者や先生、またPTA以外の地域の大勢の人々が集まって草刈りと美化活動に精を出す。中学生も全員がその活動に積極的に参加している。これからもみんなで力を合わせ、きれいな環境を保っていけるよう取り組んでいきたい。

「教育と文化を尊び希望に輝く立子山」：立子山は盆踊りや敬老会、運動会といった行事を通じて、家庭や学校、地域が一体となり地区を挙げて私たち子どもを育んでくれる。また小中学校や保育園の学習発表会などにも地区民がみんなが集う、とても教育熱心な地区である。

「親切で愛情あふれる立子山」：立子山は、道を歩いても、行事でお会いしても、お互いが笑顔であいさつを交わす、心穏やかな優しい地域である。私も相手と地区への思いやりをいつも心がけていきたい。

「きまりを守り力を合わせて楽しく働ける立子山」：田畑が広がる立子山は、今は農業も兼業が増えてきているが、家族や親せき、近所の人々が互いに助け合い、季節の移り変わりと収穫する喜びを感じながら、畑作や米作りをしている。人口が減り、高齢化が進む中、お互いの助け合いとコミュニケーションが今後はよりいっそう、大切なことだ。

「子どもからおとしよりまで安全で健康な立子山」：地区内には国道や、国道同士

を結ぶ道路が整備されているため、スピードを出す車が通過するが、駐在所のお巡りさんや交通安全母の会、交通安全協会の皆さんなどが協力し、地区内の子どもやおとしよりの交通の安全を守っている。各行政区の集会所では、「いきいきもりん体操」に私の祖母などお年寄りが励んでいるほか、自然を感じながら地区内を走ったり、ウォーキングしたり、ペットを散歩させる人々が多い。

ずっと以前より、立子山地区では市民憲章のこれらの思いを、普段の生活からごく自然に実感した。これは、明治時代に「模範村」として政府より表彰を受けたことが示すように、立子山伝統の「地域力」のおかげである。私もこれからも勉強や部活動にはげみ、地区の皆さんの姿を見習い、背中を追いながら、地域活動にもこれまで同様に積極的に参加していきたい。

佳作

「近所の親切な人たち」

福島市立福島第一中学校

高橋紫帆

私は、二年前に鳥谷野に引っ越してきました。近所に知っている人はだれもいませんでした。

ある日私は、家のかぎを忘れて学校に行っていました。母の帰りを待つには寒すぎたので、あまり話したことはないけれど、勇気を出して隣の家のインターホンを鳴らしました。私の家の隣にはおじいさんとおばあさんが二人で暮らしています。わけを話して電話を借りました。そして、母が迎えに来るまで、家の中で待たせてもらえることになりました。初めて会ったのに、やさしく話しかけてくれたり、ジュースやお菓子をいただいたりしました。それから、会うとあいさつをしたり話しかけてくれます。私は近所に知っている人がいなかったで話しかけてもらえると、とてもうれしくなります。

私はときどき母とゴミ捨てに行きます。いつもカラスが来てゴミをねらっています。でもそこに、おじさんがいて、ゴミ捨て場をきれいにしてくれます。みんながゴミ袋を投げてあみの中に入らないとおじさんが集めて全部あみの中に入れてくれます。それに、散らかった細かいゴミも集めてきれいにしてくれます。自分が住んでいる地域をいつもきれいにしています。いなあと思いました。おじさんの名前は分かりませんが、あいさつをすると笑顔で返してくれます。

また、学校から帰るときに、町内会のおじさんやおばさんが横断歩道に立っているところを見かけました。学校から帰ってくる小学生や中学生に声をかけたり、安全に帰れるように見守っているそうです。私は帰り道に、地下道や横断歩道があります。町内会の人たちが見守っていると思うと心強いです。

引っ越してきたときは、知っている人もいなくて不安でした。しかし、このように心温かい人たちが私の周りにはたくさんいらっしゃいます。また、地域の人たちが助

け合って生活していることにも私は感動しました。

以前より、地域社会のつながりや、人の関わりが薄れていると聞きます。しかし、私の身近にはこんなすてきな方々がいらっしゃいます。地域の人たちが安心して楽しく暮らしていくためには、近所の人たちが協力して、思いやりをもって生活することが大切だと思います。中学生の私ができることは少ないですが、近くにゴミが落ちていたら拾ったり、元気に明るくあいさつをしたり、困っている人がいたら助けてあげられるようになります。

佳作

「思いやりの心」

福島市立福島第二中学校

宮川 結生

今回私は、「福島市民憲章」を初めて知りました。この市民憲章を、福島市民の人として理解し、その中の「親切で愛情あふれるまちをつくる」について、東日本大震災の経験から、考えてみたいと思いました。

今から六年前に、東日本大震災の被害にあいました。震災当時、年長だった私は体調を崩し、祖母の家にいました。突然の激しいゆれに恐怖しかなかった私のことを、祖母が守ってくれました。初めて大きな地震を経験し、不安でしたが、祖母がいたことでとても心強かったのを覚えています。

震災時、水や食料が不足し、生活に困っていました。そんな時、遠くに住む親せきが、水や食料を始めとする生活物資を送ってくれました。

私は身近な人々が助け合う姿をみて、協

力することはとても大切で、親切な行動は人を救うことができると思いました。また、今回震災について改めて話してみると、当時ガソリンが不足し、手に入れるのが困難だったという話を初めて聞きました。母は普段、マイカー通勤をしていました。ですが、ガソリンが調達できず、会社の人と協力しあい、乗りあいで通勤していたそうです。

実際に私の周りでも、このような出来事が起こっていたと知り、とても驚きました。一人だけでは乗り越えられず、困難なことがあっても、みんなで助けあえば、可能になることもたくさんあると思いました。

東日本大震災を通して、人とのつながりや親切な心、愛情をもって生活することが、どれだけ大切なことか分かりました。けっして困難なことがあっても、一人一人が協力して、困っている人がいれば、助け合える福島を築けるようにしたいです。

東日本大震災当時、幼かった私も中学生になりました。学校生活では、友達や先生、先輩たちと協力しています。家では、家族の一員として、家事の手伝いを積極的に行

うなど、常に思いやりの心を持って行動できるようになってきました。

より明るく活気ある福島にしていきたいためには、私たちのような若者の力も、役に立つと思います。それは、優しい心を持って人と接することは、難しいことではないからです。「福島市民憲章」と聞き、初めは難しそうなイメージでした。でも、実は誰でも心がけることで、実行できることです。親切な心を持ち、愛情をもって生活することで、さらに福島の人々の絆が深まると考えます。

私は、自分が生まれ育った福島が大好きです。東日本大震災という大変な出来事もありましたが、「福島市民憲章」を、日常生活の中から心がけ、努力したいです。思いやりのある行動で、福島の未来へ力を発信していきたいです。

佳作

「素敵な未来へ」

福島市立渡利中学校

菅原 温

私の家には同居している祖母がいます。祖母は明るく元気でパワフルです。近所に住んでいる人達ととても仲が良いです。なぜ祖母はそんなに人と仲が良くなれるか考えてみると三つの事が分かってきました。

一つ目は、「親切」ということです。祖母はスーパーで買い物袋が破けそうな人を見て、知り合いでもないのに声をかけ、新しい袋をあげたことがあります。その話を聞いた時は、えっ、本当に？とびっくりし、感心しました。

二つ目は、「あいさつ」です。「こんにちは」「おかえりなさい」など人とすれ違う時に祖母はあいさつをしています。時には、バス停のところにいた人に声をかけおしゃべりをしてしまうほどです。

最後の三つ目は、「感謝の気持ちを表現する」ということです。この間はこの事

がありました。私の家がゴミを捨てるゴミ捨て場には近所の方が季節のかざりをつけて下さっています。四月は造花の桜の花、五月はこのほり、六月はアジサイなどとゴミを捨てるのが楽しくなるような工夫をして下さっています。家族のみんなは、毎月毎月かざりが変わることを楽しみにしていました。そこで祖母は、そのかざりを変えている人はどのどの方か知らない人なのに感謝の手紙を晴れの日をねらって、ゴミ捨て場のネットにつけたそうです。私は、知らない人に手紙を書くなんてまだ出来ません。

前の二つは、私たちにも身近にあり、今すぐ実行できることです。「あいさつ」は、「学校内なら出来るけど、見ず知らずの人にはなあ。」と思っていました。だけど、あいさつで顔見知りの人になってしまえばいいのです。あいさつで小さな繋がりが出来て、地域の輪が広がっていくと思います。「親切」は「困っている人がいるけど。○○したらおせっかいかな。」と遠慮してしまう人も多いかも知れませんが、人に親切にすると相手も助かるし、自分も良

い気分になれると思います。三つ目の「感謝の気持ちを表現する」事は簡単な様でなかなか難しいと思います。けれど、日頃の生活の中で誰に対しても「ありがとう」と感謝の気持ちを表現する事は出来ると思います。照れくさい時もあるけれど、相手の目をしっかりと見て「ありがとう」の気持ちを表現したいと思います。

祖母は福島に生まれ、生活してきました。私も同じです。私は福島市民として祖母から学んだ、「親切でたくさんのおいさつが交わされて、ありがとうがあふれる街、福島」を築いていきたいと思いました。そして、福島に来た人に「いい街だね。」と言ってもらえるような街にしていきたいです。そして私はいつの日か祖母の様に、色々な方法で感謝の気持ちを誰にでも表現できる人になりたいです。

佳作

「福島市民憲章について」

福島市立渡利中学校

酒井 咲良

まず初めにこの作文を書く時、憲章とはどのような意味なのか気になった。

「憲章」とは、重要で根本的なことを定めたとりきめ。おきて。という意味だということが分かった。市民憲章とは、要するに「市民のおきて」ということだ。今回はせつかくの知る事ができる機会なので、自分の中の一つのモットーにできるくらい、私が考えた市民憲章に対しての考えを述べたいと思う。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」

空について。福島の空は広い。先日東京へ行く機会があった。ビルの隙間から見る空はとてもせまくてきつく感じた。普段見慣れていたから気づけなかった。福島の空は、空なのに四季がある山々のすきまから見る空は見ると悲しい事やつらい事があった

ても、心をおだやかにしてくれる。

水について。都会の水道水は飲んでもおいしく感じないそう。私は今まで水道水を何も考えずにおいしく飲むことができた。なぜだろう。福島の水がおいしい理由を調べてみた。市の条例で摺上川ダムが水源保護地域に指定され、全国でもおいしい水道水として認められている。水を大切にこれからもおいしい水を市民として守っていききたい。

みどりのまちについて。先ほど述べた空に関連するが、福島は盆地のため周りが山々にかこまれている。特に今の時期はとても暑い。ただ、私は夏がとても好きだ。山陰では涼しい風が吹き、聞こえる虫の声、山のおいがする。これが私の夏だ。この夏のイメージはこれからの人生、もし、福島から離れることになってもずっと忘れない。きっと戻りたくなる夏だ。福島では、春も秋も冬だつて山々草花から四季を感じることができ、今であれば早くキンモクセイの季節にならないかなあと次の季節が楽しみになっている。これが生きているということではないかと思う。

今回、市民憲章の一つをとりあげたが、残りの憲章もずっと守っていききたい、守っていくべきものばかりである。福島市を担っていく次の世代として心にとどめておきたい。今まで目にする機会はいくつもあったと思う。市役所や支所、公民館だつて、生活する場所のそばに市民憲章が掲げてあった。しかし、それに気づかず、読んだとしてもよく考えることはしていなかった。もったいなかったなあと思っている。これから福島市を「故郷」と胸を張って言えるよう自然や水、福島で育まれたたくさんさんの物を大切にしていきたい。

佳作

「小さな優しさから大きな愛を。」

福島市立清水中学校

渡 辺 陽 菜

これは、ある土曜日の部活帰りの話だ。

部活終了後の家への帰り道。私の家の近所で車が横転していたのだ。車の運転手は、近所に住むおじいさんだった。しかもその車は、今までに見たこともないくらい大破していて、近所の人の家のへいを壊し、庭までも入り込んでいた。びっくりして見ていると父の声が聞こえ我に返った。父が事故現場で、手信号で通行車を誘導していたのだ。あとから聞いた話だが、事故を起こしたおじいさんはあまりの急な出来事に状況を理解できず、ただ呆然としていたそうだ。その時に近所の人は、おじいさんを落ち着かせるために水を持ってきたり、おじいさんのご家族に連絡をとったり、救急車を呼んだりしていたらしい。近所の人の助けがあつておじいさんは、一刻も早く病院にたどり着くことができたのだ。更に、近

所の人だけではなく、近くの施設に通っている人も、

「何か、手伝うことはありますか？」

と、心配になってかけつけてくれていた。

私は、家に帰った後も、その日の出来事について考えていた。もしあの場面で、近所の人たちが助けてくれなかったら、どうなっていたのだろう。あの状況におかれたことで、不安やあせりなどが募ると思う。そこで、だれも助けの手をさしのべてくれず、全てを自分一人で解決しなくてはいけないとなったらどれほど不安になるだろうか。きつと、近所の人々に助けてもらい、心強かったにちがいない。

私の場合、普段は近所の人と会えば、あいさつをするというくらいで、長く話したり、みんなで集まったりということはあまりない。けれど、本当に困難な状況におちいった時には、みんな自然と、手を差し伸べてくれるのだ。私はこれを、本当の「愛」や「優しさ」なのだと思う。

このような近所付き合いは、都会ではなかなか見ることのできない光景だと思う。これこそ、「愛情のあふれる町」なのだと

私は思う。

人は、自分一人ではどうしても解決できない問題に出くわすこともある。そんなとき、周りのみんなの気遣いが、その人の心の支えになることがあるのだと思った。私たちは、さまざまな悩みや不安を抱え、生きている。トラブルに見舞われることもある。時には、周りを見渡そう。小さな親切がだれかを助けることもあるのだ。一人ひとりが気遣うことで、今よりもっと「愛にあふれた町」ができていくのだと思う。

私は、小さな優しさから生まれる大きな愛がこの町を支えているのだと思う。これからも愛情あふれる町作りを進めていきたい。これが、私の市民憲章だ。

佳作

「親切で愛情あふれるまちを

つくりましょう」

福島市立清水中学校

佐藤 葵

福島市は、子供からお年寄りまでいろんな人がいっぱいいます。みんな楽しく笑顔で暮らすことができています。が、スーパーなどに行くと、つえをついたおじいさんや、お米や土などといった重い物を持っているおばあさんなどよく見かけます。

これは私が経験した出来事です。母と二人でスーパーに買い物をして入った帰り車にもどっていると、お米を持ったおばあさんがいました。手伝ってあげようかなと思ったけど知らない人だったので声をかけにくく結局何もできずにおわってしまいました。その後も、つえをついたおじいさんに会ったり、病院で足を引きずって歩いているおばあさんに会ったりしましたが、手を貸してあげることができませんでした。唯一してあげられたのは、車いすの人に上

の方にあるペットボトルをとってあげることでした。このような体験をして気付いたことが一つあります。それは、誰も困っている人に手を貸してあげていないことです。私が声をかけなかった後周りにいろんな人がいたのに誰も助けてあげていませんでした。

私のように、手伝ってあげたいと思っていても声をかけられなかったり、他の人がやってくれるだろうと人まかせにしている人や、気付いていても気付かないふりをしている人がいると思います。このまちに足りないのは、親切な心と、ふれあいの場だと思います。私は知っている人だったら迷いなく声をかけていたと思います。なのでボランティアや、学校の行事などで、お年寄りや子供、若者などいろいろな人がふれあえる企画などあったらいいなと思います。おたがいにおたがいを助け合い、協力していけるまちになってほしいと思います。

人に迷惑をかけないだけが大切ではなく、声をかけ合い手を差しのべることが親切だと思います。そうなるように、協力す

ること、助け合うことで親切で愛情あふれる町になることをいろいろな人に分かってほしいです。

困っている人に声をかけることはすごくいいことです。でもそれはとても勇気のいることだと思います。みんなこの一歩がなかなかふみ出せずにいます。困っている人にとつては、助けてもらうのはとても嬉しいことだと思うので、この一歩をすつとふみ出せるように、お互いを知ることがとても大切だと思います。福島に足りないのはこの一歩!! ふみ出せるような企画だと思います。お互いを知る、みんな知り合いになれるしくみがあるといいと思います。

佳作

「希望にあふれた明るいまちに

するために」

福島市立北信中学校

数 又 琴 羽

東日本大震災から六年が過ぎました。六年経った今でも、多くの人々の胸に深い傷を残しています。私はこの傷を和らげるために、福島市民憲章を守ることが重要だと思いました。

初めて私が福島市民憲章を読んだ時、本当に明るいまちをつくれるのか疑問なところがありました。しかし考えてみると、市民憲章は大切だと思いました。例えば登校時に、近所の方に助けて頂きました。また、停電や断水した時も近所の方に助けて頂きました。井戸水を分けて頂いたり、懐中電灯を貸して頂いたりしました。そして、協力し、助け合う大切さを学びました。他にもたくさん協力し、多くのことを学びました。このようなことが多くの地域で行われることが、希望にあふれた明るいまちづく

りをしていく上で、最も重要になってくると考えました。この経験をしたからこそ、市民憲章の大切さに気づけたと思います。

そこで、市民憲章一つ一つに込められた意味を自分なりに考えてみました。一つめの「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」の意味は、自然豊かなまちをつくることで、心が落ちつき、清らかな心を持つことができるということだと思います。二つめの「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」の意味は、地域の文化に誇りを持つことで、地域に貢献できることが増え、地域が一体化できるということだと思います。三つめの「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」の意味は、どんな人にも優しくし、助け合うことで、多くの人の顔に笑みが浮かび、明るくなるということだと思います。四つめの「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」の意味は、きまりを守り、協力し合い、楽しく働けば、見ている人も、一緒に働いている人も笑顔になれるし、普段の生活にも生かせるということだと思います。五つめの「子どもか

らおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」の意味は、子どもからおとしよりまで安全で健康だと、毎日笑顔で過ごせ、明るいまちになるということだと思います。

私が描く、希望にあふれた明るいまちにするために、福島市民憲章はかせない存在です。そして、福島市民憲章は、よりよい福島にするために重要だと思います。福島市民憲章の他に私は、明るいあいさつを響かせることも心がけるとよいと思いました。明るいあいさつをすると、した人もされた人もすがすがしくなるから、日頃からあいさつを心がけていきたいです。福島市民憲章は、なくてはならない存在だと思います。だから、ポスターを書いたり、呼びかけたりして、福島市民憲章をたくさんの地域に広げていき、希望にあふれた明るいまちにしていきたいです。

佳作

「未来へつなぐきれいなまち」

福島市立立子山中学校

佐久間 茜 音

以前、友達からあることを聞いた。

「この水、モンドセレクション金賞なんだよ。」

モンドセレクション…。聞いたことがあった。そういえば、前、チョコアイスを食べた時に書いてあったな、と思い出した。すると、その友達が、

「確かに、とう明だし、美味しいなあ。」

と言った。思わず私も、

「本当だ。よく知っているねえ。」

と返答した。

福島市民憲章の中には、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。という憲章がある。昭和四十八年から平成二十九年までの四十三年間かかって、未来への第一歩を踏みだしたことになる。水がきれいな福島市は、人の心もきれいにうるおっていることと同じなのではないだろうか。人

も水もありのままでいてほしいと思う。

私は、旅行をする際によく飛行機に乗る。

いつも窓側の席に座り、空の旅を楽しむ。

たくさん人が乗る飛行機は、普通の飛行機

よりも高度が高い。そのため、雲が真下に見える。この景色が美しいのである。仙台

空港から乗ると、福島県の上空を飛ぶ。緑

の木々や田が自然を感じさせてくれる。この青く美しい空に似て、福島の人

は優しい。私も、他人のことを思いやり、優しい人間になれるようにしたい。

空も水もきれいなみどりのまちをつくり

ましょう…。水がなければ、生きていけない。空がなければ、遠いところへ早く行け

ない。みどりがなければ、他の動物、生き

物たちが生きていけない。この三つのものは、なくてはならないものである。日々、

私達のために水、空、みどりを守り続け、

精一杯働いてくださっている方々に感謝

し、これからも大切にしていきたい。未来

へつなぐ限らない幸せを十年先、二十年先

…へとつなげ、だれもが安心、安全の生活

ができるように、資源を大切にしていきたい。

また、水・空を大切に続け、将来は

県又は国から賞を頂けるように節水を心がけたり、むだに水を捨てたりしないように今のうちから実行するようにしたい。福島のために日々、水と空を守り、大切にしていく職員の方々に感謝したい。これからの未来へとつなぐ水・空をきれいに保つたまま、美しい福島へともつながっていくように努力をしていきたいと思う。

佳作

「福島のために私たちが

できること」

福島市立松陵中学校

菅野 慧斗

私が「福島市民憲章」に目を通したのは、今回が初めてでした。福島魅力を伝えるためにこの作文を書こうと思ったからです。その理由は、二つあります。

一つ目は、今年食べた「福島の桃」の味に感動したからです。今年の桃とても甘くおいしくて、ほっぺが落ちるくらいでした。お盆に帰省した親戚も、

「やっぱり福島の桃はおいしいね。毎年楽しみなんだよ。」

と何度もおかわりしていました。

私は、今年の夏休みに「福島県中学生リーダーズサミット」という行事に参加しました。このサミットは、県内から集まった中学生と熟議を行い、福島県の未来について意見を話し合うものです。

私の班では、福島の桃を広めたいと考え

ました。そこで出た案は、ゴミ拾い活動をし、五〇〇グラムごとに桃を一つプレゼントするというゲーム感覚で楽しめるものです。この活動でのメリットは、地域交流もでき、さらに環境も整備できるという点です。この案で福島をアピールしていこうと考えました。

二つ目は、東日本大震災が起きたことです。特に、福島県の沿岸部は被害が大きく、たくさんの方が犠牲になりました。この震災で福島に対する周りからのイメージが大きく変化しました。悲しいこと、辛いことが多い中で、得たものもありました。それは、ボランティアに来てくれる方々へのありがたみです。他県にもかかわらず、福島県のために多くの方がボランティア活動をしてくれました。今もなお、震災で苦しんでいる人のために、ずっと活動が続けて下さる多勢の方がいるのです。それは、当たり前ではなく、とても難しいことです。感謝の気持ちを忘れてはいけないと思いました。

そして震災を通して知った「復興特別税」の存在です。税というと「仕方なく払って

いる」、「本当なら払いたくない」と思う人もいるかも知れません。しかし、教科書の裏表紙にこんな言葉が書かれています。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」

これからの日本を担うのは、この私達です。そして福島から日本へ、日本から世界へと福島の魅力をもっと広められたならと思います。震災前より観光客が増え、活気あふれる自然豊かな場所になることを願っています。

中学生である私たちにできることは、限りがあります。けれど、未来のために仲間と意見を出し合い実行していく力は無限だと思っています。福島に生まれて良かったとたくさんの方が自信を持って言えるように、まずは私自身が福島の良さを一つでも多く探していこうと思いました。

佳作

「空も水も心もきれいに」

福島市立松陵中学校

布施野 由実

「福島は自然が豊かだから、この環境を守ってもっと緑を増やそう。」

これは、私が先日参加した「福島県中学生リーダーズサミット」で提案した言葉です。サミットでは、地域の課題をみつめ解決策を話し合うという活動が行われました。そして、実行により近づけるためのアクションプランも立てました。私は以前、とある地域を訪れた時に道ばたにペットボトルやお菓子の袋が落ちていたのを見て、とても悲しい気持ちになりました。そこで、この状況を防止しよりキレイな町にするためにはどうしたら良いか二つ方法を考えました。

一つ目は、環境を整えることです。キレイな町というのは「ポイ捨て禁止」という言葉は不要なくらい、環境整備がなされているところだと思ったからです。そのよう

にするには、ゴミをポイ捨てしなくても良い工夫や地域や学校など、みんなでゴミ拾いを実行すると良いと思いました。

二つ目は、緑や花などの植物を増やすことです。環境を整えて終了ではなく、その後も美しい居心地の良い町をつくるのが大切だと思ったからです。そのためには、公園の花だんや通学路に花や木を植えたり、その植物を手入れしたりすることを継続していけば良いのではと思いました。また、緑を増やすことによつて空気がきれいになるというメリットもあることと思います。

そして、水もきれいにするには日常の生活で油をふきとつてから食器を洗うことや洗ざいは必要以上に使用しないなど、水や水の中で暮らす生き物がきれいな水の中で住みやすい環境をつくつてあげること大切だと思いました。

私の家の周りには、自然が広がっています。春は田んぼに水が張り、青い空が映ります。近くの工場の方々が植えた桜なみ木が満開になります。

夏は生長した稲が一面緑色に波を打ち、

あちこちからカエルの鳴き声がひびきま

す。
秋は稲が実り安達太良山に落ちる夕日で、黄金色に輝きます。

冬は町を流れる水原川にたくさん白鳥が訪れます。また、町の中心部には土合山という小高い山があり、初夏には約五千株の紫陽花が咲き並び、町の人々を和ませてくれます。

福島市民憲章の一つに「空も水もきれいなみどりのまち」とあります。まずは自分の暮らす町をきれいにする事で、心がきれいになり思いやりも芽ばえ、子どもから老年よりまでみんなが安心して過ごせる町づくりにつながっていくと思うのです。

家族や友達、私が住む福島は「町も人々もおだやかで美しい」と全国のみなさんに自まんできるようにしていきたいです。

佳作

「市の自然を守ること」

福島市立松陵中学校

小林 美 空

私は、福島市民憲章の、「空も水もきれいなみどりのまち」「親切で愛情あふれるまち」について、深く考えることができませんでした。

私たちが今住んでいる福島市は、自然がたくさんあるまちで、市内にはきれいな川が流れています。でも、今の市内は、川岸にごみを捨てたり、木を伐採したりする現状にあります。今までとても大切にされてきた自然がなくなってしまうのではないかと、考えてしまうこともありました。地球温暖化が進んでいる中、福島市内だけでも、自然が守れたらいいと思います。東日本大震災から五年が経ち、福島市も、復興へと向かっています。その復興への第一歩は、「福島市の自然を、福島市民で守ること」だと私は考えました。もちろん、市の自然を守るのは、市民だけでなく、観光

客を始めとする、福島市を訪れる人々全てです。ですが、それでも自然を守ろうと考えない人達はたくさんいるでしょう。そのような人達には、しっかりと呼びかけをしたり、市民が自然を守る活動を行うなど、市全体で自然を守ることが大切だと思います。また、今を守るだけでなく、自然についての活性化も考えました。花や樹木を植えるなどの、活動も良いと思います。今後、このような活動が増えたら、福島市の自然を守ることができる、と思います。

もう一つは、「親切で愛情あふれるまち」についてです。私たち中学生も、地域の方に親切にして頂いています。インタビューなどの学校行事へ協力して頂いたり、小学生などは、「孫見守り隊」のみなさんに、登下校の時に、親切にされています。また、親切にされているだけでなく、私たち中学生も親切を実行しています。私は、人にあいさつをすることは、一つの親切だと考えています。なぜかという、あいさつをすると、相手はとても元気になると思ったからです。元気がない日にも、明るくあいさつをしてみると、とても元気になれます。

す。そのため、私は、人が人にあいさつをすることで、一人一人が親切になれて、愛情がたくさんあるまちをつくることができると 생각합니다。福島市の人々の力で、たくさんさんの親切が増えたらいいと思います。

今の福島市は、復興へと向かっている最中で、福島市の自然のことなどには、あまり目をむけられないのかもしれませんが、ですが、一人一人が、少しずつ活動を増やしていけば自然が守られ、復興につながるかもしれません。その一つ一つの積み重ねがこれからの福島市に大きく影響すると思います。福島市民憲章を、たくさんさんの市民に読んでもらい、これからの福島をどうしていくべきかを考える良い機会になるのではないかと思います。

「心の薬の町として」

福島市立福島第一中学校

齋藤 咲良

現在の社会では、森林破壊が進んでいる。そのことについて福島市民憲章では、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」ということがあげられている。今の福島はどうだろうか。

福島市は、空気がおいしい。空気がおいしいというのはいいことだと私は思う。何なら体の弱い人でも体に負担が少なく過ごすことができるからだ。きれいな空気をうみ出しているのは、森林などの木々たちだ。その木々たちを破壊していくことは、良いことではないと思う。土地開発も市には必要かもしれないが、心がなごまない、心身もいやされない土地開発が進んでいる町として有名にはなりたくない。福島市は、心がなごみ、心身がいやされる町、「心の薬の町」として有名になってほしいものである。

そのためには、身近なところから「きれいなみどりのまち」をつくっていくことが必要であると考ええる。だれにでも、「あきる。」や「めんどうくさい。」などと思った経験はあるだろう。あまりにも大きな事からやっていくと、いずれは続かなくなるだろうと私は思う。だから身近なところから少しずつ、コツコツと「きれいなみどりのまち」をつくっていくことが大切だ。

たとえば、洗剤をいつもはたくさん使っているけれど、流された後の水に影響はないのだろうか、と考え使う量を減らすとする。その減らした人が福島市民全員だったら、福島県民全員だったらどれだけ環境に良いだろうか。「私は良い環境になるためにできることなんてない。」と思っている人もいるだろう。でも、いろいろな面から見れば、身近なところからでもできることが山のようにあることに、気づくことができる。そこから、実行することも大切だ。

これらのことから私は、一つ提案したいことがある。それは今の現状を伝えるCMを流すことだ。世界の人々も福島市民もま

だ、環境問題について関心のない人が多いのではないかと思う。そこで、だいたいの家庭にはテレビがあるので、そのテレビを利用すればいいと考えた。しかし、番組を作るとなると、見のがす人も多い。だから、何度も流れるCMを流すことが、人々に現状を伝えることに最も有効ではないだろうか。

これからの日本は環境問題により、たいへんな目に合うかもしれない。そこで、日本を引っ張っていくリーダー的存在は、「福島県」であってほしいと思っている。その中でも、「福島市」は、心がなごむ、心身がいやされる「心の薬の町」として有名になってほしいと思う。そのためにも、福島市民全員が環境問題をしっかり心で受け止め、一人一人が自分に何ができるかを「考え」「実行」することが大切だと私は、思うのである。

「僕の大きな福島」

福島市立福島第一中学校

室 本 眞 聖

東日本大震災の時、僕は保育園の年長だった。次の日、卒園式をひかえていて、四月からの小学校生活をとて楽しみにしていた。しかし、あの日のあの震災で一変してしまった。卒園式は中止、入学式すら施行されるのかぎりぎりまでわからず、情報もなく不安な毎日だった。蛇口をひねればあたり前に出るはずの水が出なくなり、近くのスーパー、コンビニエンスストア、自動販売機すら全て売り切れになった。そんな時、僕の住んでいる町にある三軒の家には井戸があり、地域の人に無料で開放してくださったのだ。親切で愛情あふれる地域の方のおかげで、僕は水道が開通するまでの十日間を過ごすことができた。困っている時は、お互い様だと言ひ、いつもらいに行っても笑顔で水をわけてくださった。その当時二歳だった妹のためにと、オムツを

ゆずってくれた人もいた。震災の四カ月前に家を建て、引越しをしてきた僕たち家族に皆優しくしてくれた。僕はこの町が大好きになった。

あの震災をきっかけに、保養が始まり、両親共働きだった僕は週末や長期休暇の度に北海道の大沼から久米島まで保養に出かけた。テーマパークや、高層ビル、各地で楽しい商業施設があった。でも、僕はこの町が一番好きだ。自宅の部屋の窓からは吾妻山が見える。春になると雪うさがくつきりと見える。吾妻山がくつきり見える日は、天気が良いので布団を干しても大丈夫と吾妻山が教えてくれる。夏になると荒川から火花が上がるのが見える。一万発の花火は圧巻だ。秋になるとフルーツラインの梨農家が近所に自動販売機を設置していて、みずみずしい梨を徒歩一分で買いに行くことができる。丸かじりをした時は至福の時だ。冬は自宅の勝手口の階段に雪を集めそり滑りができる。どこへも行かずにこれだけの四季を満喫できる地方は、他にはない。

あの震災は皆に悲しみを与えた。しかし、

今ある日常はあたり前ではないという教訓を与えてくれたのだ。この福島 naturally 感謝し、いつまでも守っていかなければならないのだ。今こそ未来の福島のためにできることを、一人ひとりが考え実行にうつしていく時だと思う。原発のことをきっかけに世界的に有名となったこの町を、良い話題で有名にできるよう、自分達ができることを一つずつでも行っていこう。そして小さな力も集まれば必ず大きな力となる。後世へこのすばらしい福島を守り、伝えていく役割を担っていきたい。

「通学路にある『日本一』」

福島市立福島第一中学校

川崎 諒

福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という部分に関して、身近な活動を調べてみました。すると、荒川で年に二回「荒川クリーンアップ大作戦」というものが行われていることが分かりました。それをきっかけに、荒川について調べることにしました。

荒川についての話を聞かせてもらうために荒川資料室に行きました。初めに歴史について聞きました。荒川は昔からよく洪水を起こしていて、暴れ川と呼ばれていたそうです。荒川の堤防は連続しておらず、あらかじめ間に切れ目が入っています。この形の堤防は霞堤と呼ばれており、戦国時代に武田信玄が考えたそうです。堤防が連続していないことで、洪水のときに川の水を切れ目から後背の遊水池に逃がし氾濫を吸収し、被害を軽減することができました。

福島では江戸時代後期から使われているそうです。これを聞いてぼくは、昔の人は災害を防ぐためにすばらしいアイディアを思いついたものだと感じしました。

荒川は七年連続で水質日本一です。そこで何故、荒川は七年連続日本一なのか聞きました。すると、

「荒川クリーンアップ大作戦も要因だけど、川沿いに住んでいる人や、町内会の人達が、川原などでバーベキューなどをした後、ゴミを拾って川をきれいにする習慣が身についているからだ。」
と言っていました。さらに、

「川の上流と下流の高低差が大きいから水が絶えず流れていて、水を汚す要素が少ないからだ。」

とも言っていました。荒川流域には、いろいろな動植物が生息していて中にはきれいな水だけに生息するものや、絶滅危惧種に指定されているものもあります。

ぼくの通学路には、荒川があります。ぼくは今回話を聞くまで、荒川の水質が日本一だということを知りませんでした。荒川は濁って見えるので、水も汚いと思っています。

ました。だからこの話を聞いたときは、とても驚きました。

荒川を切り口にして、身近なことで少し興味をもって調べて見ると、知らないことがたくさんあり、福島市の良いところを見つけることができました。思っていた以上に福島は、自然豊かな場所でした。自然を守るためにたくさんの人が活動していることを知りました。ぼくもこの環境を次の世代に引き継ぐために、まず地域の清掃活動などに参加することからはじめようと思います。

「美しい福島を守るために」

福島市立福島第一中学校

川村 歩 毅

僕は宇宙に輝く星が大好きだ。天文台のある浄土平までは車で三十分のところにある。僕はたまに浄土平天文台に行き、星を見せてもらっている。行くと共に思うことは、福島空はきれいだなあとということだ。

また、僕が小さいころ、摺上川ダムに遊びに行ったとき、ダムの大きさに驚き、感動したことを覚えている。

そして、小学四年生の時、今度はダムに加え、浄水場にも行った。浄水場の方の話では、水をきれいにするには塩素で消毒するなどしなければならず、とても手間のかかる作業だということだった。このことを学び、水に対する意識が変わった。

また、西根ゼキにも見学に行った。昔の人の苦労のおかげで用水路がひけ、おいしいご飯が食べられるようになったのだ。昔の人に感謝しなければなあと思った。

父の話によると一九一〇年代の福島は、工場はい水や生活はい水などで、阿武隈川がひどく汚れていたそう。これを見た市民、企業、行政は阿武隈川をきれいにするために取り組みを始めた。

市民は、生活はい水を出さないよう、意識して汚い水を流さないようにしたという。

企業は、合成洗剤などの工場はい水を、きれいに流す技術を開発し、はい水をなくすようにしたそう。

行政は、下水処理場を造り、市民の生活はい水をきれいに流すようにした。

このようないろいろな人の努力のおかげで「空も水もきれいなみどりのまち」ができたのだ。

僕はこの話を聞き、福島市のきれいな空や水を守っていくためにはどうすればいいのかを考えた。

まず、空を守っていくために考えたこと、一つ目は物を無駄に買わないということだ。

服などに使われる化学繊維はもともと石

油からできており、それを焼く場で燃やすと有毒ガスが出る。これが空気を汚すのであまり買わないようにする。

二つ目は、ライトやエアコンなどのエネルギーの使う物の使用をほどほどにするということだ。ライトやエアコンは電気動く。電気は石油を燃やしてできる。石油を燃やすとガスが出る。そのガスが空気を汚すからである。

水を守っていくために考えたことは、節水することである。

僕は、歯みがきをするとき、たまにコップを使わずに水をジャーと流してみがきとがあつた。だが、水についての理解を深めていくにつれ、水は大切な資源なのだなあということを感じ始めた。水はめぐり続けているとはいえ、雨などで降った水をきれいにすることはとても大変だ。だから、節水を心がけ、美しい福島空や水を守っていきたい。

「市民憲章は実行できているのか」

福島市立福島第一中学校

岩 本 遥

福島市民憲章は、市民の幸せと、郷土の発展を願い制定されたものです。しかし、この市民憲章の内容を理解し、実行しなければ、意味がありません。私も今までは内容をよく知りませんでした。そこで、私や住んでいる地域では、定められたことを実行できているのかを振り返ってみました。

私の住んでいる地域で実行できていると思うことは、親切で愛情あふれるまちをつくる、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくる、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくる、ということだと思います。親切で愛情あふれるまちをつくると、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくる、ということが実行できていると思う理由は二つあります。

一つ目は、自分自身が学校の登下校中にいろいろな人にあいさつをすることを心が

けているからです。また、小さなことですが、おとしよりの方が歩道を歩いているときは、自転車の場合車道によけるようにしています。

二つ目は、私の通っていた小学校では、いろいろな人に親切にすることやあいさつ、おとしよりに対する態度について、たくさん教えられていたからです。だから、学校の人の多くがおとしよりとのふれあいを大切に使っています。

教育と文化を尊び希望に輝くまちづくりは、小学校の教育で、保護者の方や地域の方々が来てくださり、ものづくりや読みきかせをしていただいているので、実行されていると思います。

しかし、市民憲章の中には実行できていない内容もあります。空も水もきれいなまじりのまちづくりと、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちづくりです。力をあわせて楽しく働くや、空も水もきれいな、という点はできていると思うのですが、きまりを守る、ということについては私の地域で問題になったことがいくつかありました。

一年ほど前、地域の学童の子どもが、学童のとなりの家の駐車場で勝手に遊んだり、物をとったりするという問題が起きました。更に三年ほど前には、公園にごみが置いてあったり花だんを荒らすということも起こりました。これではみんなが楽しくくらすことができないと思います。

市民憲章は、市民の幸せと郷土の発展を願い制定されたもので、市民全員が意識して実行しないといけません。私の住んでいる地域以外でも、実行していることやできていないことがあると思います。だから一人一人が憲章についても一度考え、福島市が幸せになれるよう努力していくことが大切だと思います。

「あの時」

福島市立福島第一中学校

及川 優奈

私は小学一年生になる直前までアメリカに住んでいました。私が日本に帰って来た年、それはちょうど東日本大震災があった年で福島は津波だ、放射線だと混乱している状況でした。

その影響で小学校には少し遅れて入学することになり、知らない人ばかりだし、土地にもまだ慣れることができないしで私の中には小学生になるという楽しみ以上に大きな不安が私の中に立ちこめていました。

初めての登校日、「どんな所だろう。」「どんな人がいるかな。」とどこかワクワクしながら「入学おめでとう」という大きな文字が書かれたドアの前に立ちました。その時、私は急に恐くなってしまったのです。友達なんてできないかも知れない。全然楽しくないかも知れない。そう思いました。でも、入らない訳にはいかなので担任の

先生に半分引つ張られながら一歩、教室へ足を踏み入れました。

そこは思っていたよりもずっと明るい場所でした。

「優奈ちゃんだよな？友達になろう。」

席についてすぐ、そんな声をかけられたことを今でも鮮明に覚えています。外を見ると晴れ晴れとしたとてもきれいな青空でした。

私は、クラスみんなの優しさにととても助けられました。

その後クラスが変わっても、自分がされてうれしかったように、自分から声をかけました。一年生のあの時の経験が私の中で大きな変化のきっかけとなり、「自分から」ということが苦手だった私は少しずつ積極的に行動することができるようになりました。それは、中学生になった今でもとても役に立っています。

ですから、福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という項目を見た時に「実際にそうになっているな」と感じました。

人に親切にしてもらったり優しくしても

らったりすると、そうした方も、された方もとても温かい気持ちになります。そんな温かい気持ちを持った人がたくさんいる、親切で愛情あふれるまち。福島が、もっともっとそんな温かい愛が詰まったまちになれば福島はより良いまちになっていくと思います。

また、二〇二〇年の東京オリンピック、ソフトボール競技では日本戦が福島市で行われる予定です。日本中からたくさんの方々が来られるわけですから、「福島っていい所だったな。」「また来たいな。」と思って帰ってほしいです。そのためにも、大きなイベントを前にした今、まずは自分ができる事を見直して人に親切に、優しく接していきたいです。

「福島の大い」

福島市立福島第一中学校

松浦彩果

福島市は、福島県の北部に位置している高地に囲まれた盆地です。

夏は暑くて冬は寒い街です。今年の夏休みは初めは暑くて、真夏日ばかりでしたが八月に入ってから雨の日が多かったので、湿度が高く、冷夏でした。

でも、福島の夏といえば、まっ先に思うかぶのが、「果物」がおいしいというところだ。「さくらんぼ」「桃」「梨」「ぶどう」「りんご」といった果物が次から次へとでてきます。

私は、桃が大好きです。今年の桃は昨年よりは遅れていると直売所の人が言っていました。私の家には、毎年福島市の桃をだれよりも心まちにしている祖母がいます。お盆で母と帰省する時、いつも買って帰ります。今年も桃を買って帰ると、祖母が喜んで「やっぱり福島の桃は、甘さがちがう」

と毎回言います。私も食べてみると、本当に甘くておいしかったです。桃だけではなく、梨もおいしいし、りんごもおいしいです。私は、四季折々においしい果物が食べられることに感謝しています。

そういうおいしい果物が取れるのも、この緑、この空気、この水がもつ環境のおかげではないかと思っています。

六年前の東日本大震災の時は、私は幼稚園から小学一年生になる時でした。だから、福島の地元の野菜、果物、水、何にも食べられませんでした。その時の状況はだんだん記憶がうすれてしまつて、あまり覚えていません。しかし、食べられなかったことが悲しかったことは覚えています。それから六年間。今でも検査した物しか、いまだに食べられないけど、少しずつもどつていってきました。たくさんの人々の努力や、自然の力というものを感ずます。

さて、今年の夏も全国各地で水の災害が多くありました。台風五号がゆっくり北上していたため、雨がすごくて、川が決壊して、家がどんどん流されてく場面をテレビで見ました。頑丈な家が、あんなに簡単に

流されていく様子だったり、土砂くずれで家が倒されてしまつて、人がまきこまれてしまつたり、とてもせつなくなりました。しかし心配した台風でしたが、福島ではあまり被害もなく、すぎていつてくれたときは本当によかったと思いました。台風がくるたび、農家の方々は、果物の被害を少しするために、早く収穫したり、木を固定したりしています。

「人間・土地・食べ物・緑」それぞれの役割を果たして、住みよい環境作りだしているんだと思います。私もその一人だと大好きなこの土地ですごしていけたらと思いました。

「誇れるまち『福島市』を目指して」

福島市立福島第一中学校

齋藤 晃

もし僕が、福島市のどんな所が好きか、とたずねられたならば、「美しい自然、きれいな水、おいしい果物。」と答えるだろう。僕は小さな時から信夫山探険が大好きで、よくハイキングに行っていた。桜の咲き誇る春や、緑が深くなり虫採りした夏、栗ひろいの頃は紅葉する森、雪の残る参道を歩いた冬。思い出が次々とよみがえる。「福島市街地から目と鼻の先にこんな面白い山があるなんて」と思う。だから東日本大震災で福島原発事故のため立入り出来なくなったり、アスレチックが使用禁止になったりしたのがとても悲しかった。今でさえ、山の公園は除染中だ。しかし、事故から六年が経ったその間、皮肉な事だが、僕達はいかに信夫山だけでなく、福島市が豊かな自然に恵まれていたのかを知ることになった。残念だが、事故を無かったことには出

来ない。しかし、市民憲章の意図のように、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」と言い、行動する事は大人でなくとも出来る。

まず僕に出来ることは何か、を考えることが始まりだと思った。残念な事だが、福島市は一人当たりのゴミ排出量が日本一だそう。ゴミが多いとそれを処理する燃料も多く必要だ。技術が進歩しているとは言え、ゴミを燃やせば大気汚染の原因や温暖化を促進するような排気ガスもでるだろう。だからなるべく再利用できるものとゴミを分別することは続けたい。

空と山、森はつながっている。そこから水が生まれてくるからだ。僕が通う福島第一中学校のすぐ近くを流れる荒川は、七年連続水質日本一であり、茂庭ダムから供給される水道水はモンドセレクションで最高金賞を受賞するほど美味しい。「なぜゴミを日本一出す市の水が……」と考えると今ある山や森の豊かさという貯金で、きれいにしているように思える。本当に僕達が「福島市の自然を誇れる」と言えるためには、豊かな自然に甘えるばかりでな

く、積極的に自然を守り育てる意識を持ち行動するべきだと思った。

僕たちは、美しい自然に囲まれていること、それを疑うことなくあたり前のことと思いつてきた。今の時期たまらなく美しい桃も、福島にいるからこそぎたてをいただき味わえる。しかし、これは何らかの恵みだったのだ。だから人間の勝手な行動によって、たやすく狂ってしまふ自然の本質を、僕達は身をひきしめて考えていかなければならないと思った。

あと三年後には東京オリンピックが開催される。海外からも沢山観光客が日本に来るだろう。福島にもぜひ行ってみたいと思ってもらえるように福島的美しさ、僕等が元気に暮らしている様子を機会があれば発信し続けて行きたいと思う。

「希望に輝く福島をつくる高校生」

福島市立福島第二中学校

西 形 吉 平

七月三十日の日曜日に、福島市のこむこむ館で開催された、『High School Pitch』というイベントに参加した。このイベントは、福島県内の高校生が、力を合わせて事業を立ち上げ、東日本大震災と原発事故で大きな被害を受けた福島県を盛り上げようと活動している。そこへ、イベントに参加した一般の人たちが、活動している高校生に向けて、こうすれば良いのではないかなどといった意見を出し合うイベントである。このイベントは、始まって今回が七回目で、僕は以前、福島と南相馬で開催されたときに二回行ったことがある。

二〇一一年に起こった東日本大震災と、東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響で、福島県は風評被害が問題となっている。そこで県内の高校生は、福島県産の食

べ物はもう安全なのに、食べてくれないことを不快に思い、福島県はもう安全だというアピールをしていた。他にも、福島県内の五十九市町村の魅力などをまとめて発信したり、震災を知らない子どもたちに当時の状況を伝える絵本をつくって、小さな子どもたちにも、震災のときのことをわかってもらうようにしたりしているそうだ。

今回、このイベントに参加して僕が感じたことは、中学生の僕と高校生とは年の差があまり離れていないのに、高校生が、未来の福島について真剣に考えていることに改めて驚いたということだ。また、ところによつては、人数がわずか五人という、非常に少ないところもあった。その五人のうち四人が三年生で、来年には、一人になつてしまう。そんな中でも、未来の福島のために、やります、と、はつきり言っていた。僕は、そのプロジェクトが実現するかしないかよりも、そういったやる気の方が大切なんだなと感じた。次回も、『High School Pitch』があつたら、ぜひ参加してみたいと思う。

福島市も、市民憲章にあるように、未来

の福島が、希望に輝くまちになるように、僕が高校生になつたら、福島のために何かできることをやりたいと思う。そのプロジェクトの実現が難しいとしても、最初からあきらめてしまつては成功はしない。だから、失敗をおそれずに挑戦したい。そして、一度やると決めたことは、最後までやりぬきたい。結果的に実現しなかったとしても、やはり無理だったか、では終わらずに、何が足りなかったのかなどを考え、安易な中断はしないようにしたい。同じ福島県民として、何か少しでも福島の力になつて、福島を元気づけることができればいいなと思った。

「福島のに」

福島市立福島第二中学校

落 合 一 堯

ぼくが幼稚園の年長組の時に東日本大震災が起こりました。震災で地震が来たときは、祖母が食器棚を抑えていたことと、自分は机の下に入って揺れが収まるのを待っていたことを覚えています。その後、僕は避難することになり、小学校の六年間を東京で過ごしました。

小学校に入学した僕でしたが、自分でもよくわからないままに東京での暮らしが始まりました。家の周りは住宅や猫が多かったけれど、少し行くだけで、たくさんビルが立ち並び、電車やバス、そして人がいました。近くには中央公園という八万八千平方メートルの大きな公園があって、じゃぶじゃぶ池、大型の滑り台、アスレチックで遊びました。夏でも大きな樹木があって、家ではエアコンなしで居られなかったけれど、木陰は涼しかったです。そのせいか、

東京でも自然はたくさんあるし、良い場所だったなあと思っています。

そんな中で、ふと空を見上げるとき、福島とは違うなと感じていました。高層ビルが多かったので、かなり見上げてビルが続きます。シンボルのような都庁舎もすぐ近くにあつて目印にはなるけれど、距離の感覚がなんとなくつかめませんでした。

さらに見上げると、ようやく空。なんだか空が狭いような気がしました。そして夜になると、街が明るいので、辺りもぼんやり明るい感じで真つ暗にはなりません。星もたまにしか見たことがなかったです。

今年四月に福島に帰ってきて、夜が暗くて静かなので驚きました。最初のうち、なんだか暗くて大丈夫かなと思いつつも、空を見上げると星空が広がっていて、星がよく見えます。こんなに自分の目で星が見えるのは、ぜいたくな気持ちです。そして、朝になると、清々しい空を感じることもできます。少し見上げるとビルではなく、山が見えます。そして大きな空が広がっています。

現在、僕が住んでいる福島市の市民憲章

には、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」が最初に定められています。福島の広い空の下で毎日を過ごすことができる僕は、自然と気持ちもゆったりとしてくるのかなと思います。そうしたら「親切で愛情あふれるまちづくり」についても、ここで暮らす人たちが、ゆったりした気持ちでこの環境の恵みを受けながら過ごしたら、きっと実現できていくのだろうと思います。

僕も少しずつ福島市での暮らしに慣れ、東京の良さを感じ大切に思っているのと同じく、福島の暮らしも大切にしていきたいです。

「もっと知ろう、

もっと好きになろう」

福島市立福島第二中学校

堀 口 龍 也

福島市民憲章の作文を書こうと決めて、家族に「市民憲章って何。」と聞いてみた。まず、母が「市民が守らなければいけないことかな。」と言った。祖父は、「市民が心がけること」だった。

みんなで話し合っているうちに、今の市民憲章は何か足りないのでは、という話になってきた。それは、自分が住んでいる福島市をもっと知ろう、もっと好きになろうだ。

僕は福島市で生まれて、福島市で育った。東日本大震災の時もここにいた。だから福島市を好きだと思う。しかし「どこが好き？」と聞かれたら「自然がいっぱいで、」と言った後、考えてしまった。なぜはつきりと答えられないのだろう。そのことを、またみんなで話し合ってみた。その答えは

「福島市民なのに、自分の古里の福島市のことをよく知らないから」になった。

夏休み中、わらじまつりがあり、屋台が出ると言うので、友達と行った。ところが、場所が分からず、帰ってきてしまった。結局、祭も大わらじも見てこなかった。その話を家族にしたら、笑いながら祖父に「わらじまつりはどうして始まったか知っているか？」と質問され、僕は考えたこともなかったので、答えられなかった。「それなら」と祖父が始めた解説は次のとおりだ。

昔から二月に信夫山で「曉まいり」と言う行事があり、市民の幸せや健康を願って、長さ十二メートル、重さ二トンの大わらじを羽黒神社に奉納している。わらじは左右で一足だが、この時は大わらじ一つ、つまり片足分しか納めない。そこで、もう片方を奉納しよう、と夏に始まったのが、わらじまつりだ。

説明を聞いて「なるほど、そうなんだ。」と感心した。いっしょに聞いていた母も「知らなかった。」と言っていた。

福島県庁が建っている場所にお城があった話は、六年生の時に聞いた。だが、修学

旅行で行った会津若松に比べると、城下町という感じはほとんどしない。何だか中途半ばだ。そこで再び祖父に話をふってみた。すると、「板倉家は徳川幕府を支えた名門だ。そして幕府が倒れた戊辰戦争の時、福島市内で長州藩の世良修蔵が暗殺され、西軍の会津藩攻撃が決定的になった。つまり、ここは、歴史を動かした場所なんだ。」と、またまた得意そうな顔で解説した。

いろいろな話を聞いて、それまで知らなかったいろいろなことを知ると、「福島市はいい所だなあ。」と言う感じが強くなった。つまり知ると好きになるのだ。

「もっと福島市を知って、もっと福島市を好きになろう」。これが僕の新しい市民憲章だ。

「住みやすいまちにするために」

福島市立福島第二中学校

安部陽斗

ぼくは、夏休みに初めて、さいたままで車で出かけました。福島から高速道路で三百五十キロもあり、三時間半もかかりました。浦和インターで降りて、外環道路では、とても都会的な雰囲気を感じました。でも、一方では、空き缶や食べかけのフライドポテトなどゴミがたくさん落ちていて、びっくりました。家族みんながどうしても、誰が捨てるのか？どうしてゴミをこんなふうに道路に捨てる気持ちになってしまうのか？だれがどうやって掃除をするのか？話していて、嫌な気持ちになりました。外環道路は交通量も多くて、誰も掃除も出来なさそうなくらい危険だと分かるのに何で捨てるのか？汚いまちに住んでいて、嫌な気持ちにみんながなるのではないかと、汚いまちランキングを携帯電話で調べたと

ころぼくがおとずれたまちは、ワースト三位でした。そして、ぼくたちの住む福島県は下から四十番目で、とてもきれいだと思わなかったのです。確かに、道路に空き缶やペットボトル、食べかけのものなどが落ちていたのを見たことがあります。それはなぜだかぼくは知っています。ぼくが住む町内会の元会長さんが朝早くに道路の草を掃除しているのをよく見かけました。自分の家の敷地でもないのに、一生けん命で、しかも誰かに頼まれているわけでもないのに、すごいなと思っていました。また、ぼくの通っていた小学校のむかい側には、国道四号線が通っていて、福島競馬場があります。競馬が開催されているときには、特に競馬場からおばさんたちが、ゴミ袋とトングを持って清掃に歩いています。その袋の中にはあまりゴミは入っていませんが、たばこの吸い殻をよく拾うようでした。このように福島市では、まちをきれいにしておこうという気持ちがあつて、活動を続けてくれている会社や老人も多いのではないかと思います。だから、福島はきれいなのだと思います。

福島市民憲章に、「空も水もきれいな、みどりのまちをつくりましょう」「子どもからおとしよりまで安全で、健康なまちをつくりましょう」とあります。空き缶が走行している車のタイヤにはじかれ、誰かに当たってしまったら危険ですし、食べかけの食べ物ぐさだったら、気分が悪くなつて健康的ではいられません。福島市に住んでいるぼくは、ゴミが落ちていないのが当たり前だと思っていたけれども、いろんな市民の努力もあるのだと思いました。こうして、福島の美しさは続いて来たのだと思います。そして、これからも、ぼくたちの努力によって続けなくてはならないと思います。今は全国でも七番目に美しいまちですが、いつかは一番美しいまちにしたいと思います。

「福島を良くするために」

私達ができること」

福島市立福島第二中学校

渡 辺 遥 名

私は、この作文を書くことが福島の事を考えるきっかけにつながり、よかったと思いました。福島市民憲章を見てみると福島の良いところが思い浮かびました。福島市は木があちこちにある自然豊かなところで、家の近くにはきれいな水が流れている阿武隈川があり、全国でも有名なおいしい果物があります。また、学校では先生達がいねいに教えてくれます。きまりを守り、親切で温かい町で事故や事件も少ない安全な町だと思います。そんな場所に住んでいる私達は恵まれているなと思いました。例えば、東日本大震災の時のことです。福島の人達は問題をかかえていたり、困っている人達が多かったです。また、何日かたつと外で自由に過ごせない日が続いた。原発が起きてからは、マスクをしなけ

ればならなくて、福島のきれいな空気を吸うのも苦しかった。今、考えると悲しい出来事でした。そんな時、私の家族は近所で水やごはんがない人にごはんと井戸水を分けていました。そのお返しに、仲の良い近所の人がパンを買ってきてくれました。私は、思いやりの心を持つことが大切だと思いました。困っている時こそ、自分だけを考えて行動しないで、人とのつながりを大切にして助け合う事も大切だと知らされました。このような時も、日常生活でも、思いやりの心を持って行動すれば福島市が笑顔あふれる温かい町になると思います。

福島市民憲章の中でも「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という一文が目にとまった。福島は、木などがたくさんある自然豊かな所だと思う。しかし、最近は木が切られるというのをニュースなどでよく耳にする。私は、身近な場所から少しずつ自然が減っているなと感じます。除染やどうしても理由なら仕方ありません。たくさんの木を植えればいい。また、道路によくゴミが落ちているのを見たことがある。それを見ると、「自分達で出

したゴミなのに持ち帰らないなんてひどいなあ」と思い、とてもいやな気持ちになります。福島の自然を守るために私達ができることは、ゴミを捨てないことだと思います。当たり前ですが、ゴミが落ちていたら自分から拾えるようにしたいです。そして、ゴミを拾う人やゴミを落とさない人が増えれば、福島環境が少しでも、良くなると思います。

今の福島をもっとよくするために私達ができることは、「思いやりの心を持って行動する」と「ゴミは捨てない・見つけたら拾う」ならできると思います。小さな事も積み重なれば福島の力になると信じて、二つの事を守り、できる事からがんばりたいと思います。

「今、福島に必要なこと」

福島市立福島第二中学校

宮 本 健 吾

僕が、「福島市民憲章」の中でも、特に守っていきたいルールが二つあります。

一つ目は、「空も水もきれいな、みどりのまちをつくりましょう」というルールです。今、世界的に、二酸化炭素や森林破壊などが問題になっていますが、福島でも例外ではありません。二酸化炭素は生活していくうえで、どうしても排出してしまうものです。そこで生まれたのが、二酸化炭素排出量の少ない発電方法の再生可能エネルギーです。再生可能エネルギーは、火・水・風・太陽光などの自然の力を使って電気をつくる発電方法です。僕は、福島は再生可能エネルギーの発電力を現在以上にもっと増やすべきだと思います。

それと共に、少しでも二酸化炭素を減らしてきれいなまちをつくるためには、森林はとても大切なものだと思います。なぜか

というと森林は、二酸化炭素を酸素に変える役割をしているからです。二酸化炭素は、人が移動するときに使う車からも出てしまします。しかし、それを再生可能エネルギーだけでは十分少なくすることができません。そこで、森林の力を借りて、二酸化炭素をもっと少なくすれば、「空も水もきれいな、みどりのまちをつくりましょう」というルールを実現することができると思っています。

二つ目は、「親切で愛情あふまれるまちをつくりましょう」というルールです。今、福島でも、高齢者が多くなってきたいて、高齢者が困っているところを見かけることも多くなりました。例えば、スーパーマーケットなどに行った時に、分かりやすい表示をするなど利用しやすくしてあげることがとても大切だと思います。もし、品物の場所がわからなくて迷っている人がいたら、親切に教えてあげることも大切だと思います。

さらには、高齢者の人だけでなく、困っている人を見かけたら、親切にすることで、まち全体が安心して過ごせる、居こちの

よいまちになり、「親切で愛情あふれるまち」をつくるのが出来るのではないかと思います。

以上のことから、

一、再生可能エネルギーの発電力を増やすこと。

二、みどりを増やし、大切にすること。

三、人と人が親切にしあうこと。

この三つに、特に力を入れるべきだと思います。

そのためには、どんな小さなことでも自分から、取り組んでいきたいと思っています。

「取り戻そう、美しい福島を！」

福島市立福島第二中学校

渡 辺 舞 桜

私は小学二年生まで、青森県に住んでいました。青森は空気が新鮮で、水がきれいで、海は青々、山は緑でとても美しい所でした。私は、そんな青森が大好きでした。

でも青森から福島市へ引っ越すことになりました。それは、とてもとても悲しいことがあったからです。大好きな母が病気になってしまったのです。福島へ引っ越すことを友達に話すと、

「大丈夫。福島って、原発事故があった所でしょ。」

とみんな、心配してくれました。そして「福島でお母さんが元気になったら、青森に戻ってきてね。」

と言ってくれました。でも、友達が待っている大好きな青森へは戻れなくなっていました。

その時の福島は、二年前に原発事故があ

りました。小学生の私は全然気にしていませんでした。でも祖母は、私や姉には福島産の食べ物、水を控えていました。福島は前のような新鮮できれいな空気や水ではありません。空気は少し霞み、水はにごって、緑は黒に近い色になっています。これは、私の心の中の目で見た福島です。

原発事故は福島に住む人の安心の心を一気に吹き飛ばしてしまうような出来事でした。福島を離れてしまった人も沢山います。今も避難している人が沢山います。避難している人は、避難先でどんな思いをしているのでしょうか。私は、つらい思いをしていると思います。ニュースでは、避難先でいじめや差別にあった人たちのことを伝えていきます。そんなニュースを見ると、とても悲しい気持ちになります。

今までのきれいな空気や水、緑を元通りにするには、復興を行うことが大切だと思います。それは、私たち一人ひとりができることだと思います。

今までのようなきれいな空気、水、緑が戻ってくれば福島に住む人たちが安心して暮らせると思います。震災から七年が経と

うとしている福島は、少しずつ震災前の笑顔を取り戻せていると思います。そして、安心も取り戻せていると思います。

店では、福島の果物や野菜を沢山の人が買っています。それは福島の町の安心が少しずつ取り戻せているからだと思います。

福島市は緑が多く、緑に包まれた市です。阿武隈川には、きれいな水が流れています。福島市は復興が進むと同時に、福島市にいる人たちの安全、安心な心を取り戻していると思います。福島が少しずつでも、以前のように空も、川も、山も美しい町になれるようにそして希望に満ちた町になるように、私は頑張りたいです。

「福島市の安全で健康な町」

福島市立福島第四中学校

石 黒 智 尋

私が考える安全とは、危険がなく人が豊かに暮らせるということです。それに子どもやおとしよりもたくさんいます。

福島市には、子どもやおとしよりも安全に暮らせる設備がたくさんあります。例えばお店に行くと、二階があり階段があるところもあります。それに病院にも階段があります。そんなところには、手すりが必要です。手すりにつかみながら行くと、とても安全です。あと、エレベーターには、目が見えない人のために点字があります。どこに行けば分からない時にも点字があれば安心です。ボタンを押す時にも、高い位置と低い位置にあるので、わざわざ手を伸ばさなくても、おとしよりや子どもにはとても安全です。横断歩道には、おとしよりや子どもが安全にわたれるために、旗などがおいてあるところもあったり、目

が見えない人のために音が鳴ったりする設備もあります。そのほかには、横断歩道で、人が歩くところと自転車が通るところに分かれていることがあります。とても安全だなと思いました。おとしよりのためや、目の見えない人などが福島市で安全に暮らせるように点字ブロックも多くあると思いました。

次に健康についてです。私が考える健康は病気や精神的な心の病がないことです。そのために、食生活やしつかり運動することが大切だと思います。そうすることで体が強くなり病気にかかりやすくなると思います。精神的な心の病は、いじめやなやみ、苦しみがあると思います。いじめは、悪口、暴力などで、言われたりやられたりしたらとても心が痛むと思います。笑顔がないとやっぱみんなも笑顔にならないなと思いました。自分がされていやなことを人にやってしまうことはとてもダメなことです。でもそのことを乗り越えて、やられた人に「よくないよ」といって教えてあげることでもいいと思います。ニュースで見ていると、いじめで自殺をしてしまった

人がいるということを見ました。相手にいわれたその一言で心が気づつというニュースです。やっぱいいじめはこわいなと感じました。福島市はいいじめが多いのか分らないけどもずっと健康でいたいです。あと私はかぜをひくことが多いので気をつけたいです。それにおとしよりが、かぜをひくとなかなかおらないことが多いようなので、おとしよりも気をつけてほしいです。

子どもと、おとしよりが安全で健康でくらせるように福島市には安全な設備がどこにでもあったり、健康になるように呼びかけをすることが多いんだなと思いました。とくに私がすごいと思ったのは、安全の設備についてです。これからもっとすごいおとしよりや子どもが安全に暮らせる設備が増えるのかなと思いました。考えた人はすごいなと思いました。

「福島市民憲章について」

福島市立福島第四中学校

窪 大河

福島市民憲章とは、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。という五つの言葉のことです。ぼくは、この憲章は、すごくいい物だと思いました。そして、ぼくの意見ですが、まず一つ目です。空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。についてですが、環境を大事にすることは良い事だと思えます。ぼくも学校では環境委員なので、がんばって空も水もきれいなみどりのまちづくりにがんばりたいです。二つ目の教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。ですがしっかりと教育をし、文化

も学んでいくことは良い事だと思えます。子どもがしっかりと希望を持てるようにするのは、とてもいいことだと思います。ぼくもしっかりと教育と文化を尊び希望を持てるようにがんばりたいです。三つ目は、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。ですが、これも良いことです。一人一人が親切でやさしい対応をすることで、家族だったら愛情がわいたり、友達なら感謝の気持ちも出てくるので、ぼくも、親切で愛情あふれるまちを目指していきたいです。四つ目は、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。ですが、これも良い事だと思います。きまりをしっかりと守れば、安全に過ごせるし、力を合わせれば仲も良くなるので良いことだと思います。ぼくも、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくれるように努力をしていきたいです。最後の五つ目は、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。ですが、やはり、これは素晴らしいものだと思います。子どもからおとしよりまで安全で健康に過ごすことができれば、自然とたくさんの人と

仲良くなることができるとぼくは思います。健康に過ごすという事は、ケガなどをしていないように、笑顔で遊べたりできることなので良いものだと思います。なのでぼくも、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちづくりをしていきたいです。

ここまでぼくが書いてきて、最後に思ったことは、この福島市民憲章を市民全員が守れるようになったらいいなということです。やはり、何もしなければ、何も起こらないし、憲章を守る努力をすれば、自分も周りの人も笑顔になれるとぼくは思います。この五つのきまりを守っていけば福島市はよりよい市へとなっていくと思います。なのでそのためにも、きれいなまちづくり、希望輝くまちづくり、親切なまちづくり、楽しく働けるまちづくり、安全なまちづくりをがんばりたいです。

「環境をくずさないために、

できること。」

福島市立福島第四中学校

安 齋 亮 斗

福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」というこのことについて僕は、三つのことを考えました。

まず一つ目は、空についてです。今の空は、工場から出るけむりや車から出る排気ガスなどでも汚いです。こんな汚い空をきれいにするためにできることは、植物を増やすことです。植物は、光合成を行い二酸化炭素を取り込んでくれます。つまり、空をきれいにするため空気中の二酸化炭素から減らしていくことが空をきれいにすることにつながると 생각합니다。

二つ目は、水についてです。人の体の約六十%は水だそうです。体の半分以上も水をふくむ人間が汚い水を飲み続けて健康でいられるとは思いません。そこで水をきれ

いにすることは、私達にはできませんが、水を節水することはできます。節水することは、とても簡単なことです。つかわない時は水をとめる。シャワーはだしっぱなしにしないなど一つ一つ考えて行動することが節水につながり節水することが汚い水を余分にださないことになるので、きれいな水をつかえるようになると思います。

三つ目は、みどりのまちをつくることです。みどりのまちに僕が必要だと思うのは、たくさん花です。たくさん花がある町は、とてもきれいに見えることと町の雰囲気を変えらると思います。なので僕は、この町に花畑があると、より良い町になると思います。

次に福島市民憲章の「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」ということについて二つ思ったことがあります。

一つ目は、人々が安全にくらすためにどうすればよいからです。そもそも安全とはどのようなことです。一、安全とは危険を考えること。二、そもそも安全は存在しない。本来存在するのは危険である。三、安

全な状態とは危険を除去または制御し、その対策機能が維持されている特殊の状態である。ということなので、人々は、自分が自分のことをどのような状態でも守らなくてはならないと思います。

二つ目は、健康でいるということです。健康でいるためには、良い物を食べ、運動をして、しっかりねて、コミュニケーションをとることが大切だと思います。人とコミュニケーションをとるということは、自分が健康であると分かることだけでなくいろいろ気づけると 思います。

最後に、空も水もきれいでみどりのまちをつくり安全で健康に過ごすには、いろいろなことをやらなくては いけません。僕たちはいまできることから少しずつ実行に移すことが福島市民憲章につながり、より良い町になっていく と思います。

「より良い町を作っていこう」

福島市立福島第四中学校

金子 凌

ぼくは、小さい頃から父の転勤で七回引越しをしてきました。しかし、中学に入学するのを機に、両親の故郷である福島市に戻って来ました。今までぼくは、福島県外で過ごしていて、福島市に引越してくるまで福島市のことはあまり知りませんでした。しかし、福島市で暮らすようになり、新聞を読んだり情報番組を見たりする中で福島市の良さを知ることができました。

まず一つ目は、食べ物です。特にたくさん野菜や果物が作られていることを知りました。多くの家の食卓には、福島の野菜を使った料理が毎日並びます。季節を通してたくさん農作物が取れるのは福島市が自然豊かだからこそだと思います。

二つ目は、福島市の町並みです。福島市の中心にある信天山は、毎日近くで見ることが出来ます。電車が走っていたり、新幹

線が見えたり、緑が多く花がたくさん咲いていたり、鳥の声も多く聞こえてきます。そんな町並みを感じながら毎朝気持ち良く登校することができています。

そんな朝、ぼくは、散歩をしているお年寄りやジョギングをしている夫婦を見かけることがあります。きっと健康のために運動をしているのだと思うのですが、その横を車や自転車が次から次へと速度を上げながら走っていきます。スピードを落とすことなく歩行者の横を走っているのを見かけた時は危ないと思うし、ぼく自身がヒヤリとしたこともあります。自転車のマナーは特に気になります。歩道が少し広くなっている所では、歩行者ゆうせんではなく自転車がスピードを出しながら走っていきま

す。その勢いにびっくりしているお年寄りやこわくてはじによって自転車が通りすぎるのを待っている低学年の小学生の姿を見たときはとても悲しい気持ちになります。

福島市は自然が豊かで食べ物もおしく、とてもきれいな町並みを持っているのに、そこに暮らす人々がそのすばらしさに気付かないあたり前の事になっているとし

たらとても残念だし、もう一度そのことを考えてみて欲しいなと思います。また、暮らしている人々全員が思いやりの心を持って暮らすことができれば、安全で安心した町になると思います。

福島市の一員になったぼくは、これから福島市の良い所をたくさん見つけながら思いやりの心を忘れずに暮らしていきたいと思っています。

「輝く町をつくるのは」

福島市立福島第四中学校

金子 直央

私は、福島市民憲章を小さい頃から知っていたが、地域のボランティアなどにも興味を示さず、ただただひたすらに自分のやりたい事をやっていた。自ら手伝いに行ったりという事を今までたくさんやってきただろうか？実際に自らの力で自らの意志で地域を活性化しようとしてきただろうか？

そんな今までの自分を変えようと思った。そこで福島市民憲章の「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」という文章について考えてみたい。これからどんな教育方針で子供を育み、次世代を担う子供達をつくっていくかが大事だと思った。また、福島の文化をどう守ってどう伝えるかも大事な事だと思う。例えば、昨年、荒川が日本一水質の良い河川として選ばれた。この様に、自然豊かな歴史ある福島として文化を守っていく事もできる。他にも

信夫山の歴史や吾妻山の歴史などを文化として守る事もできる。また、自然だけでなく、福島競馬場や聖ミカエル教会の二百年以上の歴史と格式を受け継ぐ聖アンナ教会があるアンナガーデンや岩谷観音などの建造、建築物の文化として守る事もできる。また、他県との交流を深める事によって災害発生時少しでも他県が興味、関心が出てより国としての結束力、早急な対応力上がる事につながる。そのためにも福島市の教育方針、文化をもっと大切にしたいと思った。

今、福島市民憲章で福島市の形を描いている中一つの文章が実現し始めている。それは「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という文章だと思う。一つ、水質が良い荒川。これからも水質の良い荒川として保つには、福島市民達でボランティアに積極的に参加する事がカギとなると思う。またフルーツラインや吾妻小富士に幕滝や鎌沼などの自然環境に恵まれている町でもあります。ですが「空」という事を私は心の問題や毎日の生活状況ととらえました。最近はいじめが四月の頃より減っ

てると思いますがいじめがある事をもって問題視している。だが、今私に通っている、第四中学校では、いじめゼロ宣言というものをやっている。いじめゼロ宣言では、学級で約三つのルールを決めクラス全員で守っていくものだ。だが、実際にいじめをしている人はいないと思うが本当の所はどうなのかは知らない。でも、確実にいじめをしている人の心は黒だと思う。

最後に、誰がどのように福島市のために行動するかはどんな事でもいい。とにかく、人のために人事を尽くす事がスタートだと思う。私もこれからはもっと喜ばれる事業しまれる事をしていきたい。それが福島の活性化につながるから。

「福島市民憲章」

福島市立福島第四中学校

高 岩 香 那

「福島市民憲章」とは、福島市民すべての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るい住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして昭和四十八年に制定されたものです。五つの項目があり、一つ目は、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。福島市は、周りを見渡すと山に囲まれています。しかし、現在は地球温暖化問題が発生していて、空気が汚染されてしまっています。だから、一人一人が余分な二酸化炭素を排出しないように意識して生活することが大切だと思います。二つ目は、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。福島市の文化財は、民家園や宮畑遺跡（じょーもびあ宮畑）などが登録されています。私も学校の見学学習やイベントで足を運んだことがあります。細部まで丁寧につくられて

いて、とてもきれいでした。また、最近では、イスラム国の人が国の遺跡を破壊してしまう事件が起こっています。だから、福島市の受け継がれた文化財を大切にしていきたいです。三つ目は、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。私の考える親切で愛情あふれるまちは、困っている人がいたら声をかけて手助けをしたり、相手の気持ちを考えて行動する人がたくさんいることです。誰か一人でも不親切な人がいると、住みやすくなりません。どうすれば住みやすい場所になるかを一人一人が考えて行動にうつすことも必要だと思います。四つ目は、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。最近、高齢者問題が発生しているので、高齢者でも簡単にできる仕事をつくること、二〇二〇年には、労働人口の半分が人工知能できると予測されているので、人工知能と人間でそれぞれできないことを補い合うことが求められます。五つ目は、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。福島市民の健康寿命は、男性で全国平均の九十九パーセント、女性で全国平均の

百パーセントで全国平均と同程度です。また、子どもの肥満傾向児出現率が全国より高い傾向にあり、特に十一歳が一番高いです。次に、道路交通事故の現状は、ここ十年間でみると、人身事故件数と負傷者数が平成十八年、十九年をピークに減少傾向を示し、人身事故件数が九百七十七件、負傷者数が千八百八十五人になりました。この数は、「平成二十七年までに年間の二十四時間死者数を五人以下にする」という目標を達成しました。

私は、この五つの項目の達成に向けてがんばりたいと思います。特に、三つ目の親切で愛情あふれるまちをつくることに力を入れて、福島市の人は、いつも親切にくれるから好きだなと思ってもらえるようにしたいです。また、この憲章をみんなに伝えていきたいです。

「私の思う福島市民憲章の良さ」

福島市立福島第四中学校

安澤 光

私は十三年以上、この美しい福島市に住んでいます。そして、長年暮らして思うことは「なぜ福島市は住みやすい環境なのだろうか、住みやすくするための決まりがあるのか。」と思い、六年生の時に知ったものが、福島市民憲章でした。

『空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。』

人々は汚い空気を吸ったり、汚い川があったり、植物がなかったりすると、人々のストレスが増し、福島市に来る観光客も不快になってしまいます。そのためには工場から煙を出しすぎて空気を汚さないこと。洗剤の無駄使いをして水を汚さないこと。植物がよく見られる町にして、街路樹などを植えることが大切なことだと思います。私たちにもできることだと思おうので、ぜひ、その活動に貢献したいと思います。

『教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。』

教育や文化を学ぶことは立派な社会人になるための土台となります。すばらしい未来、希望に輝くまちをつくるためには、子どもたちにとつて文化を身近なものとし、教育に力を入れるまちをつくるのが大切だと思います。

『親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。』

そもそも市民が悪い人では、絶対に福島市の夢など叶うはずはありません。善い心を人々が持つことにより理想が現実となるのです。善い心としてさらに大切なもの、それこそが親切と愛情だと思います。これから先は、人に親切に、人に愛情を持つて生きていきたいと思っています。

『きまわりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。』

仕事は独りぼっちでしても、悲しいだけで、仕事の楽しさには気づかないと思います。何人もの人が助け合い、上手く仕事を成し遂げることができて、仕事が楽しいと感じるのだと思います。仕事は団結すること

意味があるので、ほくも働くことになったら、助け合うことを大切にしたいです。

『子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。』

この決まりは人のくらしにとって一番大切なことかもしれません。市の夢は市民が叶えなければいけません。危険で病気がいっぱいな福島市だったら、市民はどんなに善い人でも、どんなに夢を叶えたくても、その夢は叶いません。市民の安全と健康、これが最も大切と言っても過言ではありません。

私は福島市に生まれたので、一生心に残る故郷ですから、福島市が素晴らしい市になって欲しいので、今、大切なことは何かを考え、全力で貢献していきたいです。私は故郷の福島市がとても大好きです。

「住みやすい町づくり」

福島市立福島第四中学校

佐藤 立基

ぼくが思う住みやすい町とは五つあります。まず一つは、空も水もきれいなみどりの町です。

なぜかというと、空がきれいだと心も晴れやかになるからです。水がきれいだと、いつでも、おいしく、体にも良いからです。

二つ目は、親切で愛情あふれるまちです。理由は、最近、自殺や殺人とかがとても多いので、福島では、そういうことが起きてほしくないのです。親切で、愛情あふれるまちにしたいです。

三つ目は、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちです。

理由は、きまりは守る。そして、力をあわせて、働けば、一人ではできないこともできるし、何より、一人でやるよりみんな

でやった方が仕事楽しくなるからです。四つ目は、子どもからおとしよりまで安

全で健康なまちです。

理由は、今は、老人ホームやバリアフリーになっていくところも、多いし、子どもには学童などもあるけど、子どもやおとしよりが関わる、事件、事故をもっと無くしたいから、もっと、普段から、周りの大人達が、見ていけば、もっと減ると思いました。最後に感想です。

ぼくは、この福島市民憲章はすごいと思います。理由は三つあります。

一つは、福島市民憲章の内容です。

本当に、子どもやおとしより、自然環境、教育や文化のことを考えてるんだとこの福島市民憲章の内容を見て、改めて、思いました。

二つ目は、福島市民憲章をつくった理由です。

市民すべての幸せと郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るい住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年につくられました。この、福島市民憲章をつくった人が、とても、福島が好きなんだと思いました。でなければ、市民のために考えられるとすごいと思います

した。

三つ目はまちづくりです。

福島市民憲章の内容にもあるように、いろいろと、具体的に、まちづくりの内容があります。他にも、いろいろと町づくりをするための内容があるにも関わらず、これを選んだのは、すごいと思いました。福島市民憲章に書かれているので、町づくりに必要とされているのが、自然、教育、文化、親切心、愛情、きまりを守る、力をあわせる、楽しく働く、子どもとおとしより、安全、健康、五行の内容の、一行一行に、しっかりと意味があり、大事なところもしっかり書かれていて、すごいと思いました。福島市民憲章に書かれていることをしっかりと実現させ、これからも、福島をよりよい方向に、発展させて、いきたいです。

「福島誇り」

福島市立岳陽中学校

遠藤 清麗菜

「空も水もきれいなみどりのまち」「親切で愛情あふれるまち」この言葉は、福島市民憲章に記されています。私はこの言葉が福島市の一番の誇りだと思います。正直私は、この作文を書くまでは福島市民憲章がどういうものなのか全く知りませんでした。しかし、この作文をきっかけに、福島市民憲章は、福島市をより良い町にするために、福島市民全員で協力して作りあげていくものなのかなと思いました。

そのことを実感したのが、今から六年前に起こった東日本大震災です。私は幼稚園で激しい地震を経験しました。あの恐怖は今でも忘れられません。福島県内では、津波が起こり、たくさんの方々の命がうばわれました。また、原子力発電所が爆発し、放射性物質が拡散するなどの、悲惨な目にもありました。当時の福島市は、今のよう

な美しい町ではありませんでした。生活も、今までとは大きく変わり、数日間は、電気もつかず、水も使えませんでした。私は、電気や水の大切さ、ありがたさを改めて実感しました。外でも遊べない日が続き、つらい思いをたくさんしました。しかし、たくさんの方のつらい思いをのりこえて、現在のような、美しい福島市があるのは、地域のみなさんと協力し、ボランティア活動などを行い、福島市民全員が心を一つにしたからだと思います。あのつらかった時期にあきらめていたら、きっと現在のようない福島市はありません。あの時あきらめなかった理由は、きっと

「困っている人を助けて、笑顔にさせた

い。」

「平和で希望に満ちた町をつくりたい。」という福島市民全員の願いが強かったからだと思います。私はこのことをきっかけに、福島市は、全員で作りに上げていかないと成り立たないんだなと、思いました。

これから私は、福島市民という自覚を今まで以上に持ち、がんばりたいことが、二つあります。

一つ目は、福島市の役に立つことを自分で見つけ積極的に行うことです。今まで私が、福島市の役に立つことをしたのはボランティアで数回しかありません。なので、これからは、ボランティア以外にも自分ができることを見つけ、福島市の役に立てるよう努力していきたいです。

二つ目は、地域のみなさんと、協力して、今以上の「空も水もきれいなみどりのまち」「親切で愛情あふれるまち」を作り上げることです。そのためには、現在の美しい福島市の自然を大切に、普段から人に優しく接することが大事だと思います。この二つを福島市民一人一人がかけていけば、自然と今以上に良い町になっていくと思います。

「一人一人ができること」

福島市立岳陽中学校

渡 辺 心 晴

私は正直に言うと、地球の環境問題や節電などについて、何も思っていないませんでした。なぜかというところ、環境問題は自分一人が努力をしたところで何も変わらないと思っていたからです。

しかし、私は「一人が何かをしたところで何も変わらない」という考え方が改められました。理由は、最近よく異常気象のことや環境問題への取り組みについての報道を見かけるようになったからです。また、私が住む福島市でもずっと暑い日が続いたり、大雨が降るなどして実際に環境の変化を感じることができるようになりました。

様々な変化が起こり、このままではいけないと思って私は二つのことに心がけるようになりました。

一つ目は、節電、節水です。東日本大震災の時、電気や水が不足して大変な思いを

したことがいまだに残っています。電気が通らなくてテレビが見れず、ラジオでニュースを聞いたり、水が通らなくて給水所まで生活水をくみに行ったりしていました。その時、普段から当たり前のように使っている電気や水は本当に便利なのだと改めて実感することができました。

地震を経験してから節電、節水に心がけています。節電では、クーラーの設定温度をできるだけ二十八度にしたり、見ていないときはテレビを消したりするなどをしています。節水では、手洗いや歯みがきをするときは水を止めるなどをしています。毎日少しずつでも節電、節水をしていけば必ず成果が出ると思います。

二つ目は、エコに心がけることです。私の家では、マイバッグを使用したり、「スリーアール」でゴミを減らしたりすることに取り組んでいます。まずはマイバッグについてです。買い物ときは、マイバッグを持っていき、レジ袋を使わないようにしています。マイバッグを使うことで、資源がむだにならないのがありますが、さらに自分の好きな柄を選べるので買い物も楽し

くなります。次はスリーアールについてです。不用物を減らすという意味で、だれでも簡単に行うことができます。例えば、むだを減らすことです。鉛筆が短くなったとき、補助軸やキャップをつけて長く持つ、着られなくなった衣服は他の人にゆづったりつくり変えたりするなどの工夫ができます。他にも、ゴミをしつかり分別することでリサイクルされ、新しい物に生まれ変わります。このようにメリットがたくさんあります。

これ以上環境を悪化させないために、一人一人が意識して生活することが大切だと思います。そのためには、まずは私が、今実行していることをこれから先も続けられるようにがんばっていききたいです。

「きれいな川を守るために」

福島市立岳陽中学校

岩 倉 美 歩

私の住んでいる、福島市には、荒川という川が流れています。その荒川は二〇〇七年に北海道の尻別川などの六つの河川と共に日本一と評価された事があります。

ですが、荒川という名前の通り、暴れ川として有名でした。洪水を起こしたり、土石流などの被害を出し、土湯温泉町周辺が特に被害が多かったそうです。

でも、一九〇〇年に山腹工事を実施、一九三六年に荒川第一砂防堰堤工事などが行なわれ、今の荒川になっています。

また町内会などで、ごみ拾いや草むしりなどの、川をきれいにするボランティアなどが行なわれています。

それに、自分の家で簡単にできる川をきれいにする方法もあります。

まず、お皿を洗う時の事についてです。皿を洗う時に、お皿を一度ふいてから洗

うことで、洗剤の量も節約できますし、水の量も節約することができます。さらに排水がきれいになって、川もきれいになります。

次に、油をそのまま流さないで下さい。例えば、一度揚げ物などで使った油を、紙や、いらなくなったふきんなどで吸いとってから、洗ったりすることで、排水をきれいにするができます。

次に、家族などでBBQなどに行ったとき川にゴミなどをポイ捨てしないで下さい。

川にゴミが落ちていると、魚などが、えさなどと、かん違いして、食べてしまうかもしれません。魚が死んでしまえば、生態系がくずれて、もしかしたら、水質が悪化して、日本一の川じゃなくなってしまうです。今の日本一の川を守るために少しずつやることをやっていきましょう。たとえば、川にゴミを捨てていないとしても、風に飛ばされて川に入ってしまうこともあります。なので、川で遊ぶときは、きちんとごみを持って帰り、家で捨てましょう。

このように、荒川をきれいにする方法は、

たくさんあります。方法はたくさんあってもやらなければ川はきれいになりません。ごみ拾いや、草むしり、油をそのまま流さないこと、洗剤を節約すること、一つ一つが小さい事だけど、川には大事なことでと思います。それに、これをこつこつと続ければ、世界一にもなるかもしれません。でも荒川を世界一にするにはさつきのことが、すごく関係してくると思います。

みなさんも、身近にある川をきれいにすることから初めてみませんか。地域行事に参加すると、地域の方々とコミュニケーションが取れるかもしれません。

「きまりと協力」

福島市立岳陽中学校

谷 花 恋

「きまりを守りましょう。」みなさんも一回は、どこかで聞いたことがあるのではないのでしょうか。では、きまりとはどういうふうに想像しますか。私は、交通ルールも大切ですが、第一に日常的なきまりごとだと思っています。

夏休みが始まる前に、学年集会がありました。岳陽中では「地域に愛される」を目指しています。このことについて、先生が「岳陽の良い所は何だ?」と質問しました。私を含め四人が「あいさつ」「笑顔」と答えました。でも先生は不思議そうな顔をして、「本当にあいさつできているか?」と聞かれて考えると、廊下でされた時に話に夢中になり返さないことや相手が先にすることもありました。先生は「岳陽は落ち着かない時期があり先輩達がいさつ運動などをして、地域の人からの信頼を受けたの

に、みんなの代でなくすのか。」と言われ、私はイヤだと思い、心に火が付き、そこから、どの距離でも相手の気分が暗くてもこの人にも岳陽に恥をかかせないようないさつするように心がけています。私のモットーは、「笑顔で明るく誰よりも先に」と決めています。あいさつは、コミュニケーションをとる上でも大切です。あいさつ一つで相手の気持ちが変わる時もあります。相手と仲良くなりたい時も使えます。例えば、他人にあいさつをすると身近な話になることがあります。そこから、共感することなど出て、仲良くなる所を見たことがあります。

協力しあうことも「一人がきまりを守ればいい。」そういう考えはよくありません。学校でもゴミが自分の近くに落ちていても、見て見ぬふりや知らないふりをする所を見かけるし、私もその一人であることもあります。そのゴミは、最終的には、先生が拾ってくださったり、清掃担当の係の人が役割として片づけてくれたりする事になります。そうならないためには、みんなで注意をし合ったり、一人一人が自覚を

持って日々過ごしたり、気づいた人が拾っていれば、ゴミが落ちていることはないんだと思います。同様に交通ルールも間違っている人などがいたら、教えてあげて、教えてもらった人は不満を持たずに教えてくれた人に感謝をし、次から意識して気をつければ、ニュースの事故や命を落とす人は少なくなると思います。

事故や命に関わる大きなことを避けることは無理かもしれません。でも、私達ができることは、たくさんあります。ポスターを使い呼びかけたり、注意しあえば少しは減ると思います。「小さなことから一つずつ。」クリアしていけば、安全で楽しい福島を築けると思います。

「守れているだろうか」

福島市立岳陽中学校

下 重 英 人

僕は、福島市民憲章の「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」というところの一番目が「交通ルールを守り、安全歩行、安全運転をしましょう」という内容でした。これを見て、実際はどうなっているのかと思いました。すると、いろんな記憶がよみがえってきました。

昔、信号待ちしていたときに、車道の向こうから普通のスピードで青の信号を進もうとしていた車がありました。しかし、信号が黄色になると、ものすごい勢いで向かってきたのです。結果、信号が赤になってから二秒くらいおくらせてその道を通っていききました。これは完全に安全運転ではありません。それに事故も起きるかもしれません。他にも、とある道路では、横断歩道が赤なのに車道の方がまだ赤になっていないからなのかなんていこうもなく横断歩

道をわたる人もいました。これでは、交通ルールを守れていないので大変危険だと思います。このような状態では安全な町はつくれません。もしかしたら僕自身も交通ルールを守らなかったことがあるかもしれません。人生で一度も交通ルールを破ったことがないという人はすごいと思います。でも、知らぬ間に交通ルールを破ってしまった人も少なくないかもしれません。

では、どうすれば安全で安心な町をつくりだせるのでしょうか。答えは簡単なんじゃないかと思います。市民の一人一人が、交通安全を心がけることです。僕が紹介した人達は、交通安全を心がけていないからルールを守らなかったのだと思います。つまり、より多くの福島市民が福島市民憲章を心がけることで事故率は少しずつ減っていくと思います。でも、この福島市民憲章は、市民が心がけないと意味がなくなってしまう。安全な町をつくることは、市民の心がけにかかっているのだと思います。

まだ、交通ルールを守っていない人はたくさんいると思います。だからこそ、安全

な町を実現化させるために頑張っていく必要があるということを、経験などをふまえてよく考えることができました。市の安全な未来をつくるために頑張っていきたいです。

「子どもからおとしよりまで

安全で健康なまち」

福島市立岳陽中学校

難波 姫菜

福島市東部地区、西に阿武隈川が流れ大きなビニールハウスが何棟も立ち並び、山側へ向かうと桃やりんごの畑がたくさんある。母の実家はきゅうり農家で、自宅の前にもビニールハウスがある。祖父が作った枝豆を食べながら福島市の花火大会を曾祖母と一緒に二階のベランダで眺めるのが、我が家の夏の恒例行事となっている。母の実家へは幼い頃から月に二、三回訪問し、曾祖母や曾祖母の様子をみるのが日課になっている。曾祖母は九十代だが、毎日近所の同年代の人達とお茶飲みをしている。近隣との関わりも多く、曾祖母が体調を崩した時には近所に住む元看護師さんが血圧計を持って、走って訪問してくれたこともあった。非常に良い環境だと思う。

震災・原発事故後、福島県産の野菜は出

荷停止や風評被害で苦しんだ。祖父は、

「地震だけならなんとかなったのに原発事故はどうにもならない。」

と言って落ちこんでいた。祖父母が作った野菜を当たり前前に食べていたが、震災直後は、「なるべく遠くの野菜を買って食べるように。」と小学校入学前の私達子どもが安全なものを食べれるよう、自分達を作った野菜をすすめる事はなかったと母は言う。自信を持って作っていた野菜が、一瞬にして安全ではなくなってしまった。

小学校入学前だった私は中学生になった。市内の除染もすすみ、食品等の放射能検査も行われ安全だということがわかった。地元の野菜や果物も気にせず食べるようになっていく。やはり、地元の新鮮な野菜や果物はとてもおいしい。今も変わらず、祖父母はビニールハウスできゅうりを作っている。収穫の時期には、仕事場の物置に入ると、きゅうりの青臭いにおいがする。手に取るとききゅうりの刺が手にささる。今年は、祖父が体調を崩し入院をくり返した。祖母が一人で作ったきゅうりは、いつもと少し違った。そのことは祖母には言え

なかった。きっと本人が一番よくわかってることだと思うから。祖父が退院後、二人で作るからまっすぐなきゅうりが育つ。祖母は主に収穫することを行い、祖父が余分な葉っぱを落としながら収穫する。身長も違うので、見える部分が違うから、お互いに見落とした部分を収穫することができそう。祖父も六十代後半のため、高齢者の仲間入りをしている。周りのきゅうり農家の方もやはり同年代で高齢化が進んでいるようだ。きゅうりを作る事で収入を得て、おいしいきゅうりを作るため試行錯誤し、生きがいになっている。いつまでも元気でいてもらいたい。

福島のおいしい野菜や果物を全国の人々に安心して食べてもらえるように応援していきたい。福島で生まれ育ってきたことを誇りに思い、自信を持って生活していきたい。

「自転車に登下校する時に

注意する事」

福島市立岳陽中学校

羽 田 亜弥香

私は福島市民憲章を見た時、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましようの一番に書かれている「交通ルール」が自分は守れているのがとても気になりました。

自分は登下校する際、学校から二キロメートル以上離れているので自転車通学なのですが、小学生から分かったのは自転車は一歩間違えるだけで人の命を奪ってしまうこと、自転車は「車」の仲間であることでした。特に後の方はプリントなども配布されたりしていて、十三歳未満はヘルメットをしないと、左側を走行するなどのルールが書かれていました。そこでそのルールを守っているかといわれると怪しい所もあるのが分かりました。ヘルメットは登下校の際、学校で買ったものをつけてい

ますが、私事の時はつけていないことの方が多い気がしましたし、目的地が右側にある場合は右側を走行していたりとよく考えれば考えるほど怪しかったり守っていません。さら

さらに登下校中に気づいた事といえば、自転車同士や自転車と歩行者が接触しそうな場面が特に登校の時に多いと思いました。自分は友達と一緒に走って行っているのですが、高校生が反対側から来たり、仕事場へ行く大人が同じ方へ進んだりしているとあつという間にごちゃごちゃになってしまいます。また、歩行者も二、三列になって歩かれるともう通れなかったりします。こうしていつか本当に事故が起こってしまうかもしれないという不安が多くあります。

冒頭にもありますが、交通ルールがちゃんと守れないと憲章の「安全なまち」なんて作れないと思いました。じゃあまず自分を直していかないと他の人達に言おうとしても説得力に欠けてしまうと感じたので、一回自分が安全に走行してルールを守っていいこうと思いました。具体的に何を

していくのかと考えて、主に二つのことを心がけようと思いました。一つ目は自分の守れていないルールを守るようにして、守れているものはそのまま続けていくことです。まずはこれが出来ないと始まらないと思います。二つ目は他の人達が守れていないルールを確認していくことです。これは月一ぐらいのペースで週末あたりの統計をしてみて、地区の人達がどんなルールを守っていたりいなかったりするかをグラフにすることで目に見えて分かるようにしようと思いました。これは自分の部活に生かせる面もあるので一石二鳥かなとも思います。

これらを心がけていき、自分の自転車の登下校時や私事の時に正しい安全な「交通ルール」に注意しながら使うことで自分から変えていけるようになりたいと思います。また、妹やいとこ達にも、このことを説明していき、守ってもらえるようにしていきたいです。

「空も水もきれいなまち」

福島市立岳陽中学校

八 島 悠 人

僕は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」というのにしました。

その理由は、福島市は東日本大震災があり人々のくらしがとても苦しくなり、このとき改めて水の大切さが分かり、とてもすてきなまちだということに、気づけることができたからです。

このごろ最近、とてもゴミのポイ捨てが多くなっています。そのせいで、水も汚くなってしまう公園などの公共の場にもゴミが多くなりとても汚くなっています。さらに、ビンなどのガラスのものが、小さい子どもやおとしよりのくつなどにささったらとても危ないことだと思います。川やみんなが使う場所をしっかりときれいにしようと思わなければならぬと思います。日頃からきれいにすることを少しずつおこなってい

なければなりません。例えば、ゴミはしっかりとゴミ箱に入れ、さらに分別もする、リサイクルできる物はリサイクルをするなど、いろいろなことを考えながら行動しなければなりません。特に、分別するときもペットボトルなどの場合、キャップをはずし、ラベルをはがしてから分別しないと分別していることに、ならないと思います。

僕は今まで、ゴミの分別などをせずに捨ててしまっていることが多かったのですが、これからは注意して分別していきたいと思っています。さらに、リサイクルできるビンなどはしっかりとリサイクルボックスに入れたりしていきたいと思いました。今では、ごみの回収のボランティアに参加している人がたくさんいて、このような活動をさらに増やして参加する人も増えていってほしいと思います。

福島市は今も自然がきれいで生き物たちも元気に生きていますが、ゴミの分別や川が汚くならないように、もっと自然がきれいになって、生き物もさらに多くなっていくのがとてもいいのではないかなと思います。

このことから、僕は川や公園などにゴミが落ちていたら拾っていきたくて思いました。そうじゃないと、もし魚が間違えてえさだと思って食べたものがゴミであれば魚は、死んでしまうことがあると、その死んでしまった魚を食べる魚が減ってしまうなど、とても大変なことになってしまうからです。

僕やみんなにとって、福島市民憲章はとても大切な目標だなと思います。みんなが少しずつゴミを減らすことを意識して行動していけば、住みやすく生き物が多い福島市になります。放射線の影響でたくさんの方がいなくなってしまうが、また努力してとてもすばらしい福島市になり、たくさんの方が、もどってきてくれるといいなと思います。

「福島市民として」

福島市立岳陽中学校

菅 原 優 星

ぼくは、この福島市民憲章をどれだけ守れているか気になり、確かめてみました。

この福島市民憲章は、市民全ての幸せと郷土福島の限らない発展を願いながら、市民一人一人が心を合わせ、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年四月に制定されたものです。

ぼくが、この市民憲章を見て自分は決まりをどれだけ守っているのか疑問に思うようになりました。そして、この市民憲章を守り続けるには、どうすればよいのかと考えてみました。

最初に、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましようと言うものです。これは、主に自然環境をきれいにすることが書かれています。その中で、ぼくが守れていなかったのは家のまわりや道路、公園、河川など

をゴミのないきれいな環境にしようと言う決まりです。実は、自分は道にゴミを捨てたりはしていないけれど、道に落ちているゴミを自主的に拾ったことがないので守れているのか、守れていないのか迷っています。だから、次から、どんなゴミでもきちんと拾って、ゴミ箱に捨てられる勇氣を持ちたいです。

次に、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましようと言うものです。これは、人間としての心がまえや知識や技術と、学問や芸術などを敬い大切にしたい、希望に輝けるまちをつくろうと書かれています。自分は、大丈夫だろうと思っていましたが例えば、文化財に理解をもち、大切にしようと言う決まりでは、ぼくは、福島に文化財なんてあるのかと、馬かにしていました。しかし、調べてみると、縄文土器や民家園などがありました。それに、数多くの博物館や美術館に福島市の文化財があることに驚きました。改めて、文化財に理解をもち、大切にしたいこうと感じました。

それから、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち、親切で愛情あふれるま

ちをつくりましようと言う決まりは、全て守れていたのが安心しました。これからも守っていききたいです。

最後に、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましようと言うものです。これは、健康な体をつくりながら交通ルールを守り、安全に生活しようと言う決まりです。ぼくは、交通ルールは守れていると実感は出来ず。一方で、学校以外ではあまりスポーツはしていないけれど、これからは日常生活にスポーツを取り入れて丈夫な心と体をつくりたいです。

ぼくは、この福島市民憲章を確かめてみると、一人一人がやらなければいけない問題が数多くありました。これからも、福島市民憲章を忘れずに、自分もすばらしい福島市民になれるようにがんばりたいです。

「スマイルふくしま」

福島市立渡利中学校

鈴木幸恵

私が渡利小学校合唱部に入部していた時、毎年花見山のオープニングフェスティバルで、歌っていた曲があります。「スマイルふくしまのうた」という曲で、二〇一一年の東日本大震災と、それに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故からの復興を目指した「スマイルキャンペーン」のテーマソングとして作られたものです。福島の何気ない日々の美しさ、日々の優しさを歌った曲で、「スマイル、スマイルふくしま」のサビが、とても印象的です。一昨年からは市長さんをはじめとした市役所の合唱団の人とも一緒に歌いました。

毎年歌っていた花見山ですが、私にはとても身近なものです。家から一キロメートル位で、仲の良い友達も何人か住んでいて、桜の咲く季節にはお花見がてら遊びに行ったりもします。小学校の学習のテーマにも

取り上げられて、歴史や環境についても学びました。

山いっぱいに咲く桜や花木の美しさは、国内外の人にもよく知られていて、毎年沢山の観光客が訪れます。私はお花見に行くたび、綺麗だな、ずっとこの景色が変わらないといいな、いつも思っています。

今年は花見山のすぐそばで花木農家をしている友達の家へ遊びに行った時、畑（桜や桃等の木が沢山栽培されている）を案内して貰いました。とても広い畑をみんなでワイワイ散歩しましたが、その広さにはとても驚きました。私達が遊んでいるとなりでは、その家のお父さん、おじいさんが忙しく働いてこの美しい風景を作っているんだな、と思いました。話を聞いたら、震災の時は風評被害なのか、出荷した花を返されたり、出荷を断られたりして、最近になつてようやく前のように出荷できるようになったそうです。

花見山には毎年沢山の観光客が訪れますが、以前は交通のトラブルがよくありました。私の家の前にも無断で駐車する車があり、家から出かけられなくなった事があり

ました。最近は交通規制のおかげで少なくなりりましたが、今も勝手に畑や家の庭に入ってくる人もいます。

花見山は友達の家や、地域の人みんなで育てて来た美しい風景です。小さな木の苗が大きな木になり、美しい花が咲くまで長い時間がかかります。近くの川にはカワセミや野鳥が歌います。これからもみんなで楽しみ、共有するためにも、お互いを思いやる心とマナーが必要だと思います。一輪、一輪は小さな桜の花も、一本の木になればとても大きな存在となります。一人一人の気持ち、美しい風景となります。

先輩から歌い継いできた「スマイルふくしまのうた」のように、いつまでも小さな花の美しさ、笑顔を見つけられる福島であるようにと私はそう思っています。

「私の住むすてきな町」

福島市立渡利中学校

安 田 葉々彩

私の住む小倉寺町会は、福島市民憲章にある教育と文化を尊び、希望に輝くまちをつくる活動をしている、とても明るく活発な町です。

小倉寺育成会にはソフトボールとフットベースのチームがあります。幸いにも地域には指導してくださる方や練習する敷地があります。その敷地は市から借りたもので、地域の人全員が使用します。しかし、何もしないとただの荒地になってしまいうので、年に二回地域で草むしりをします。その草むしりにはたくさんの方々が参加し、大人も子供も一緒に草むしりをします。私はこうやって地域が一つになり物事をするのは地域活性化としてとても大事なことでいつまでも続けていきたいなと思いました。フットベースでは小学生の女子なら学年関係なくできるので、学年の違う

子と協力してやることができます。高学年の子は低学年の子に教えたり、低学年の子は教えてもらいながらやるので、交友関係がふえます。大会にも出るので、負けて悔しい思いもするけれど、指導してくださる方々が温かく見守ってくれます。おかげで私達は次に向かってもう一度がんばることが出来ます。

他にも秋に行う祭りなどがあります。小学生が太鼓を練習し、町内を練り歩き八幡神社に太鼓を奉納します。奉納するからにはきちんと叩けなければいけないので地域の方がきちんとできるように教えてくれます。基本は小学生が練り歩きますが、最後に必ず中学生が歩く区間があります。小学校を卒業しても育成会に温かく受け入れてもらえます。中学生は叩く順番が決まっていて部活が休みであれば突然行っても受け入れてくれます。高校生になるとだしをひく手伝いや小さい子供の面倒をみたり大人の手伝いをします。このお祭りは八幡神社の神事であり、これからも残していきたい文化なのです。

毎年二月に行われるお楽しみ会では、き

ねとうすを使つてもちをつく体験をさせてくれます。各家庭では中々できないので、とても貴重な経験で守り受け継がなければならぬものだと思います。

地域の活動を通して教科書にはないが生きていくために必要な人とのつながりや文化などを学ぶことができました。少子高齢化が進み、こういった地域全体での活動ができない所も増えていると聞きます。しかし私の住んでいる地域のように、大人から子供まで一体となった活動ができる地域をふやすためにはどうしたら良いのか考えていかなければならないと思いました。

私はこの地域で生活できて本当に良かったと思いました。地域の方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも積極的に活動に参加していきたいです。

「素敵な町福島」

福島市立渡利中学校

庭山千佳

福島市民憲章は、市民全ての幸せと、郷土福島の発展を願い、住みよいまちづくりを進めるために、昭和四十八年に制定されたそうです。私は、福島で生まれ育ちましたが、今回この作文を書くまで、市民憲章について全く知りませんでした。

福島市民憲章を読んで、私の住んでいる町にあてはまるものが沢山ありました。

私の住んでいる町は、緑が多く、小学校へ行く道には、花が沢山咲いていて、その花は、地域の方々の手で植えられ、大切に育てられています。

そして、公園も多く、そこでは、犬の散歩や、子供達が鬼ごっこをしたり、健康を保つためにジョギングをしたりと、幅広い年齢の方々が集い、利用しています。そのため、顔みしりになり、あいさつをかわしたりなど交流があります。公園にゴミが

落ちていれば、自分のゴミでなくとも、見つけた人が持ち帰るため、公園はいつもキレイです。

小学校では、地域のお年よりの方々と一緒に遊び、学ぶ行事が沢山ありました。ふれあい体験のつどいと言って、昔の遊びを教わりました。例えば、ちぎり絵やすみ絵、ゴム印作りなど、他にも沢山の教わりました。それから一緒に山に登り、木や花の名前を覚えてもらった事もありました。

登下校時には、パトロール隊といって、私達の安全を守るため、下校ルートを車で回ってくださったり、話をしながら、自宅近くまで送ってくださったりし、小学生から生まで高校生と皆に声をかけてくださったりし、そのおかげで私たちは、毎日安心して学校に通えました。

このように、私の住む町は、きれいな緑に囲まれた、教育と文化を尊び、親切で愛情あふれ、子どもからお年よりまで安全で健康に暮らせる素敵な町です。そして、今はっきり言えることは、地域の方々、お年よりの方々に、守られ、助けられ、今、私達子供が、楽しく安全に過ごしているとい

うことです。

私達、若い世代がすべきことは、守って頂いたことに感謝をし、それを次世代へつなぐことです。皆がおたがいに協力し、大人の方々が大切に守ってきた、この自然豊かな、そして、心温かな人たちの住む福島を守っていかなくてはいけないと、改めて強く感じました。

他の県の方々に、

「福島って素敵な所だね。」

と言って頂けるように、私達も身近なことから、小さな事をコツコツと取り組んでいこうと思います。

『だいじょうぶですか』の一言で

福島市立渡利中学校

村澤玲那

福島市民憲章には、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というものがある。私はこれを見て、子どもからお年寄りまでみんなが助け合い、笑顔で暮らしているまちをイメージした。では、このようなまちをつくるために、自分はどんなことができるのか、考えた。

私は、小学五年生のとき、総合で福祉の学習をした。そこで、老人ホームや保育園に行き、話をしたり遊んだりした。そのとき、みんなは笑顔で、本当に来て良かったと思ったのを覚えている。その経験を地域で生かすことができるのではないかと考えた。小さい子どもやお年寄りに優しく接し、親切にすることで共に助け合うことができると思う。

そして、いつでも誰にでも明るく優しくすることも大切だと思う。言葉や態度、行

動などで人を傷つけてしまうことがある。自分がどんなときでも、人には明るく優しくすれば周りの人からの優しさが、いつか自分に返ってくる。そうすれば、人と人とのつながりがより深まるのではないだろうか。

私は、「親切で愛情あふれるまち」をつくるために最も重要なことは、「実行する力」だと思う。例えば、バスでお年寄りが立っていたら、席をゆずる。やろうと思うのは簡単だ。でも、実際にその場面になったとき、行動できない人のほうが多いと思う。私もその中の一人だ。周りの目が気になってできない。そこで、

「席、どうぞ。」

と声をかければいいのに。はずかしかったり、怖かったりで、なかなかできない。

「困っている人がいれば、助け合う」

当たり前のこととわかっている。でも、実はとっても難しい。知らない人に声をかけるのも勇気がいる。でも、ちょっとした一言で喜んでくれる人がいる。だから、勇気を出して実行しようと思う。まずは、困っている人がいたら、

「だいじょうぶですか。」

と声をかけてみよう。その一言で「親切で愛情あふれるまち」への一歩を踏み出そう。

「よりよいまちづくり」

福島市立渡利中学校

吉内 心 優

私は、福島を住みよいまちにするために制定された「福島市民憲章」というものを知りませんでした。この市民憲章を知る人は、どれ位いるのでしょうか。よりよい福島、住みよいまちづくりをつくりあげるためには、まず私たち市民がこの市民憲章を知り、理解し実行する事だと思います。

五つある憲章の中で今の私から取り組める事は「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。ふだんの生活の中でも、人に優しくする様に心がけています。愛情あふれるまちづくりに大切なのは、親切な心や思いやりの心を一人一人が持つ事だと思います。ただ親切にする事は簡単な様で、難しいと感じる時もあります。自分が良いと思って相手のためにしてあげても助けにならなかったり、迷わくになったりしたら、意味がありません。人に親切にしたり優し

くしてあげる時は、相手の身になって考えて行動する事が大切だと思います。これからも、常に思いやりの心を忘れずに、自分の出来るはん囲で優しく接していきたいです。市民全員が優しい気持ちでいる事が出来れば、それが愛情あふれるまちづくりにつながるはずです。

また、心豊かにするためには、あいさつを交わす事も大切だと思います。あいさつをして人と人との交流を深め広げていけば、今よりも住みよいまちになると思います。あいさつがなければ、近所の付き合いも出来ません。そして、近所にどんな人が住んでいるのかさえ分からない様になってしまいます。だからあいさつは大切な事だと思います。

朝、学校へ行く時あいさつしてくる人がいますが、知らない人です。知らない人からの声かけに気を付けるように言われているため、あいさつを返さない人もいます。と思いますが、私はきちんと返すようにしています。知らない人とのあいさつに、ていこうを感じる人もいるかもしれません。けど、知らない人とのあいさつも気にせず出

来れば、この世の中はもっと生活しやすくなるのではないかと思います。

子どもやおとしより、体の不自由な人、そして福島市民全員が安心して暮らしていくためには、やはり市民の協力が必要だと思います。私はまだ中学生なので出来る事が限られています。だれにでも分けへだてなく困っている人がいたら迷わず助けてあげるなど、小さな事で役に立てる人でありたいです。

福島はとても良いところです。福島をおとずれた人にもそう感じてもらえるようなまちづくりを目指し、また、自分自身も緑あふれる美しい福島をこれからも愛していきたいです。

市民一人一人が福島を愛する気持ちを持つことでよりいっそう明るい福島が築かれることを願っています。

「大好きな福島」

福島市立渡利中学校

水野 哲志

僕は今まで「市民憲章」を知らなかった。しかし、作文を書くにあたり初めて読んだところ、昭和四十八年に市民の幸せを願って制定された事がわかった。その中の「親切で愛情あふれるまち」という言葉を見て思い浮かんだのが、東日本大震災での出来事である。

僕は福島の豊かな自然や春になると全国から来る人々にぎわう花見山が大好きだった。だがあの日、福島は大きく変わってしまった。

突然雪が降った寒空の下。園庭で凍えていた僕たち。そんな時、近くの食堂の人が温かいおにぎりを作ってもってきてくれた。その優しさに身体だけでなく、心も温かくなった。その他にも、聞いた話によると、弁当屋が無料で弁当を配布していたり、コンビニでは食品が無く、店員さんの自宅

にある米を炊いておにぎりを作り、提供してくれたという事である。

また、水道も止まってしまった。そんな時、井戸がある家の人が、

「家は水が出るので、良かったら使つて下さい。」

と、水を配って回ってくれた。

地域の方々も僕たちが怖がらないようにいつも通り、優しく接してくれた。

その後も、余震が続く中、小学校に入学した僕たちを、登下校の時に、見守り隊の人たちが、「おはよう、いつてらっしゃい。」「気を付けて帰ってね。」と、言ってくれたおかげで、本当は不安だった気持ちがいつか少しずつ和らいでいった。

今になって思う。あの時、どれだけの僕に優しく守られていたのだろうと。

この出来事こそが、「市民憲章」にある、「親切で愛情あふれるまち」そのものだと僕は思う。

その後、福島市は普通に生活が出来るようになってきた。校庭の使用、課外学習、水泳の授業などさまざまな事が、昔と変わらず出来るようになってきた。このような

事が出来るようになったのは、地域のさまざまな人たちが力を合わせ、活動したからだと思う。

あれから六年が過ぎ、今は以前よりも活気があつて、輝くまちになった。今でも、僕は昔とかわらず福島が大好きだ。しかし、昔は感じなかった市民の優しい思いやりにも気付いた。

地域の人たちが守ってきた「親切で愛情あふれるまち」を僕たち世代が引き継ぎ、さらに暮らしやすい福島市として次世代へ継げていこうと思う。今まで、そしてこれからも福島市民として、復興という希望の道を一步一步、歩み続けていきたい。

「自然豊かな福島市」

福島市立渡利中学校

神 尾 優 喜

僕の家のおすぐ前には山があります。今の夏は緑がたくさんあり、少しせみがうるさい時もありますが、やっぱり夏の自然を感じます。

僕が住んでいる福島市には、きれいな花見山、緑の信夫山、大きな阿武隈川がある自然が豊かな町です。

小学三年生の時は、花見山へ行きました。地域の方や県外や外国から見に来る人もいます。それだけ、色あざやかで美しい花見山が愛されているということです。

阿武隈川には、毎年さけが卵を産みに帰ってきます。鮭の稚魚の放流をして来ました。僕も参加しました。まだ小さな稚魚が四年後には大きくなってこの阿武隈川に帰って来ると思うとても楽しみです。

このように、福島にはみんなから愛されるような自然がたくさんあります。だから

こそ、この自然を守っていく活動も大切だと思います。

阿武隈川や河川などよくごみが落ちているのを見ます。ごみ拾いなどの活動にもっと積極的に参加する事が大切だと思います。みんなが参加していけばごみが減りきれいな阿武隈川が保たれると思います。それだけではなくごみをすてない事も大切だと思います。ポイすてなどむやみにせず自分で持ち帰るなどするなど一人一人がやれば、福島自然是必ずきれいで豊かなままでいられると思っています。きれいな阿武隈川に四年後に鮭達が、元気に帰って来れるようにしたいです。

福島市には、豊かできれいな自然や、おいしい果物がたくさんあります。地域の方に愛され、守られています。大事なものは、続けていくことだと思います。一人一人みんなが、自然を大切にすることを、ごみをポイすてしないなど、小さな事でも一人一人がやっていけば今の自然が豊かできれいで果物がおいしい福島がもっと良くなっていくと思います。

最近は子供達が自然に接する事が少なく

なっていると思います。僕達が、自然と接する活動、自然を守っていく活動を広めて、福島市民として、福島市の緑を守ってきたいです。

「平和なまちをつくるために」

福島市立蓬萊中学校

森 勇 介

僕が求める福島のまちは、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」です。僕は福島ของまぢがこのようなまちだったら交通事故も年に五、六回程度で窃盗や殺人などもすごく少なくまちの皆が健康にくらせるまちになると思います。

僕は今までで一度も交通事故にあったことがありません。でもあいそうになつた事があります。昔時間に遅れそうになり急いで走つていて、交差点もそのまま走つてぬけようとしたら車が走つてきて僕すれすれでとまりました。もうそのときは死ぬかと思ひました。僕は歩行者が氣を付けるのはもちろん最近ながらスマホが多くなつていますので福島市民が氣を付ければ交通事故はすごくへると思います。

最近未成年での窃盗などの事件をたまにニュースで見かけます。窃盗を犯してしま

になれると思います。

う子供は親にロクに欲しい物も買ってもらえずまじめな教育も受けずに育つて常識の無い可哀想な子供として育ってしまった人だと思ふのです。だから、本当にすぐく物を欲しそうにしていたらたまに買ひ与えてあげれば子供も少しは満足して犯罪に手を染める未成長の子供がすごく減ると思います。

僕は前述したことをじみちにやつて人々の考えに犯罪は絶対にいけないこと。犯してしまつたらそれと同じかそれ以上の見返りが返つてくるという考えが少しづつ少しづつ広まつていけばすごく平和な町になると思ふので僕が今できる事は身近な人に話すことぐらいなので僕は、学校の友達や先生、親などに話してそこからどんどん広まつていけば福島市民の皆が運転に氣をつけて交通事故が減つたり、犯罪への考え方も変われば窃盗や強盗などの事件も減り福島一平和な町として居住者を増やしていけば福島がもっと発展すると思ふのです。だから僕は、少しづつでもいいから、犯罪への考え方や交通事故への考え方をどちらもしんちようにしていけば、福島一平和な町

「一人一人が住みよいまちを

つくるために」

福島市立蓬萊中学校

鈴木友梨

私が福島市民憲章の中で、特に大切だと思ったのは「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」というものです。私が思う「親切で愛情あふれるまち」は、子供からお年よりまでみんな明るく、思いやりがあつて、人のために進んで行動できるようなまちです。

私は以前、バスをおりる時に、おばあさんが声をかけてくださったおかげで、かさを忘れずに済んだということがありました。そのおばあさんは、私のために進んで行動し、お互いが明るく、嬉しい気持ちになりました。

このように、福島が、人のために進んで行動できるまちになるためには、地域の人達との交流が必要だと思います。地域の人達との交流があれば、人に思いやりを持つ

て接することの大切さを学び、いかすことができるようになります。例えば、身近な交流の方法として、笑顔やあいさつが挙げられます。笑顔やあいさつは、する方もされる方も明るくなります。しかし、あいさつに至っては、声が小さい人、目を合わせない人、無視をする人がたくさんいます。その人達があいさつをあたり前にできるようになるために、一人一人があいさつでま

につながら、深いきづなになると思います。

「実現可能な『親切なまち』」

福島市立蓬萊中学校

丹 治 彩 音

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」この憲章を目にしたとき、私にはまちのあるイメージが浮かび上がりました。それは、子供からお年寄りまで、みんなが良い気持ちで暮らせるまちです。親切な気持ちを持って相手に接し、お互い助け合いながら暮らす、愛情あふれるまちです。

そんなまちをイメージするのも理由があります。私の住んでいる家のそばに、親切な人がいるからです。その人は、畑で野菜を作っています。トマト、カボチャ、ナス、キュウリ、トウモロコシなどです。そのたくさん作った野菜を畑の前にあるかごに入れ、他の人が自由にもらっていただけるようにしているのです。そのサービスは、私が幼稚園生の頃からありました。幼稚園から帰ってきて、毎日かごの野菜を見ました。ときどきもらって、夕食の時に家族といっ

しよにその野菜を食べました。また、何度か他の人が野菜をもらっていくのを見たことがあります。私はその野菜をもらうたび、あの畑の人はやさしいねと家族で話していました。

そんなやさしい人がいる福島市だからこそ、たまに親切でない人がいると目立ってしまいます。でも、多くの人が親切なのです。もちろん、福島市民全員がやさしく、親切な人になるのはとても難しいことです。でも、親切な人を一人でも増やすのは、難しくありません。むしろ、福島市民憲章の中で一番実現が可能なものだと思います。なぜなら、自分一人の力だけでもできることだからです。自分が少しでも他人に親切にできれば、そのときに感じる達成感をまた味わいたいと思えることができるでしょう。また、本人が他人に親切にしようと思わなくても、まわりの人の力でその人を変えることができます。本人が困っているとき、手助けしてあげればいいのです。そうすれば、本人も自然にやさしさに慣れていき、自分が他人に親切にできるようになります。そして、連鎖のようにその

ようなことができれば、人と人とのつながりが増え、絆も深まると思います。すると、災害時にも助け合うことができるかもしれません。そう考えると、福島市民憲章の中で一番実現が可能なこの憲章は、一番大事な、実現しなければいけないことだと思います。一日でも早く親切な人を増やすため、私たちがやるべきことは限られています。ここでもう一度まとめます。一つ目、まず自分が困っている人のことを助けること。二つ目は困っている人を助けていない人がいたら、その人に親切に接することの大切さを知ってもらうために、行動で示すことです。この二つで「親切で愛情あふれるまち」の実現は可能です。

「福島市民憲章について

考えたこと」

福島市立清水中学校

堀内 めりあ

私は、福島市は、福島市民憲章の、親切で愛情あふれる町だと思います。その理由は、車に乗っている人が、歩行者のめいわくにならないように走行しているからです。例えば、水たまりがあつたら水がはねないようにさけたり、ゆっくり走ったりと、水がかからないような工夫をしたり、自転車に乗っている人がいたら少しよけてあげたりと、いろいろな場面があります。また、これは子供からお年よりまで安全で健康なまちも、同時にすることができていると思います。

そして、私は母から、「今日、車を運転していた時に外も見たら、重そうな荷物を持ったおばあさんの荷物を、男の子が持ってあげていたよ。」という話を聞きました。その男の子が小さかったこともあって、母

はとてもいいことだと、感動したと言っていました。それはいいことだと分かっているのですが、私はとっさに勇気が出せず、できないと思います。

ですが、私も一度、バスの席をゆずったことがあります。私はその時、少し緊張したのを覚えています。でも、その後は、

「ありがとうございます」

といわれて、私もうれしくなりました。このようなことを思い出して、「だれにでもできる親切を自分から実行する」ということは、自分も相手も喜ぶ、素晴らしいことだと思いました。

また、「ゴミは捨てない！」などのポスターなどが多く見られることも、福島市のいいところだと思います。そうすることで、ゴミがなくなり、空も水もきれいなみどりのまちになると思います。また、川をきれいにする運動などもあり、参加することで福島市全体をきれいにする一員になれるいい機会だと思います。このようなことに参加することも豊かな人間関係と知識が身につくことにつながると 생각합니다。そして、街には花がところどころに置かれており、

街がいつそう良くなると思っています。私も、できるだけ福島が活気があり、発展するように、川の清掃にも積極的に参加してみたいと思いました。

小学校に掲示されていて見たことはあつたものの、あまり身近に感じていなかった「福島市民憲章」ですが、たしかに、一つを見ると身近なものであり、そして大切なものだと思います。これからは「福島市民憲章」を思い出し、福島市民であることに誇りを持って生活したいと思っています。

「助け合うことの大切さ」

福島市立清水中学校

青 田 咲 絵

二〇一一年に起こった東日本大震災。この震災直後、福島は他の県や国に物資をいただいたり支援していただきとても親切にしてくれました。私は、この震災で人は助け合うことが大切だということを学び、他の県や国が災害にあったら恩返ししようと思っていました。

去年の春、熊本を中心とした地域で発生した熊本地震。その震災は私にとって他人事ではありませんでした。というのは、熊本地震が発生する前の年の二学期。私と同じクラスの友人が熊本に転校してしまいました。なので尚更、友人のいる熊本が心配でした。何か自分達にやれることはないかと友達と話し合いクラスの皆に提案。相談の結果、熊本に募金・手紙・千羽鶴を送ろうという事になりました。クラスの皆と協力して全校生徒に募金を呼びかけたりしま

した。そしてそれらを熊本に送ったら熊本に転校した友人から手紙が返ってきました。その手紙を読んだ時、やって良かったなと心の底から思いました。そして自分が少しでも人の役に立てたという達成感がありました。改めて皆と一緒に頑張って努力してやったかいがあったなと思いました。

今、日本だけでなく世界でも災害にあつて苦しんでいる人、誰かの助けを求めている人、お金がなく、食べ物も食べられず病気になる人も病院に行けず困っている人がたくさんいます。これからの福島は日本だけではなく、世界にも目を向け、困っている人が一人でも減るために色々なことに取り組める市を目指すべきだと私は思います。

私は東日本大震災を経験し、国内や国外で同じように災害にあっている人がいると知ると六年前の東日本大震災を思い出します。幼かった時のこととはいえ、絶対に忘れることはできないし、これからも忘れることのできないくらい悲しい経験でした。しかし経験があるからこそできることがたくさんあると感じるし、忘れてはいけな

経験だと感じています。六年前の震災の時、他の県の方々や他の国の方々に寄りそって頂いた気持ちに伝えようと思う気持ちは、福島市民の全ての人に共通してあることだと私は思います。

福島市民憲章にもある「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」

この憲章は一人だけの努力では絶対に成し得ません。皆が相手を思いやり、いたわり、手を差し伸べ合う事が必要です。そしてその努力は、いじめを学校から無くす事にもつながると思います。私は東日本大震災で避難を続ける中で転校を三回経験しました。けれどいつも素敵な友人に恵まれました。私が周りの人々から受けた親切を今後の生活の中で少しずつでもお返ししていきたいなと思います。

「ふるさとの発展と未来」

福島市立信陵中学校

福田 光世莉

近所のおばさんは、よく私の家に旅行のおみやげや野菜などをくれる。それと同じように、私の家も近所の人におすそわけをする。私は、その雰囲気が好きだ。人と人とがつながっているような、そんな気がするから。私は思う、いつの日も「助け合う」ということが大切なんだと。三月十一日の大震災の日、あの日がその証拠だ。あの日、たくさんの人が傷ついた。傷ついたのは人だけではない。思い出の町、思い出の風景、たくさんのもも傷ついた。だが、その傷をなおそうと必死に助け合った。その助け合いこそが、今に生きている。助け合うということは、未来を生み出すということではないだろうか。私はそんな助け合いにみたこの町が大好きだ。

私の母は介護の仕事をしている。母はいつも、楽しそうに仕事の話をしてくれる。

そんな母の話を聞いて、母が仕事をしている姿やいつか自分もそんなふうに話している姿を想像すると、とても楽しい気持ちになってくる。そんな明るい未来が自分にとずれてくれるよう、今の私に出来ることは、これからの学校生活の中で、勉強はもちろん、集団生活のルールなどを一生懸命学ぶことが大事だと思った。そうして、私も大人になってふるさとの発展にこうけんできるような日々努力したいと思う。

私は、この町をもっともっと明るくたくさんの方がにぎわう町にしていきたい。だが中にはまわりの人を困らせる人がいる。私はこの前、公園でポイ捨てする人を見た。その時私はポイ捨てした人を注意することができなかった。だからこれからは、そういう人を見たら、勇気を持って注意をしたと思う。今の私がふるさとの発展にこうけんできることは、勉強や学ぶことだけではない。こういったことをすることで、より私のふるさと、福島がより、明るく、にぎやかな、住みやすい町へ発展していけるのではないだろうか。

「つなげよう、愛情あふれる町へ」

福島市立信陵中学校

濱崎 流歌

「おはよう。いつてらっしゃい。」

「おかえり。気をつけて帰るんだよ。」

いつも、優しい笑顔で、あたたかく声をかけてくれる人。どんなに暑くても、寒くても、風が強くても、雨や雪が降っても、毎日通学路に立って、私達のことを見守ってくれる人。それは、まちの見守り隊の皆さんです。

ある大雪だった日。歩くのも大変な通学路。いつも、黄色い旗を持って待っていてくれるはずの見守り隊のおじさんが、いません。

「雪がすごいから、今日はお休みかな。」
と思っていると、私達が、これから歩く通学路を、安全に歩けるようにと、雪だるまのようになって、雪かきをしてきている、おじさんの姿がありました。朝早くからそんな所にまで、気を配ってくれるおじさん

に、私は感謝の気持ちでいっぱいになりました。

また、体調が悪く、「学校へ行きたくない。」と思っていた朝、まるで、分かっていたかのように、

「大丈夫かい。気をつけていつてらっしゃい。」

と優しく声で、背中を押してくれた見守り隊のおばさん。お陰で私は、すうっと元気になって学校に行くことができました。

そして、私には、もう一つ、見守り隊のおじさんにお会いするのを、楽しみにしている事があります。それは、大きな背中、緑の帽子からはみ出した白髪や耳。三年前に亡くなった、大好きな祖父にそっくりな見守り隊のおじさんに、会うことです。

「おはよう、いつてらっしゃい。」

と、しわがれた声で優しく言ってもらうと、祖父が私に言ってくれているようで、「今日も頑張らなくては。」という気持ちになります。

こうやって小さな時から当たり前のように私達が毎日通っている通学路ですが、事故にあわず、安全に通学できているのは、

私達のまちの見守り隊の皆さんの、あたたかい優しさのお陰です。

この優しさは、地域の方々が、作り上げてきてくれた、大事な大事な宝物です。

私は、こんな親切で愛情あふれる福島市で生まれ育ったことを、誇りに思います。

今まで、地域の皆さんが力をあわせて築き上げてきた、大事な宝物を、これから私達がしっかり受け継いで、優しさにあふれ、明るく希望に満ちた福島市にしていけるよう、私も、地域に貢献していきたいと思えます。

「空も水もきれいなみどりのまち」

福島市立信陵中学校

大宮 巧

ぼくの住んでいるまちは大笹生といって小さなところですよ。そんな小さなまちでもすごいと言えることがあります。

それは、果物を取り扱っているところがものすごく多いということです。大笹生一面見たすと果物だけが目に残ってしまうぐらい多くて、しかも果物を販売しているお店もたくさんあり、部活に行く途中、買っている人を見てたくさん買っているなど思っている人を見ました。そして果物の道ということでフルーツラインという道路があります。こういった光景を見て僕はもともと果物を買に来る人やフルーツラインを通る人が多くなっているってほしいと思います。

次は、きれいなまちということですよ。ごみはまったく道路や道ばたに捨てずにしっかりと決められた場所に捨てられていてこ

のようなことがたくさん増えるように自分自身がまずしっかりとしてどんな環境を良くしていこうと思います。

最後に、自然を大切にします。大笹生は人の手でつくっている自然もあれば自然で出来る自然もあります。大笹生にはこの二つのみどりがあります。人の手をつかっているみどりはだれかに喜んでもらえるようにある。自然のみどりは動物達の生きる場所。このような広いみどりを平等に大切にしていき良さが集まるようなまちになってほしいです。

この大笹生というまちはみどりがあふれるまちとしてこれからも果物を買ってもらったり十六沼をたくさんの人に利用してもらってさらに大笹生の良さを引き出してほしいです。そして最近大笹生インターという高速道路ができたのでフルーツラインと高速道路どちらも利用してもらいたい。大笹生の魅力を引き出してほしいです。大笹生はみどりとという言葉がつく、きれいでたいせつなまちですよ。たくさんの人に、喜んでもらえる大笹生になってほしいと思っています。

「ありがとうが溢れる場所に」

福島市立信陵中学校

青 木 結 郁

「ありがとう」

この言葉は、私が一番好きな言葉だ。理由は、感謝の気持ちが素直に伝わるからである。

去年の今頃の事だった。私は、六年生までサッカーを習っていて、その日は試合だった。会場に着くと色々なチームのコーチが準備をしていた。その中には、地域の方々もいて忙しそうに動いていた。すると近くにいた別のチームの子が

「手伝います。何をすればいいですか。」と声をかけていた。始めは断っていた人も、「助かるよ。本当にありがとう。」

と何度も言って仕事を手伝ってもらっていた。その様子を見て私は、「ありがとう」という言葉は魔法みたいでいいなと思った。「ありがとう」と言った人も言われた人も嬉しいし幸せな気持ちになるからだ。

今、福島は震災から約六年がたち復興に向かっている。私は今、復興に協力してくださった方に、

「ありがとう」

という言葉が一番伝えたい。私は一年生の時震災が理由で、秋田県に避難していた。でもニュースなどで福島の事を放送していたのでまだ津波の被害にあってしまった地域では、がれきなどが残っている事やまだ仮設住宅に住んでいる方もいる事が現状であり、大変な事を知っていた。しかし県外のボランティアの方や復興を支援してくださっている方のおかげで少しずつ震災の前のように戻るのは無理でも復興してきているようだった。私は本当の事をいうと福島に帰ったら暮らしに不便があるのではと少し不安だった。しかし、実際はそんな事はなかった。人は優しく、桃などの食べ物もおいしいままだった。でも、ここまですべて福島を戻してくれたのは、色々な人の優しい心だという事を、最近知った。だから私は協力してくださった方々全員に「ありがとう」の魔法をかけたい。私が今目標にしている事は三つある。

一つ目、福島は復興に協力すること。

二つ目、素直に「ありがとう」を言うこと。

三つ目、人に「ありがとう」と言われるようになること。

私はこの目標を達成するために頑張ると共に、福島中に、「ありがとう」という言葉を広められるように、私が身近な人に「ありがとう」を自然に何か嬉しい事をしてもらった時に言えるようにしていきたい。そして、福島市を「ありがとう」で溢れる市にしていきたい。

「空と水がきれいな福島を

作るために」

福島市立信陵中学校

加藤 龍輝

ぼくは、この作文を書くまで「市民憲章」というものが、あるということもおろかどういふものなのか全く分かりませんでした。

そこで市民憲章について調べてみると、その中の一つに気になるものがありました。それは「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」というものです。

まず始めに水のきれいなまちです。どうすればいいのかと疑問に思いましたが福島の水の代表といえば阿武隈川だと考えました。

ぼくは以前阿武隈川の現状を見たことがあります。それは、母と買い物に行くときでした。橋を車でわたっているときに、車窓から下を見るとゴミが散乱している阿武隈川の姿がありました。ぼくはこのと

きなんで川に捨てるのだろうと思いました。そこでぼくは、阿武隈川に投棄されていたゴミをインターネットで調べてみました。すると、小さい物は家庭のゴミから大きい物では自転車や、冷蔵庫など様々ありました。この結果に対してぼくは、市がゴミの不法投棄はいけないという呼びかけをもっと強くするべきだと思います。ポスターなどをはると、不法投棄はいけないという意識を持ち、市民一人一人がしなくなると思います。

次に、空のきれいな町をつくるにはどうすればいいかです。空と言ってぼくがまず頭に思い浮かんだのが六年前の東日本大震災で莫大な被害が出た、放射線です。震災から六年たつて、かなり放射線の量は、減りましたが今でも、影響が出ています。例に、福島で代表的な、リンゴやももで考えてみます。

実は、ぼくの親せきが果物を作っているのですが震災後、放射線があるからとだれも買ってくれなくなつたそうです。ですが、このままでは、いけないと、ぼくの親せきは安心して食べてもらうために、売ってい

る果物のポスターに、自身の写真を載せ、どの人が作っているのか分かるような工夫をしました。それ以来買ってくれる人がとても増えたそうです。

この体験談を聞き、ぼくは、「地産地消」という言葉を思い出しました。福島物は、福島で消費するのが一番市のためになると思います。ぼくもこれからは、福島産の物をたくさん食べようと思いました。

この二つの経験から、「空も水もきれいなまち」を作るには、市民一人一人の努力が大切だと思いました。ぼくも、これから、ボランティア活動を積極的に取り組んでみようと思います。

「福島市民憲章について思うこと」

福島市立北信中学校

菅 波 遥 華

私は、福島市民憲章について思うことが二つあります。

一つ目は、福島市民憲章がある理由についてです。

私は、この福島市民憲章がある理由について、「目標にすべきものであり、課題をつくるもの」だと思います。

なぜなら、目標にしたい町はこういう町だと一般の人は思う内容だったからです。この五つのことが達成されればとても住みやすく明るい町により一層近づけると私は感じました。

そして、これらはまだ達成できていない目標ということになります。達成できているものはまだ一つありません。だからこの福島市民憲章はよりよい町をつくるための課題を産みだす親だと思えます。この親からできた市民でも育てられる私たちの子

として今、市内にたくさんいると思いました。

二つ目は、その課題の子を育てるという市民ができる活動についてです。

市民ができる課題の子を育てるという活動はどうでしょうか。今のままでは、きつとよりよい町ができるのは、先の話だと私は思います。ということは、私たちのやっている活動はまだまだ少なく、もっと充実させることは可能なことだと思います。

私たち一般市民ができる活動というのは、学生であれ、社会人であれ、少ないと思います。

しかし、

「一 親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」

というものがありますが、これは一人一人が家族、友人、生物、植物など生きる物すべてについて理解し、愛し、大切にすることができれば簡単なことです。

「やれば近い、やらなければ遠い」

というように私は思いました。

一人一人が小さな声でしゃべっていても、それが大人数になると大きな声になる

ように一人一人が小さなことでも気にかけてやるということを市民全員、市全体で行うことで、大きな力となり、よりよい町ができるのではないかと私は思いました。

福島市民憲章と聞くと、堅苦しく真面目な感じがするという人も多いと思います。

でも、案外そうではなくて、とても身近な目標のようなものです。市民が目指すべき町の様子が書かれているものというように身近に感じることで、身近なところであることが書かれている、私はそう感じました。

以下のようなことを私は市民憲章から思い今の自分の生活でできることを見つけ、実行し、福島市民憲章に書かれている町に近づけるように努力していきたいなとそう感じました。

「福島市をよりよくするために」

福島市立北信中学校

阿部 晴斗

僕は福島市民憲章に「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」とあるのを見て、それは大切な事だと思いました。何年後かにまちをつくっていくのは、今はまだ子供の僕達です。未来の僕達が希望に輝くまちをつくるためには、今きちんとした教育を受け、いろいろな文化を知ることが大事だと思います。

今福島市では、子ども達にきちんとした教育ができていると思います。教育は学校だけではありません。僕が小学生のころ、横断歩道で交通指導員の人が毎朝あいさつをしていました。最初は恥ずかしくて、あいさつを返すことができなかったけど、小学校六年生くらいからあいさつを返すことができるようになりました。今では、知らない人に自分からあいさつをすることも多くあります。これも、「あいさ

つをする」という教育だと思います。

では、今の福島市をよりよくするため、どんなことをすればよいでしょうか。僕は、本を読む人が増えるよう努めるのがよいと思いました。本にはたくさんものがつめられています。知識や文化、人物の気持ち、人生、作者の考え方などです。そういうことを学ぶという意味では一種の教育でもあるし、生涯学習の場でもあると思います。でも、本をあまり読まないという人も多いです。それは「スポーツの方が好きだ」「興味が無い」「集中力が切れてしまう」などとした理由があると思います。だからこそ、本を読む人が増えるよう努めることが重要だと思いました。それでは、具体的にどういうことをすればよいでしょうか。本を読まない人に、その人にぴったりの本を見つけてあげるのがよいと思います。といっても、一人一人にぴったりの本を探すのは無理があります。だから、本の案内書のようなものを作ってみてはどうでしょうか。例えば、「スポーツが好き」という項目をつくり、そこにはスポーツを題材にした本の題名を書きこんでおくのです。そう

すればスポーツが好きな人は、その本に興味をわいてくると思います。要するに、たくさん知識を身につけることのできる本を読む、きっかけを与えるのです。こうすることで、本を読む人が増え、知識を身につけた人達が大人になっていき、やがてすばらしいまちになると思います。

僕は今、図書委員の一人として活動しています。でも、本を人にすすめることはあまりしていなかった気がします。だから今度からは、二週間に一回など定期的に本のすすめをしていきたいです。

「より良い福島市に」

福島市立北信中学校

井上 桃花

福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまち」を読み、福島市の将来について考えてみました。

福島市をより良くするために私は、自然環境が良い公園やアスレチックなどの施設を増やすことが重要であると考えました。

自然環境が良い施設が増えれば、福島市をより良くすることができ、たくさんの人たちに福島市のよさを知ってもらうことができると思うからです。

では、どのようにすれば、自然環境の良い施設を増やすことができるのでしょうか。

私は、そのような場所を増やすために、一人一人がきまりを守り、生活をするということが大切だと思います。

日本の代表的な山である富士山は、多くの登山者でにぎわうとても大きな山です。

そのように人のにぎわう山でも、日本の代表的な山として知られているのは、一人一人がゴミのポイ捨てなど、環境を悪くしないように、あたりまえのことをあたりまえに行いきまりを守っているからだだと思います。

しかし、そんな富士山にもゴミが一つも落ちていないという訳ではありません。では、どのようにして、ゴミが一つも落ちていないような山を作ることができるのでしょうか。

それは、富士山をきれいで安全に保つために活動している人たちが、毎日見回りをし、一生懸命活動しているからです。

このような活動をしている人たちのおかげで富士山はきれいで安全に保たれているのだと思います。

このように、福島市で暮らす人たちも同様に、みんなで助け合いながら協力して活動をし、あたりまえのことをあたりまえに行えば、自然環境が良い施設が増え、より良い福島市になるのではないのでしょうか。

さらに、私が通っていた小学校では、地域の人たちと協力し、校庭にたくさんの花

を植えるという活動を行っていました。

毎年、校庭に花がいっぱいになると、とてもうれしい気持ちになるのを覚えていいます。

植物をたくさん植えることで、華やかできれいな福島市にすることができのではないかと思います。

他にも、ポスターを作って呼びかけたり、ボランティア活動を行ったりするなど、福島市をより良くするための方法はたくさんあると思います。

このような活動は、私たち中学生でも協力すればできることだと思うので、福島市をより良くするために、協力して活動をし、その他にも何かできることはないか、考えて行動していきたいです。

「親切と愛情のあふれる福島へ」

福島市立北信中学校

西 牧 桃 花

私は学校で、この福島市民憲章作文コンクールがあることを知りました。その時初めて今まで気にもしなかった福島市民憲章の存在を知りました。それまでは全く分からず、市民憲章とはどのようなものかと考えるほどでした。

この憲章を読むと、「親切で愛情あふれるまち」が私の心を動かしました。「親切」と「愛情」。この二つがあれば人は生きていけると思います。何てすてきな言葉なのでしょう。自然と心が温まる気がします。

私が強くそう思うのにもある体験があるからです。私は生まれてから七回ほど引っこしています。小学校も四つ行きました。苦しいこと、さびしいこと、辛いことたくさんありました。でもそれと同時に私はたくさんの人に助けてもらいました。家族、友達、地域の人々などたくさんの方にお世

話になりました。だからこうして今、私は辛いことも乗りこえているのです。

そのような体験が私にはありました。人は誰かの親切や愛情がないと生きていきません。いつもは平気なフリをしている人だつて辛さはあるのです。そんな人たちに声をかけてあげられること。幸せではないのでしょうか。

私にはたくさんさんの助けがありました。だから今の私がここにあるのです。私も恩返しをしたいと心から思えるのです。

まわりに苦しんでいる人がいたら、どうか声をかけてあげてください。うれしいはずです。苦しんでいる人に親切と愛情をあげてください。もし、自分が苦しんでいるのなら親切と愛情をもらってください。遠慮なんていりません。もらってくればいいのです。そして幸せな姿を見せてください。それがこの世で最高の恩返しときつときつとなるのです。

私は転校が辛かったです。でもこうして作文を書くことができるのもたくさんの人々に親切と愛情をもらったからなのです。それができる福島市はどんな市よりも

すてきだと私は考えます。

これから、一人でも多くの人が親切と愛情が持てるよう願っております。すてきな、自まんのできる福島市をつくりましょう。

最後に、親切と愛情のあるまちを想像してみてください。私にはみんなの笑顔がたくさん見えます。

私も福島市の一員として福島の人々の親切と愛情のあふれるすてきなまちづくりに協力していきたいと思っています。

「安全・安心な福島市を目指して」

福島市立西信中学校

須田 美咲

私は、福島市をもっと安全で、事故の少ない街にしていきたいと思いました。理由はいくつかあります。

まず一つ目の理由は、私自身が、事故現場を何回か見たことがあるからです。以前、私の家の近くでも、車がポールに衝突していた時がありました。その場所は信号がとても分かりにくいので、間違って赤信号なのに行ってしまったら、青信号なのに止まってしまったりということがないようになってほしいです。また、日が差して信号が反射して何色かが見えない時もあると思います。それで間違えてしまわないように、ドライバーは常に注意をしてほしいです。

二つ目は、今、大きな問題になっている、北朝鮮のミサイルについてです。最近では、北海道や東北付近に飛んできているような

ので、とても怖いです。そんな時、どうすればいいかを、市民はあまりよく分からないと思います。私も、ミサイルが飛んできてからは、どうすればいいか分からなくて、何もできませんでした。飛んでこないのが一番いいけど、飛んできてしまってからでは遅いので、その時の対策をもっと考えてほしいです。例えば、テレビなど、市民の情報源となるもので、ミサイルが発射された時のための逃げ方、逃げ場所などを詳しく説明したり、店でミサイルが飛んできた時のための防御グッズなどを販売して、市民一人ひとりの防御・防災意識を高めてほしいです。おそらく、市民の人は、「自分には飛んでこないし、落ちてこない」や、「どうせまた海に落ちるだろう」と考えていると思います。私もそう思ってしまう時があります。だけど、これから何発もミサイルを打たれてしまつて、運悪く、日本に落ちることがあるかもしれない。「自分には落ちてこないだろう」と思っていた人たちが、そのミサイルで亡くなってしまうのは、あまりにも悲惨な話です。少しでもそのような危険な事が起きないように、福島市は

もう少し意識を高めてほしいと思います。

三つ目はいいと思った事です。それは、子供やお年寄りに優しい人が多いことです。バスの席をゆずったり、後ろに並んでいるお年寄りを先にしてあげたりという光景を何回か見たことがあります。そうすると、お年寄りの人達も笑って感謝しているのがすごくいい事だと思います。私も見習ってお年寄りや小さい子供に、優しく接することができたらいいなと思いました。

福島市はまだまだ、住みやすくて明るいまちにできると思います。市民の健康と安全を守って、笑顔に満ちた明るく楽しいまちを目指して、これからも頑張っていってほしいです。また、自分達も福島市のためにできることがあればやっていきたいと思っています。

「幸せあふれる福島市」

福島市立西信中学校

加藤 黎華

私たちは、たくさんの山に囲まれた福島市に住んでいます。有名な吾妻山や荒川があります。私は、小さいころから福島市を見てきて、やっぱりとてもきれいで美しいまちだなあと思いました。私は、小学校四年生の時に水林公園に行ったことがあります。それで、いろいろ自然にふれてみました。福島市は、とても空気が澄んでいて気持ちが良いです。私の家の周りには、たくさんの木が立っています。木一本一本に魂がやどっているように、とても生き生きしています。私は、そんな木が大好きです。

私は、自然のほかに文化にも興味をもっています。文化といえば、私はじょーもぴあ宮畑に行ったことがあります。そこは、縄文時代の土器や昔住んでいた住居などがあり、いろいろ見学することができます。

私がじょーもぴあ宮畑に行って、印象に残ったのは火おこしです。そこでは、火おこしの体験ができるのですが、手が痛くなりました。昔の人は本当にすごいなあと感動してしまいました。たて穴住居の中は、入ってみるとせまかったです。でも、冬などはわらでできているので暖かいのではありませんか。私は、どうしてそんなことができたのだろうかと思つたことが何度かあります。なので、大昔の福島市に行つてみたいなあと、過去の福島市に行つてみたいなあと思いました。

最後に私は、この福島市はとても親切な人たちがいっぱいいるなあと思いました。私はこの福島市で、優しくしてもらったことがたくさんあります。まず一つは、電車に乗っているとときに席をゆずってくれたことです。二つ目はある行列に並んでいて、お先にどうぞとゆずってくださいった人もいました。優しくされると、心があたたくなりました。親切に優しくしていただきうれしかったです。私も誰か困っている人がいたりしたら、助けてあげたいなあと思いました。ちょっとしたことでも良いので、荷

物を持つてあげたり、電車やバスで、立つのがつらそうなお年寄りや子どもには席をゆずつてあげたいなあと思いました。私は、将来人の役に立つような職業につきたいなあと思っています。そのときに、私は、困つていたり助けてほしい人がいたら手を取つて、助けてあげます。これから、ゆつくり夢を見つけていきたいなあと思いました。がんばります。

私は、この福島市が大好きです。福島市は幸せがたくさんあふれています。これからもずっと幸せがたくさんあふれる福島市であつてほしいです。福島市にいるたくさんの人が市民憲章を守つて、これから毎日過ごしてほしいです。私は、市民の人たちの幸せを願っているし、一人一人が住みよくするために、きまりを守つてほしいなあと思っています。私は、未来へ向かつてがんばります。

「自然がいっぱい福島市」

福島市立西信中学校

阿部 百花

私が思う福島市は、とても住みやすくて、近所の人も優しい良い所だと思います。そんな福島市に住む私が一番いいなと思う所があります。それは自然豊かなところですよ。福島市の空気はとてもきれいで水もおいしいというところから福島市の緑は素晴らしいと思います。空気は森があるおかげで、ほかの県と比べてたりしてもきれいと聞いたことがあります。水は、私の小学校の時の先生が大学生の時に県外の大学に通っていて、その時、蛇口から出た水を飲んだらおいしくなかつたと、おっしゃっていて、福島の水はおいしいのがわかります。森も、すぐくは私水林という所に行ったことがあります。動物の足跡や小さい花など自然がいっぱいで森のちよつと先にはビルがたくさんある町もあるのに私の住んでいる所の近くには自然があるのは、とてもうれ

しいことだと思いました。

ですが最近、公園や道路や川の近くに、ごみが落ちてゐるのを見かけます。タバコの吸い殻や花火のごみやお菓子の袋も見かけていて、私はすごく嫌な気持ちになります。空気も、二酸化炭素が増えてゐます。水も家庭の洗濯水や洗剤などの水がどんどん川や海を汚染してゐます。この三つの環境問題は、私の住む福島だけでなく、日本中がかかえる大きな問題なのではないのかと私は思いました。

このことから私は、自然はなくてはならないものなのだというのを伝えたいと思いました。例えばですが、公園や道路などにごみが落ちていたら拾うということが大切ですよ。それよりもごみを捨てないということが重要な点だと思います。ごみを捨てなければ、誰かが拾う必要もなくなるし、きれいな公園で遊ぶことができます。空気は、排気ガスを減らす取り組みを心がけたり、家庭ごみの量を少なくしたり、自分たちができることは、他にもたくさんあります。水も汚さない、ということに気にするだけで変化があるはずだと私は思います。

福島市に住む私たちには、自分の町を汚さない義務があります。福島市の近くには、奥羽山脈や阿武隈川もあつて自然がたくさんあります。そんな福島市を未来にひきついでいくのが今、私たちができることだと思います。こうした私たちの小さな努力が実を結び、きつと今よりも素晴らしい福島市になる。私は、そう考えました。

福島市民憲章にも同じことが書かれてゐました。空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。このほかにも四つの憲章がありますが、私は、この、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょうが心に響きました。

私たちにできることを少しでもたくさん見つけて、今の福島市をよりよくしていくのが私たちの仕事だと思うので、みなさんも、ごみが落ちていたりしたら進んで拾う取り組みをしてほしいと思いました。

「美しい環境のまち」

福島市立西信中学校

加藤 彩 夏

私は今回、福島市民憲章を初めて見ました。私が福島市民憲章の中で注目したものは、「空も水もきれいなみどりのまち」についてです。私はこのことについて、地域で取り組んでいることや改善すると良いと思う点が三つあります。

一つ目は、草むしりやごみ拾いです。私も参加しましたがあまりゴミが無かったので、みんながきれいにしようと常に心がけていると思いました。この活動はほぼ毎年やっているのですが、参加者のほとんどが大人で子供は年々減っていると感じました。このことから私は、大人ばかり参加するのではなく、私達のような若い人が参加することで、自分の地域をきれいにしようという気持ちが強まり、日々の心がけでよりきれいな地域になると思います。また、地域だけでなく出かけた所や、友達と遊ん

だ公園などでも心がけることで、まち全体がきれいになっていくと思います。

二つ目は、花植えです。私は小学生の時に委員会では学校の花壇に花植えをしました。私は初めて花植えを行った時は、なぜ花植えをする必要があるのか分かりませんでした。私は初めて花植えを行った時は、なぜ花植えをする必要があるのか分かりませんでした。それは、花を見ていると気持ちが悪くなるということです。また、花の周辺の花壇を通る時に雑草が気になれば草むしりなどを進んで行いより美しくなると感じました。私は、このことから花植えにはたくさんの方の役割があることを知り、これから花植えなどの活動に進んで参加していきたいと思いました。

三つ目は、近くの公園で実施したほうが良い活動についてです。私が以前遊んだ際に気になったのは、お菓子のゴミです。公園でお菓子を食べるのは良いですが食べた後にゴミを片付けずに捨てていくのは、これから遊ぶ人にとってとても迷惑です。このことから取り組むと良い活動が二つあります。まず一つは、ゴミ箱を設置すること

です。その公園にはもともとゴミ箱が無かったため設置することで少しはゴミが減ると思います。二つ目は清掃活動を実施することです。この活動に地域住民が参加することで交流もできると思います。また、公園をきれいにすることで遊ぶ人も気持ちよく遊べると思います。

私は、この作文を書いて感じたことがあります。それは、さまざまな活動に参加してみること、自分が変わっていくということ、その活動を通してたくさんの方のことを考えたり感じたりすることで気持ちが変わり、日々の行いや心がけが良くなり周りから信頼される人になっていくと思います。また活動で交流もできるため交友関係も広がります。

私はこれから、清掃活動に積極的に参加していきたいと思っています。また活動だけでなく普段の生活でも環境を大切にしたいです。

「みどり豊かで安全なまち」

福島市立西信中学校

二 瓶 叶 瑛

私は、毎年八月の第一日曜日に行われる、地域のゴミ拾いに参加しています。朝六時に集合場所に集まり、三十分から一時間歩いてゴミ拾いをします。タバコの吸い終わったものや、ペットボトル、空き缶などがたくさん捨ててありました。ティッシュやビニールの切れはしなどもありましたが、私が一番驚いたのは、コンビニの弁当箱や中身の入った缶が捨ててあったことです。ゴミ袋いっぱいゴミが集まったことでもあります。私は、ゴミは環境に良くないので捨てるのはだめだと思います。ゴミが出たら、自分の家でしっかり分別するべきだと強く思いました。

また、環境を守るために、二酸化炭素の排出を抑える必要があると思います。今、地球は年々気温が上がってきて、地球温暖化になってきているので、少しでも地球温

暖化を止められるように節約するべきだと思います。その辺りにゴミを捨てるだけでも迷惑なのに、家などでも、ゴミをたくさん出したらいけないと思います。冷蔵庫を開けばなしにしたり、水道の水を出しっぱなしにするだけでも環境に悪いと思います。少しでも環境を守るために、そういうことを一人一人意識するべきです。

公園や庭などに木や植物を植えてみどり豊かにするのもいいと思います。植物は光合成で酸素を排出するので、環境に良いと思うからです。私は、木が切られていくところを何度か見たことがあります。それは、何かをつくるために木がじゃまで木を切ってしまったのだと思います。でも私は、何年もかけて大きく育った木を切ってしまうのは、もったいないと思いました。

また、私は近所の家に行ったとき、道路に飛び出してしまったことがあります。そのすぐ前を車が走っていったときは、本当に危なかったと思いました。まだ小さかったのでよく覚えていませんが、そのころは、左右を見ないで道路に出ていったことが多かったと思います。それからは、きちんと

止まって、左右を見てからわたるようになりました。

小さい子供や、お年寄りをもっと交通ルールを守るようにしたいと思っています。歩行者も運転者も、一人一人が交通ルールを守ること、安全なまちになっていくと思います。

信号がある横断歩道では、青色になったのを確認するだけで、左右は見ずにわたってしまう人があると思います。私自身もありました。しかし、曲がってくる車がいるかもしれません。運転者は止まってくれるかもしれませんが、やはり左右は見た方がいいです。

このように、一人一人が意識して節約したり、交通ルールを守ったりすることで、みどり豊かで安全なまちがつけられると思います。私も気を付けて生活して、このようなまちをつくっていききたいと思います。

「きれいな緑」

福島市立西信中学校

大谷 百花

私が気にいったのは、空も水もきれいな
みどりのまちです。平成二十三年三月十一
日、私が幼稚園の時に東日本大震災が起こ
りました。六歳だった私は、突然の揺れに
びっくりして何が起こったのか全く理解出
来ませんでした。次の日、私が住んでいた
町は一晩で変わってしまいました。それま
であつた田んぼには、津波で流れてきたが
れきや車・船などが目の前まで来ていまし
た。私は何が起こったのか夢でも見ている
様でした。震災二日後私は原子力発電所が
爆発した為、自分のふる里から、二百キロ
離れた所に避難をしました。その当時は、
また私のふる里に戻れるのか不安でいっぱ
いでした。私は、春になると毎年祖父母の
家に行き、田植えの手伝いや秋になると稲
刈りの手伝いをしていました。田んぼでは
泥だらけになって遊んだりもしました。周

りには畑もあつて野菜をとったり、川も
あつて自然がいっぱいの中で私は、いろい
ろな経験をしました。私はそんなふる里が
とても大好きでした。震災後、私が見たふ
る里は放射能に汚染され、荒れた田んぼや
山、今まで遊んでいた場所が無くなった事
に、私はとても悲しくなっていました。し
た。四季によつて見えていた光景で私が一
番好きだったのが友達とブランコで遊んで
いたときに見えた山に沈んでいく夕日でし
た。震災後、私は何度かふる里に帰ったり、
祖父母の家に遊びに行ったり、地元の友達
と会ったりし、少しずつですが私が見て来
たふる里が戻つて来ているのが目に見て分
かつてきました。震災から六年が過ぎ、少
しずつだけど、あの日見ていた景色が戻つ
ているのを実感しています。福島県は田・
山・海・川と自然豊かな県で私の自慢で
す。今、私が自然を守る為にできる事は、
ゴミを減らし、ゴミのポイ捨てをやめて一
人一人が意識を持つて全員で住みやすい、
自然あふれる福島県を作つていかなければ
と思います。福島県は、震災後、復興が進
んでいます。ボランティアの方や除染をし

ている人達のおかげで、福島県は少しずつ
戻っているのを実感しています。今、私の
住んでいる福島市は夏にはホテルが見れ秋
には、たくさんのおともも飛んでいるの
を見る事ができます。これは、空気がきれい
できれいな水があるからだと思います。私
は、自然がたくさんあつて、おいしい果物
やお米や新鮮な野菜などがある、そんな福
島市が大好きです。東日本大震災では、思
い出など大切な物もなくなった方もたくさ
んいました。今も自分のふる里に戻れない
人や、震災を知らない人もいます。私
が、私が思うことは現在の福島市を緑豊か
にして、安全でおいしい福島の水を多くの
人に飲んでもらいたいです。そして、こん
後も住みやすく地域の人達と仲良く暮らせ
るようにお手伝いができればいいと思いま
す。

「あいさつでつくる優しいまち」

福島市立西信中学校

阿部 蓮

私は、学校への登下校の時に、かなり急な坂がある、旧国道を通っています。帰りは自転車を書いて上ってこなくてはいいけないので、とても大変で疲れます。でも、私には、そんな坂道でも毎日上って帰れる、楽しみがあるのです。

今の季節だと、下校するのは午後六時過ぎくらいで、家に着くまで四十分程かかるため、空はもう真っ黒になってしまっています。私がつまっている旧国道は、ほとんど明かりはありません。その道を、毎日、友達といっしょにだったり、週に一、二回一人で帰ったりします。私は、畑で作業などをしていらっしゃるおじいさん、おばあさんに「こんばんは。」とあいさつをします。すると、おじいさん、おばあさんたちは、「こんばんは。」「おかえりなさい。」「気をつけて帰ってね。」と返してくれます。これが、私の、帰るとき

の楽しみです。いろんな人に自分からあいさつをして、いろんな人と触れ合う、交流することが、とても楽しいのです。何か一言返してもらえただけで、すごくうれしくて、温かい気持ちになります。前に、部活が早く終わって一人で帰っていた時に、バス停にお母さんと小さい男の子がいて、私が「こんにちは。」と声をかけると、男の子が元氣よく笑顔で「こんにちは！」と返してくれたことがあります。その時、私は、一人で帰るのが寂しくて、少し落ち込んでいたのですが、その男の子の無邪気で可愛い笑顔とあいさつで、元氣がわいてきたことを今でも覚えています。また、ある時は、暗い帰り道ですれ違ったおじいさんに「こんばんは。」とあいさつをすると「暗いから気をつけてね。上りががんばってね。」と声をかけてくれました。そこで、私も、「はい、がんばります。」と自然と笑顔になってそう答えました。友達といっしょに帰っている時も、元氣で気持ちのよいあいさつを心がけています。帰りだけではなく、行きも同じです。朝はあまり人と会うことはないのですが、小学校の見守り隊の方々に

は毎日しっかりあいさつをして学校に行っています。憂うつな朝も、地域の方の元氣なあいさつで、今日も一日がんばろうと思うことができます。やっぱり、あいさつは自分にも相手にも地域の輪にも大切なんだなあと思いました。

あいさつは、声に出すまでがすごく緊張しますが、言えたときに、すがすがしい気持ちになります。相手にあいさつを返してもらうと、さらにうれしくなって、別の人にもあいさつしよう、と思います。こうした、ちょっとした地域の人たちとのコミュニケーションを市民一人一人が行うことで、さらによいまちになっていくのではないかと感じました。これから、いろんな方にあいさつをして、人と人との輪を広げていきたいです。今日も、帰る時に元氣なあいさつをがんばりたいです。

「規律のある楽しい町づくりへ」

福島市立西信中学校

加藤 飛 天

僕は、福島市民憲章の中でも特に四つ目の「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」にとっても興味を持ちました。

僕たち中学一年生は、中学校生活へ慣れ、これから高校へと進学するにあたって、健全で規律のある学校生活をおくるためには、きまりを守ることが重要になってくると思います。僕は、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」の三つの内容には、共感できる内容がいくつもありません。

一つ目の仕事にはこりと喜びをもち、いきいきと働ける明るく楽しい職場にしましょう。これは職場にかぎらず、学校生活にもあてはまるのではないかと考えました。僕たち学生には、勉強はつまらないと思われがちですが、勉強の中にはこりや喜

び、やりがいを見いだすことができれば、楽しく有意義な勉強の時間をつくることができます。例えば勉強をすることによって、将来の幸せを決め、皆から認めてもらえるきっかけをつくることができる、と思えば楽しく全力で勉強に臨むことができるのではないのでしょうか。僕も一時はそのようなことを考えながら勉強に取り組むと、とてもはかどりました。

二つ目の隣近所なかくよく、たがいに助け合いましょうの隣近所は、僕たちという友達にあたると思います。楽しく健全な学校生活をおくるためには、やはり友達存在が不可欠だと思います。そうすれば、分からないところは情報を共有しあつて、共いのりこえていくことができ、学校生活の中でおきた、不快で苦痛なことは分かち合い、共に成長していくことができます。僕も、苦しいことや辛いことがあつても、そばに友達がいって助け合えたからこそこのりこえることのできた壁があります。そんなことがあつたからこそ、僕は今も友達を大切にしながら、日々がんばっています。

三つ目の、乗り物や公共施設などの、利

用のルールを守り、人に迷惑をかけないようにしましょう、には、とても僕は共感しました。僕はバスを利用して登下校をしています。家まではとても遠いので、今では欠かせない交通手段として利用しています。バスには学生から高齢者まで、様々な年齢層の人が乗りに来ているため、いつも静かにしていることを心がけています。バスなどの公共交通手段は、僕は個人を尊重し合い、互いに気持ちよくいられることが重要だと思いました。

僕はこの作文を書くまでは、福島市民憲章については知らず、あまり興味を持ちませんでした。読んでみると大切に共感できる内容が多くありました。住みよく希望にみちたまちをこれからも作り続けるために、市民憲章をいつも心の中に刻みながら生活し、次の世代へと伝えていきたいです。

「歴史と文化を学ぶ」

福島市立西信中学校

高橋 優希寧

私の住んでいる地域には、歴史ある文化がたくさんあります。お寺や神社の近くだけでなく、人が住む民家や誰でも利用できる民家などもあります。家のまわりには石碑のようなものがあります。昔の佐倉、佐原、土湯地区にいた豪族のような人達にたちむかつて処刑されてしまったという話があり、その人の石碑が土湯方面につながるあづま総合体育館の近くにありました。その他にも色々な歴史があります。

佐倉下の方には佐久間ていという大きな屋敷があります。そこは、昔の家の造りになっていて、夏は雨戸を開けて風通しをよくしたり、冬はいろりで火をたいたりして過ごしていました。さらに、年間行事としてお正月にかざり作りやもちつきもやっていました。普段は地域の人達が日本の昔のおもちゃを作ったり、夏休みにはそこに勉

強や遊びに来る子達もたくさんいます。

町の方や地域ではお祭りもたくさんあります。私達がよく知っている福島市の町の方のいなり神社では、毎年たくさんの方がやってきます。福島市の中では大きなお祭だと思っています。私達の地域では和光神社という神社のお祭りがあります。昔からやっていて今は、春と大晦日から元旦にかけて行っています。春は小学生達が太鼓をたたきながら地区内をまわります。元旦は0時0分になると同時にはじまります。昔からの伝統を受けついでいるのだと思うと、とてもほこらしく思います。

私達が住んでいる福島市にはたくさんの方の歴史や伝統がありますが、それを誰かが続けて伝えていかなければ意味がないと私は思います。いくら市内に歴史や伝統、文化があってもこの先、誰にも知られずのままだったら全部終わってしまうと思います。そうならないために今、私達ができることもたくさんあるはずです。

小学校の時の総合の授業で、地域や市内の歴史と文化を教えてもらいました。その時は、実際にその場所に行ってみたり、自

分の目で見て確かめたりしました。それから福島市の歴史や文化に自分から興味を持ち、それを伝えていくことや、行事などに積極的に参加していくことが大事だと考えました。そうすれば新しい発見や楽しみが見つかるかもしれません。

私自身、小学校で教えてもらうまでは全然興味がなかったのですが、習ってからはもっと知りたい、面白いととても感じるようになりました。昔の知恵が現代にも役立つ、文化が広がっていけばこれからもたくさんの方の歴史や文化にふれ合えると思います。

私もこれから、福島市をどんどん知っていったらいいなと思いました。福島市の文化を大事にしていきたいと思っています。

「親切で緑の町へ」

福島市立西信中学校

荒 歩 美

私は、子どもやお年寄りをいたわり親切にし、いつも明るく、やさしい態度で誰にでも接することや家の回りや道路、公園、河川などをごみのないきれいな環境にすることが大切だと思います。

以前、私は旅行で電車に乗りました。そのときは、電車に乗っている人が少なかつたため荷物をとなりの席に置きました。それから電車にはたくさんの人が乗ってきました。ですが、まだ荷物を置いてても大丈夫だろうという甘い考えがあり荷物を置いていました。電車に乗る人がまたたくさん来たときに私はやっと荷物をどかして自分で荷物を持ちました。するとそこに男性の方が座ってきたときに私はやっと気づきました。私の荷物はじゃまで大人一人分くらいの場所を使っていたということをです。私はその出来事があってから自分の荷物

は自分で持つようにしています。もし荷物を置いたとしてもだんだん人が多くなってきたら荷物を自分で持ったりする気配りが大切だなと思いました。他にも席が満杯のときは自分が立って席をゆずったりもしています。その心はとても大切だと思います。親切にするということは自分も相手も気持ち良くなると思うからです。これから私は、このことを続けていけるようにしていきたいです。

その他にも環境をきれいにするということも大切だと思います。福島市の道路は両側に草がはえていたり、ごみがたくさん落ちていたりがあります。他の県に旅行に行ったりするとどここの県もとてもきれいで草はほとんどなく花が植えてあったりとてもきれいで気持ち良くなります。なので福島市の道路もきれいにすれば気持ち良くなると思うのでごみなどは一人一人が意識を持てば道路にごみはなくなるのではないかと思います。また家の回りの草むしりも大切だと思います。私が住んでいる地域では、あまり個人的に草むしりをしません。前までは曜日を決めて草むしりなどに

取り組んでいました。でも今は曜日を決めて地域の人とやるということはしていないので、個人的にやるしかないのです。祖父はよく家の回りや道路の草をよく取っています。そのおかげで家の回りなどがきれいになっているので私も、祖父といっしょに草むしりをしたいと思いました。またごみをその辺に置かないできちんとごみ箱に入れることを心がけていきたいです。

私は、福島市の人々がお年寄りや子どもを助けたり、困っていることを手伝ったり、他にも緑に感心をもったり、自分でできる事を考えて、実行してほしいなあとと思います。このようなことができれば今の福島市よりも良い福島市ができるのではないのかなあと思いました。

「すばらしい町」

福島市立立子山中学校

大内 悠暉

自分は、これまで福島市民でありながら福島市民憲章を知らずに生きてきた。

今回、福島市民憲章の内容を、初めて知った。五つのうち、全てとてもすばらしいと思った。

一つ目の、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましようについて、自分はとてもよいと思った。

近年は、空気の汚染や森林の減少などによって、地球温暖化が進行している。そのため木、つまりみどりを増やせば、地球温暖化の進行を防ぐことができる。だから、みどりの町をつくることは、とてもよいことだ。

二つ目の、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましようについて、自分はいいことだと思った。

学ぶということは大切で、今まで知らな

かったことを知った時、とてもよい気持ちになることができる。さらに、昔の人々の生活を知ること、これからの生活をどうしていけばいいが見えてくる。そのようにして、希望に輝く町をつくっていくのはよいことだ。

三つ目の、親切で愛情あふれるまちをつくりましようについて、とても大切だと思った。

困っている人がいたら、助けてあげるのが大切である。そのように助けていくことで、人との関係が深まっていく。そのため、親切で愛情あふれる町をつくることは大切だと思う。

四つ目の、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましようについて、自分は大切なことだと思った。

きまりを守らないと、きけんにつながるなどのことがおこってしまうので、しっかりと守るようにしたい。また、力をあわせて楽しく働くことも、ストレスの軽減にもつながるので、大切だと思った。

五つ目の、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましようについて

て、自分は大切なことだと思った。

近年、おとしよりによる事故や病気などが話題になっている。事故にあわないように、健康な体づくりをするのは大切なことだと思った。

この五つの福島市民憲章は、どれを見てもとてもすばらしい。この五つを守り、このような町ができれば、すばらしいところになると思うので、この憲章を心の中に置いて生活していきたい。

「何かをしたい」

福島市立立子山中学校

渡 辺 望 愛

私は福島市に「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」が大切だと思います。

私の住んでいる立子山も空も水もきれいでさらに緑もたくさんありとても良い場所です。東京などところが緑の木々がありだからこそ空もきれいに見えるし、高い建物もなくきれいに見えます。また、福島の水は、調べてみると、三年連続「モンドセレクション金賞受賞」をしているのを知り、やはり福島は良い場所だと思いました。

日本には、きれいな、水や空もあるが、世界には、きれいな水を飲めない人もいます。テレビで、育ちざかりの子どもが、私達が飲むようなとめいできれいな水ではなく、大丈夫かと思うような茶色くにごった水を飲んでいました。本当はもつときれいな水を飲みたいと思うのですが、その

水しかないので、にごった水を飲んでいる姿を見て、自分はどれだけ恵まれているのかを気づかされました。いつもじゃぐちをひねれば出てきて、飲みたいときにすぐ飲めるのは、しあわせだと思いました。ある国では、おけをもつて、自分の家から十五キロメートルある道を歩つて水をくむ姿を見て、水をのむだけでも苦勞するのだと思いました。

空もこれからどうなるかは、分かりません。これは、日本にも関係はありますが、地球温暖化が進むと、どうなるか分かりません。日本にも被害が起これると思います。きれいな青空が見えなくなる日がくると思います。なので地球温暖化も進まないようになにかしていきたいと思いました。少しでもなにかすることができたらちよつとは、変わるのではないかと思いました。多くの人が自分から、努力してくれたら、もつと世界は変わりそうな気がするので、そうなったらうれしいなと思いました。

何かをしたいと思ったらず行動をしようと思いました。なので明日から、自分一人がやっても変わらないかもしれないけれど、

ど、節水したり、すこしでも、未来がよりよいものになれたらと思いいながら行動しようと思いました。一つでもいいから毎日つづけたら何か変わるのかなと思いました。でもそれは前の話です。今は、大人になるまで、世界の人々全員とはいかないと思いますが全体に助けたいと思いました。助けたいです。

これからは、この気持ちを胸にがんばっていききたいと思います。そして福島も、もつと「空も水もきれいなまちをつくりましょう」の言葉通りきれいなまちにしていきたいです。

「これからも緑豊かに」

福島市立立子山中学校

村 上 浩 樹

福島市民憲章について、聞いたことはありましたが、内容については、知りませんでした。今回、夏休みの宿題で市民憲章についての作文を書くことになって、先生に市民憲章のプリントをもらい、初めてどんなことが書いてあるのかを知りました。

その中で、僕が最も共感した憲章内容は、「空も水もきれいな みどりのまち」です。

車から外を見ると、ゴミがちらほら目に入ります。ポイ捨ては、他人に迷惑をかけたり、環境に悪影響をおよぼしたりしてしまいます。ゴミ箱まで少しまで歩いてしまふのに、どうしてポイ捨てをしてしまふのか、僕には分かりません。

ポイ捨てが自然におよぼす悪影響は、たくさんあります。水が汚くなったり、植物がうまく育たなくなったり、それによって生態系が壊れることもあります。

そのようなことから考えて、やはりポイ捨ては良くないです。

しかし、そう言ってもなかなかすぐにはポイ捨てをやめることはできないと思います。なので、僕たちが見かけたゴミを拾うことが大切だと思います。

また、最近は林業の仕事につく人が少なくなっているらしいです。緑があるだけではきれいではないので、しっかりと管理してもらうために、林業をする人がもっと増えて、きれいな緑をつくってほしいです。

絶滅してしまった動植物はもう復活させることはできませんが、今いる種類の生き物は、僕たちの手で守ることができます。ゴミのポイ捨てはもちろん、その他にもできることは意外と多いです。生き物を大切にすること、色んな生き物を同時に守ることができます。

僕は、僕が住んでいる自然豊かな立子山が好きです。これからもずっと同じような緑が多い立子山を見たいので、「空も水もきれいな みどりのまち」という憲章も、他の憲章も、全て頭に入れて、忘れずに、これからも過ごしていきたいと思います。

「みどり豊かできれいな福島市に」

福島市立立子山中学校

加藤 亮 汰

自分が住む、立子山は、ごみがあまり落ちていない。それは、学校など、地域を通してゴミ拾いなどのボランティア活動を行っているからである。小学校の頃は、フィールドワークという地域の自然や歴史にふれながらその移動途中にごみ拾いをした。今でも、中学校の通学の時に「グリーンアースプロジェクト」というごみ拾いをする活動を行っている。

しかし、自分の住む立子山を出て、他の地域を歩いていると、毎回ではないが、歩道などでごみを見かける。空き缶や、たばこの吸い殻などをよく見かける。捨てたごみは、大気が汚染し、自然豊かな福島市の空気が、少しずつ汚染されていくのである。また、たばこを捨てた時、もし、火がついている状態でポイ捨てした場合、火事をおこすことも考えられる。

そんなことを防ぐために、市などのボランティア活動に進んで参加し、大気汚染や事故を防ぎたい。

大気汚染などを防ぐだけでなく、空気をきれいにするために、植物などを植え、光合成を利用し、空気をきれいにしようと、自分は思う。ごみを拾うボランティア活動だけでなく、植物を植える活動などにも進んで参加していきたい。また、六年前にあった東日本大震災の影響で、除染工事により多くの木が伐採された。その事に関しても植物を植えるということはたくさんの方の良きことをもたしているのかもしれない。

木など、土地だけでなく、川も大事にしていきたいものである。福島市といったら、やはり、清い流れの阿武隈川である。この阿武隈川は、福島市民にとってのめぐみだと自分は、思う。また、阿武隈川などの川をきれいにする、ボランティア活動などがあれば、進んで参加していきたい。

これらのことをふまえ、より、福島市を愛し、自然を守るためより多くのボランティア活動に、自分から進んで参加していきたい。また、こういった活動を通し、自

分達、いや、福島市民全員が、平和で、さらに住みよく希望にみちたまちを築くためにも、環境保存というものは大切なのかと自分は思う。

しかし、そのようなことをするためにも、福島市民、一人一人が、小さな努力を積み重ねなければならぬ。そのためには、自分達がそういった呼びかけをしなければならぬのかもしれない。今こそ、市民同士、手を取り合って、みどり豊かな福島市を築いていきたい。

「空も水もきれいな町づくり」

福島市立大島中学校

佐藤 実 来

私たちが住んでいる町福島市。福島市は果物が有名です。特に桃が有名です。果物が育つのに水がきれいな方がおいしくなると思います。

そこで私は、「空も水もきれいな町づくり」を考えました。私の希望の町は、雲一つないあざやかな青空、すきとおるきれいな水が流れる町です。もちろん、雨も降らないとおいしい果物などは育ちません。しかし、雨が降りすぎてしまうときれいな水にもごったどろ水に一瞬で変わってしまいます。空も暗い黒い空に変わってしまいます。果物も汚い水よりはきれいな水の方が好きだと思います。きれいな水により、じゅくしたおいしい果物を作ることができるのです。

自然豊かな緑の町は、きれいな空気が必要です。福島市は多くの山に囲まれ、夏は

とても暑く、全国でもトップ三に入ります。たくさん緑が呼吸し、きれいな空気が生まれます。そして澄んだ青空に恵まれます。

私の住む飯坂町は、果樹農家がたくさんあります。私の家もその一つです。六月にはさくらんぼ、八月には桃、十二月にはりんごを育てています。そのため私の家のまわりにはたくさん樹々でおおわれています。春には果物の花が咲き、とてもきれいです。家周りに花や木があると町も華やかになり、自然に満ちあふれる町として楽しむことができます。また、飯坂町にある飯坂温泉は連休や夏休みなどには観光客が多くおとずれます。宿泊部屋からもたくさん山が見えてとてもきれいです。温泉のお湯も地下からわきでいるため、ごみ一つ見えないすきとおるお湯です。福島の水は昔はもつときれいでおいしい水だったと祖父から聞きました。私達が今あたり前に飲んでいる水がもつと自然に近い形で利用されていた頃に戻せる様に環境から変えていく必要があると思います。

このように私たちの町を空も水もきれいで自然を大切にする美しい町にしたいで

す。そのために、一人一人が水をきれいにするように気をつけて、広く自然を愛し大切にすれば希望の町をつくることができると思います。私達が大人になった時、子供達に自まんでできる町づくりを目指したいと思います。

「よりよい福島をつくるために」

福島市立大島中学校

長谷川 夢 奈

市民一人ひとりが心をあわせ、快適で明るく住みよいまちをつくるために、これから私たちができることは五つあります。

一つ目は、ポイ捨てをしないことです。ポイ捨てをしてしまうと、道路や公園、川など皆がつかう場所が汚くなってしまいからです。また、ゴミが増えると空気が汚くなり人の体や動物、植物に害をあたえてしまいます。ゴミが落ちていないと、空も水もきれいなみどりのまちになると思います。

二つ目は、だれにでも親切にすることです。困っている人を町などで見かけたら、明るくやさしい態度で声をかけたり、行動したりすると声をかけられた人が明るくなると思います。

三つ目は、交通ルールを守ることです。信号が赤なのに通る信号無視や、シートベ

ルトを着用しない、よそ見をしながら運転や歩行をすると事故がおきます。関係がない人までまきこんでしまいます。事故を少しでも少なくするためには左右確認してから横断歩道をわたるなど、正しい交通ルールを身につけることです。また、子供の飛び出しや最近増えているお年寄りの車の事故は大人や家族が注意をするだけで減ると思います。

四つ目は、文化財を大切にすることです。最近、技術が発達している社会は自然を壊して、新しい建物が建てられています。歴史がある物に興味を持ち、理解を深めることによって文化財など歴史がある物を壊さないでずっと残るのではないかと思います。

五つ目は、ルールを守ることです。電車やバス、図書館などの乗り物は公共施設などの決められたルールを守って、人に迷惑をかけないようにすることです。また、人に迷惑をかけている人がいたら注意すると思います。

福島をよりよくするために、私たちが小さなことをたくさん積み重ねれば、平和で

さらに住みよく希望にみちたまち、市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、市民一人ひとりが心をあわせ、快適で明るく住みよいまちに近づくと 생각합니다。

「自然豊かな平和なまちを

つくるために」

福島市立大島中学校

本 田 綾 音

私は自然豊かな平和なまちをつくるために三つのことを考えました。

一つ目は木や花がたくさんあるまちにすることです。そのためには、自分で花を育ててみたり、ゴミなどを積極的に拾ってゴミ箱に捨てる必要だと思います。自分で育てることによって、あとどれくらいで花が咲くだろうと楽しみにするし、きれいな花が咲くとうれしくなるなど、自分の気持ちも明るくなり、まちも明るくなります。でもゴミを見つけても拾わなければどんどん増えてしまい、環境が悪くなってしまう。なので、ゴミを見つけたらめんどくさいと思わずに拾うことがまちのためになると思います。

二つ目はだれにでも優しくということ。電車やバスでお年よりや、赤ちゃんが

いる人が立っているのを見たら、席をゆずるなどを自分から行うことが大切だと思います。他にも道路やお店で小さい子がまigoになつていたら、優しく、明るく声をかけて安心させてあげたり、お年よりの人が荷物をたくさん持っていたらその荷物を持ってあげたりすると、みんな笑顔になると思うし、お礼を言ってもらえたら、自分自身もうれしくなつてまた困っている人がいたら助けてあげようと思えるからです。

三つ目はみんなが安全で健康なまちにすることです。歩行者も運転する人もみんなが交通ルールを守れば安全なまちになると思います。自転車や、歩行者が横に並んでいたら後ろから来る人にめいわくがかつてしまうし、自転車の二人乗りをしていたらハンドルの操作が不自由になつて歩行者にぶつかってしまったたりして危険なのでルールをしっかり守って運転などをしてしようと思います。そして、日常的に運動をして、健康な体をつくるのが大切だと思います。朝起きたら体操をしたり、家の周りを歩いたり走ったりということだけでも毎日やれば健康な体を維持できるのでみんな

で続けて、みんなが健康なまちにしたいと思いました。

三つの事を心がけて行い、自然豊かなまちづくりをしています。

「きまりを守り、協力しあえるまち」

福島市立大島中学校

和田 春奈

私は、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」にするには、どうしたらいいか考えました。

一つ目に出た考えは、交通ルールを守ることです。あたりまえのことでも、赤信号なのに道路をわたっている人が時々います。もしも、子供が赤信号なのに道路をわたっている人を見て、まねをしてしまったらすごく危ないです。人も危ないですが、車も同じです。赤信号の時には、どちらもわたらないようにしましょう。車は、黄色信号の時はできるだけ止まるようにしましょう。人は、青信号の時でもためつしている時などは、次の青信号を待つようにしましょう。

二つ目に出た考えは、隣近所の人と力を合わせてたがいに助け合うことです。時々テレビや新聞などで近所の人とトラブルを

おこしてしまうということを聞いたりします。トラブルは、ささいな事でもおこってしまいます。なので、なるべく自分からあやまりましょう。いつまでもめあつていても、時間がすぎていくだけです。近所の方とは、家が近いわけですから、長い付き合いになると思います。なので、仲が悪いと場の空気が悪くなってしまうたり、他の方にめいわくがかかってしまいます。近所の方とは、こまっていたら助け合うべきだと思います。

三つ目に出た考えは、ポイ捨てをしない、落ちているゴミは拾ってゴミ箱に入れるです。この考えは、あたりまえですが、ポイ捨てをする人はいますし、落ちているゴミをひろってゴミ箱に入れる人も少ないと思います。公園などには、ポイ捨てされたゴミが落ちています。ゴミを拾ってゴミ箱に入れている人はほとんど、おとしりの方だと思います。このままでゴミが増えていってしまつてキレイな町とは、ほど遠くなつてしまいます。そこで、若者からおとしりまで力を合わせて、公園などゴミが落ちている所をそうじするのもいいと思い

ます。若者はあまりこのようなことをしないと思いますから勉強になると思います。おとしりには運動になると思います。ポスターでポイ捨てのよびかけをしてもいいと思います。そうすると、ゴミが落ちていないキレイな町が作れると思います。

このような事を守り、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」を目指していきたいです。私も、まち作りに協力していきたいです。一人一人がこのような事を守り、力をあわせて、楽しい町にしたいです。

「奇麗で思いやりのある優しい町」

福島市立大島中学校

佐藤 滉介

快適で明るく住みやすいまちづくりを進めるために僕は三つの事を考えました。

一つ目は、「奇麗な町」にするために、生活で使う水の節約やゴミのポイ捨てを減らしたり電気の節約に一人一人が心掛けていくべきだと思います。生活排水で川が汚れ、水に住む生き物達がいなくなってしまうたり、泡が増えたりしてしまうと空気にも影響してるので生活用水の節約には気を付けた方が良いと思います。さらに、道路や草むらなどにゴミが落ちていると、自然の悪化にもつながってしまうし、汚い町になってしまいます。なのでゴミを見つけたら自分が一個でも多く拾って「奇麗な町」になるようにしたいです。

二つ目は、「思いやりのある親切で愛情あふれる町」にするために、人に会ったら明るく元氣にあいさつと、電車やバスその

他でも立っているお年よりの人を見たら席をゆずるなど親切を忘れないようにするべきだと思います。人に会ってもあいさつをしない人やあいさつをされても無視する人がいるのでそういう事をなくしたいです。だれにでも会ったら元氣にあいさつをして元氣な町づくりをしていきたいです。そして、親切な心でお年よりに思いやりを持ちたいです。飯坂はお年よりの人が多いですが、だからこそ思いやりの心はしっかり持つべきだと思います。

三つ目は、「皆が協力して楽しく、希望に輝く町」にするために、赤ちゃんからお年よりまでルールをきちんと守り、隣近所なかよく助け合っていけるようになりたいです。福島を文化を大切にうけついでいけるように大事にしていきたいです。ルール違反や犯罪を防ぐためにルールをきちんと守ってみんな仲良くしたいです。何かあったらすぐ助け合えるような町になるように努力したいです。福島は文化や特産品を大切にしたいです。家では桃やさくらんぼ、林檎を育てていて、桃は福島の特産品なのでおいしいのを使いたいです。自分も

将来は家を継ぎたいです。福島を文化を大事に大切にうけついでいくには、やっぱり努力しなくてはならないので十分気を付けて文化をうけつげれるように頑張ります。最後に、「奇麗で思いやりのある優しい町」は一人一人が努力すれば皆でできるので少しでも良くなっていけるよう努力していきたいです。自然豊かで空気の奇麗な福島の特徴を生かしてこれからも頑張りたいです。

「福島市をよくするために」

福島市立大島中学校

佐藤 ひなた

私たちが、福島市をよくするために、できると思うことは、三つあります。

一つめは、自然を大切にすることです。福島は、山や川など緑が多く、とても自然に恵まれた地なので、たくさんの方々とふれ合うことができます。なので、都会と比べると、環境がよく、過ごしやすくと私は思います。ですが、私が毎日登下校する道や、公園などには、ゴミやタバコのカス、ガムなどが、落ちていたり、捨てられていたりします。なので、ポイ捨てをなくすために、まず自分からゴミはゴミ箱に捨てることを心がけ、それを友達、先輩、後輩、町の人々に呼びかけをし、どんどん広まっていく、

「福島市ってきれいだよね！」

と言ってもらえるように、ゴミ一つない自然で美しい町にしたいです。

二つめは、思いやりを大切にすることです。子どもからお年寄りまで、はば広い世代で助け合うことが大切だと思います。困っている人がいたら声をかけてあげる、その一声で、困っている人は救われるかもしれない、と思います。道に迷っている人がいたら、自分の知っている範囲でもいいから、教えてあげるのが思いやりにつながると思います。なので、人に思いやりをもつ心が、福島市の優しさになると思います。

三つめは、交通事故や犯罪をなくすることです。交通事故では、歩行者も、運転手も、信号を守り、車はスピードを出しすぎず、交通ルールをきちんと守って、交通事故でのけが人や死者を出さないようにしてほしいし、私も気をつけたいです。犯罪では、被害者、被害にあった人の家族がどれだけ、苦しく、悲しくなるのか、考えて、分かってもらいたいです。ゲームのように、死んでも、また生き返る、ということは現実の世界ではないということを理解し、もう犯罪を福島市、世界からなくしてほしいです。そして、交通事故も犯罪もない、市民が安全、安心で暮らせる市を作っていきたいと

思いました。

福島市民憲章で定められた、「空も水もきれいなみどりのまち」「教育と文化を尊び希望に輝くまち」「親切で愛情あふれるまち」「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」この五つの市民憲章の通り、よりよい福島市を作っていきたいです。

「みんなで笑顔を広げよう」

福島市立大島中学校

新井田 ことみ

私は、この福島市を親切で愛情あふれる
まちにできたらいいなと思いました。

実際に、私も登下校や遊んでいるときな
どに、

「何年生？」

と聞かれたり、笑顔で

「おはよう・こんにちは」

といってくれる人がいて、私も笑顔になっ
たりもしました。

ですが、福島市内では、なかなか知らな
い人にあいさつをしたり、問いかけたりす
るという行動は少ないように思えます。な
ので、私は、親切で愛情あふれるまちにす
るには、交流が必要だと思います。例えば、
ゴミ拾いなどのイベントが多く開きさえれ
ば、人と接する機会ができていいと思い
ます。ゴミ拾いをするのは、環境にもい
いですし、子どもからお年寄りまで、広い

世代の人たちとふれあえば、普段から話し
かけたり、あいさつをしてくれる人も、少
しずつ増えてくると思います。

それと、私は、あいさつをしたり、話し
かけたりするだけでなく、お年寄りの人や、
子どもづれの人や足の不自由な人や、妊婦
などの人たちに、親切にすることも大切だ
と思いました。私は、あいさつや話しかけ
たりするのと同じように、お年寄りなどに、
親切にする人が少し少ないように思えま
す。私自身も電車などで、満員のとき、お
年寄りに話しかけて席をゆずるという行動
は、けっこう勇気がいることだと思います。
だけど、そこで勇気をだして、話しかけは
しなくても、ただそっと立ってお年寄りの
方などを席にうながしてあげるようなこと
ができれば良いと思います。電車だけでな
く、歩道などいろんなところで、困ってい
る人を見つけたら、助けてあげられるよう
になればいいなと思います。私も、声をか
けられたら、笑顔で返せるようにして、自
分からも、あいさつをしたり、困っている
人がいたら、優しく声をかけられるように
したいです。

このように、少しずつ周りの人たちとの
交流を増やしていつて、もし、ゴミ拾いな
どのイベントがあつたら、進んで参加する
ようにしていきたいです。福島県は、地震
のこともあつたので、復興のためにもみん
なで福島市を親切で愛情あふれる笑顔のま
ちにしていきたいです。そして、このよう
なことを福島市からも、広げていけるよう
にしたいです。

「福島 of 自慢できるところ」

福島市立大島中学校

宗 像 雪 音

私は、この作文を書くにあたって五年生の授業を思い出した。その授業は、昭和二十五年から昭和四十五年高度経済成長期に社会は発展する一方、自然は破壊されていったという公害の授業だった。

その時教科書で見た川は、洗剤で泡まみれになっていたり、川の生き物は水面に浮かんでいて、私は気持ち悪いという印象をもった。

また、その汚染された川で泳いでいた魚を食べた人が病気にかかり今でも後遺症で悩んでいる人もいる。その病気とは四大公害病と呼ばれており、「水俣病」「第二水俣病」「四日市ぜんそく」「イタイイタイ病」という病気だ。

でもこれは、人間が出した生活排水や、工場から出た汚水で起こった病気だと考えると少し気が引けた。

その病気にもかかりたくないし、なにしろ私は福島の綺麗な川がそうなってほしくないと思った。キャンプで行った五色沼も猪苗代湖の自然もずっと綺麗なままがいいと思った。いや、今以上に綺麗になってほしいと思った。

だから私は、この福島の自然を守るために自分で出来ることを二つあげてみた。

一つ目は、この公害の原因ともなった生活排水を減らすことだ。具体的にどうやって減らすかというと、台所だと、揚げ物などで使った油は、新聞紙やキッチンペーパーに染み込ませ、家庭ごみに捨てたり、容器に入れ次に油を使うとき使つて水道に流さないようにする。このことは私の家でもやっていたことでこれからも続けていきたい。お風呂場では、私は髪が長いのでついつい多めに使つてしまいが、今夜から少なめに使おうと心がけようと思った。洗濯する時は、洗剤の使う量を少なくし、一回で多くの量を洗ったり、あまり汚れていない物は、汚れてから洗う。このことを心がけたい。

二つ目はポイ捨てをしないことだ。これ

は分かっているけど捨ててしまったことがある、私はお菓子のごみを道端の排水口に流してしまったことがある。「ちよつとくらいならいいだろう」という気持ちから環境は悪化していくのだと思う。だから、これからはちゃんとちよつとのごみでも家に持ち帰つて捨てたい。この二つは家族にも協力してほしい。

今回はこの作文で二つあげたが、まだまだ自分に出来ることはいっぱいあると思う。でもまず、この二つから実践していきたい。もうあのような事がおきないように進んで活動していきたい。

でも、私は正直自然のことなんて考えもしなかった。でもこの作文で考え直す良ききっかけになった。

福島を知らない人に福島の自然を自慢できたいと思う。

「東日本大震災を経て」

福島市立平野中学校

鈴木 実乃里

二〇一一年三月十一日に東日本大震災がありました。福島市でも被害は大きく、何年もかけてつくり受け継いできた緑豊かだった町を、たった数分で奪われてしまいました。それでも、皆あきらめず、協力し合い、もとあった緑を取り戻そうと頑張りました。

しかし、今の姿になるのには、とても時間がかかりました。まず、水や電気、食べる物もあまりなく自分のことで精一杯でした。水は遠くにとりに行かなければいけなし、灯りは懐中電灯ぐらいで、食べ物もコーンフレークしか食べれない状況でした。周りの様子が分かる情報通はラジオしかなく、大変な状態でした。地震が起きたときはお皿が割れる音がリビング中に鳴り響きました。私はとても怖くなって、ただただうずくまっていることしかできませんでした。

んでした。こんなとき私以外の人はどうしていたことでしょう。誰かを助けたり、子どもの迎えに行ったり、誰かのためになろうとしていた人もたくさんいたことでしょう。それでも現実には悲しく、亡くなられた方もたくさんいました。

十数日経って水や電気が回復してきたころ、人々は『復興』へ向けて歩み出していました。歌を歌ったり、募金活動をしたり、他県からの協力もあり、だんだんと元の姿を取り戻していきました。そんなとき、私達子供は、それぞれの幼稚園や学校などで、卒園式、卒業式を行っているところもありました。長い間外にも出られなかったので久しぶりに幼稚園の友達や先生方とも会えてとても楽しくて、とても嬉しかったです。私達が入学するころにはほとんど回復していて、緑も豊かになったのですが、放射能の関係で、外での運動ができなかったり、低学年のうちは、アサガオやミニトマトを育てることがあまりできませんでした。しかし、無事卒業できた今となっては、とても楽しく過ごせています。

地震もなく平和に過ごしていますが、私

達に未来をたくして亡くなっていった方々の思いを忘れないように、三月十一日、二時四十六分に、学校があれば学校で、なければ家で黙祷を行っています。

私はこの経験ができてよかったと思っています。理由は、命を大事にする大切さをより強く心に刻めたのと、自分は恵まれた時代に生まれて、もっとたくさんの方に感謝しなければいけないと気付けたからです。実際、水や電気が使えなくなっても怖くなりました。そんな時のお母さんの努力にはとても感謝をしなければいけないなと思いました。

現代では戦争が再び起こりうるかもしれない、これ以上命が失われるのはとてもつらいので、福島市だけでも平和なままでいられたらなと思います。

「くらべてみると」

福島市立平野中学校

佐藤 奈々

私は、三年半バンコクに住んでいました。バンコクと福島市を比べてみたら福島市のよさがたくさん見つかりました。一つ目は、果物がおいしいことです。バンコクは四季がなくてずっと夏なので果物の種類が少ないです。でも、ここは四季があつてそれぞれの季節でおいしい果物が食べれるのがすごくいいことだと思います。二つ目は、便利な飯坂線があることです。気軽に乗れるし家から近い所にあるのがいいと思います。

逆にバンコクと比べて福島市こんなのがあつたらいいなと思うことがいくつかあります。一つ目は福島市は、お店が少ないと思います。私は子どもからおとしよりまで健康に過ごすためにはおとしよりも歩いていけるようなお店があつたらなと思いました。私の住んでいる平野はあまり近くにお

店がありません。なので、車で行くしかありません。二つ目は、安全に過ごすために街灯を増やした方がいいと思います。秋になると夜は真っ暗です。私が下校するところには暗くなつていて帰るのが少しこわいです。なので夜も安全で明るい通学路にして欲しいです。私は、福島市とバンコクで共通していい所に気づきました。一つ目は、人が親切だということです。福島もバンコクも子供に優しくいつもニコニコしています。でも、震災があつて福島市の人は少しつめたくなった気がします。なので私は大人になつたら、子供に親切にしようと思います。二つ目は、電車などが家の近くにあつたら便利だということです。バンコクはBTSというモノレールに少し似ている電車があります。飯坂電車もBTSも安くではやく移動できるのでいいと思います。福島にも道路の上にあるモノレールがあつたら楽しいなと思いました。

三つ目は、お祭りがたくさんあつて楽しいということです。花火大会やわらじ祭り、けんか祭りがあり、年中楽しめるのいいと思います。バンコクはソンクラーンがあ

ります。どっちの国も昔から文化がずっと今までうけつがれていてすごいなと思いました。このような行事はこれからもずっと続いてほしいし、新しいお祭りが増えたらすごくうれしいです。

このようにバンコクと福島市を比べると、いい所が改善点などが見つかり、福島市がさらによい市内になるのではないかと思います。よい点はこれからも続けていったら私はとてもうれしいです。私たちが安全に過ごすためにもっとした方がいいなと思うことはたくさんあります。今回で福島市民憲章についてよく考えることができたのでこのことを忘れないで日常生活に活かしたいです。

「福島市民憲章を知って考えた事」

福島市立平野中学校

歌川 萌子

私はこの作文を書くために初めて「福島市民憲章」というのを知りました。私だけではなくて福島市に住む人でも市民憲章を知らない人は多いのかなと思いました。福島市に住んでいる人として福島の事を考えるきっかけになるような市民憲章なのですごくいいなと思うし、もっとたくさんの人に知ってもらえたらいいなと思いました。私が市民憲章の中で特にいいなと思ったのは、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょうです。

なぜかと言うと、きまりを守ることはすごく大切な事だと思うからです。例えば決まりを守ってポイ捨てなどをせずゴミを分別すると環境に良くなり市民憲章の空も水もきれいなまじりのまちをつくりましょうにも繋がると思います。それに、生活の中で決まりを守る事は、事故や事件を防ぐ事

ができて市民憲章の子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょうにも繋がっていると思うし、暮らしやすくなると思います。なので私は「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」というのが市民憲章の中で特にいいなと思いました。

福島市民憲章の中で他にいいなと思ったものは「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」と言うもので、なぜかと言うと、親切な人が居れば何か困っている人がいたら助けて助けられた人はうれしいと思うし私も他の人に親切にしようと思うことができて親切な人が増えていく事でボランティア活動が活発になったりみんなで協力することが出来るかなと思いました。なので「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というのはいいと思いました。

福島市民憲章は私達が幸せに暮らせて住みやすい街づくりのために福島市民が一同となつて力を合わせることを願って昭和四十八年に作られたと書いてありました。私は、まずは一人一人で自分が福島市民ということにほこりを持って福島の事を

よく考えた一人一人の行動で市民憲章がきちんと出来ているか出来ていないかは変わっていくのではないかなと思いました。

自然がとてたたくさんあつてきまりを守り安全で家族や友達が幸せに暮らせるようないいまちになるようにルールや決まりをしつかり守って良いまちづくりができればいいなと思いました。

私はこの作文を書くのに初めて「福島市民憲章」を知りましたが、これからは市民憲章を忘れないで過ごして私にも出来るような事があつたら進んで自分からやれるような人になりたいです。

「今だから分かる本当の福島市」

福島市立平野中学校

村 上 真結子

私達が住むまち福島市は、すばらしいまちです。

私が特に、すばらしいと思える事は、とてもすがすがしい緑が広がっている事です。その緑には、一年中カラフルな実があります。さらに、その周りには、静かに家々が並んでいます。人々は、みんな優しく、あいさつが絶える事はありません。そんな夢のようなまちに、二〇一一年三月十一日、大きな緑に立ち向かうように、東日本大震災が福島市を襲いました。幸い海から離れていたため、津波の被害は受けませんでした。想像以上の揺れが福島市民の住むまちを襲いました。外に出ると、これまでとは違く、寒くて、寂しいまちに変わっていました。空を見上げれば、灰色の空が無限に広がっていました。

しかし、地域ごとの避難所を見てみると、

みんな、手を伸ばし、声をかけ合う、以前と変わらぬ光景が広がっていました。自分が辛くても、かたに手を置き、「大丈夫、大丈夫。」と、互いをはげまし合っています。私は、ニュースで、この映像を見た時、心から、このまちは、本当に、本当に、すばらしいと思いました。今は、実際に復興も進み、一瞬途絶えてしまった緑になるカラフルな実も、また元の姿に近づいています。私が、今までは、当たり前だと思っていた事が、この東日本大震災を経験した後、当たり前ではなかったんだ、そして、これも福島市の魅力なんだと思った事があります。それは、隣近所仲が良いという事です。このように、親しい人付き合いが自然と出来るのも、緑豊かな景色の中で育ち、都会とは違う、数少ない、近所の方一人一人と密接に時を過ごしたおかげなのではないかと、私は考えました。私の家の近所の方は、朝、私達よりも早く、横断歩道に立っていて、それにもかかわらず、一人一人に目を合わせてあいさつをしてくれます。東日本大震災は、私達の心にもダメージを与えましたが、これまでは見えなかった、福島の

魅力も教えてくれました。

私が、このように、福島市のまちについて改めて振り返ってみると、とてもゆるやかで優しく、何よりも、住み心地が良いまちだと思う事が出来ました。

やはりまだ、あの日の出来事で、家族、友人など、身近で心の支えだった人やベツトを亡くし、今だちに立ち直れないで悲しんでいる人も残念ながらたくさんいると思います。でも、そんな時こそ、この温かい市民全体で、時間がかかっても、急がずに、一人一人をはげまし合えば、あの出来事がある前と同じ、それ以上の優しさにあふれるまちになると思います。

最後に、このすばらしいまちを存続させるため、今度は私達が、人と人との密接するまちづくりを、受け継いでいきたいと思っています。

「安全安心に住める町を」

福島市立平野中学校

紺野 美月

私は、小学生の頃電車に乗ったとき、ある男子高校生がおじいさんに席をゆずっているところを見たことがあります。電車の中には、特定されている席などがあるけれど、人が多いときには、座ってしまうことがあると思います。でも、特定されていない席でもその男子高校生は席をゆずっていました。私は、その勇気のある高校生を今でも覚えています。だから私は、あの時の高校生のように勇気のある優しい人になりたいと思っています。

このように、私が見た男子高校生のしたことは、おとしよりや子どもに優しく安全な町にするためのとても大事な一歩だと私は思います。

自分が悪いことをしてもそれを悪いと思わないのは一番悪いことです。電車という狭い空間の中で、それを分かって行動する

人が安全な町にするために必要な人であると思います。また、理想の町にするためには、あたりまえのことを、あたりまえにする。ということも大切だと思います。この電車の中でのこともそうですが、普段の生活にも欠かせないことだと思います。たくさんさんのルールや法律、条例があるなかで、守るということは、あたりまえです。ですが、あたりまえのことをすることが、私達にとつて難しいことなのではないかと思っています。学校や家でのルール、きまり事は、必ず守る。私には多分出来ないと思っています。色々なルールに従って行動することは一人ではできないと思うからです。

このような考えは、電車での男子高校生のように「一人が一人のために。」ではなく「一人はみんなのために。」という気持ちをもっていたから、できたことではないかと思います。なので、この気持ちを色々な人がもつと良い町になるのではないかと思います。

そして、福島市が優しく、子どもからおとしよりまで安心して暮らせる町にすることが私が、福島市民であることの一番の願

いです。

私達が、安全で安心な町をつくるには、小さなことからこつこつと積み重ねていくことだと思います。まずは、市や町という広い範囲ではなく、学校や家、地域から始めるべきだと思います。例えば、定期的に行う清掃や暗い場所への街灯設置など、色々な場所を清掃したりすることも安全、安心な町をつくるために、私達が出来ることなのではないかと思っています。

そして、私の理想の町をつくってもらうのではなく、自分達でつくっていくことが大切だと思います。今の私の課題は、「一人はみんなのために、みんなは一人のために。」というように協力していくことです。

「福島への思い」

福島市立平野中学校

日下部 華

私は、福島が大好きです。澄んだ空気、綺麗な水、そして、おいしい果物がたくさんあります。地域の人たちも優しくあいさつしてくれたり、子どもの安全を守るため朝早くから横断歩道に立っていてくれたりと、とても親切です。でも、そんな福島に東日本大震災がきてしまいました。

それは、二〇一一年三月十一日の午後二時四十六分にきました。最初は、小さなゆれだったのが、少したったところには、驚くほど大きなゆれになっていました。私はそのころ、小学生になるころで、家にいました。家のものがバン！という大きな音をたてて倒れていったのをよく覚えています。何が起こっているのか分からなく、とてもこわかったです。分からなかったからこそ、こわかったのかもしれない。大人の人たちは、地震がくるとどうなるのか分かるか

らこわかったのかなと思います。いきなりきたので、仕事をしていた人、学校に行っていた人、休んでいた人などたくさんいると思います。地震がくると分かっていれば、非常食を準備したりと、すぐにひなんできるように準備ができたと思います。でも、地震がくるとは誰も分かるはずがないのでとてもあわてたと思います。私はこの地震を経験して、万が一に備えて準備をしておくことはとても大切だと思いました。この地震で壊れてしまった福島第一原子力発電所の放射線のせいで福島のおいしい果物は食べれなくなっていました。前まで、とてもおいしくたくさんあった果物を食べられないというのはとても悲しかったと思います。福島綺麗な水も放射線が入ってしまったている可能性があるのです。飲めなくなっていました。福島のおいしい果物、桃や梨、りんご、福島のきれいな水も飲めないという生活が何日も、何日も続いたのだとても悲しかったはず。けれど、今では、福島のおいしい果物は戻ってきました。綺麗な水も飲めるようになりました。そして、前のように地域の人々も子どもた

ちの安全を守るため、横断歩道に立っていてくれたりします。今では、東日本大震災がなかったかのようにみんな元気に過ごしています。小学生になる前だった私も今では中学一年生になり勉強に部活に頑張っています。部活は、吹奏楽部です。いつか、音楽で福島をもつて元気にしたいです。

東日本大震災、それは忘れてはいけません。東日本大震災、それは忘れてはいけません。次世代へと伝えましょう。福島は、空も水もきれいなみどりのまち作りにはげんでいます。福島の人たちで作りあげていきましょう。空も水もきれいなみどりのまち、福島にしましょう。

「希望に輝く未来のために」

福島市立平野中学校

柿崎 紗那

二〇一一年三月十一日に東北地方を中心に東日本大震災が起きました。何千人もの人々が波にのまれて亡くなってしまいました。そのことを通して悲しみや苦しみをかかえている人がたくさんいます。家族の中の誰かが亡くなってしまったら一生悲しみが残るでしょう。

私のお母さんの友達の子供がまだ二歳なのに病気で亡くなってしまいました。その時私はとても悲しくて涙が止まりませんでした。その子の家族はともつらかったでしょう。その子は、お医者さんに「この子は一歳まで生きられない」と言われていました。けれどもその子は自分の生きる力を信じて二歳まで生きました。そのことは私たちにとってもうれしいことですが、亡くなってしまうのはとても悲しいです。

この大震災では、苦しくて大変な思いを

経験し、とてもつらいことだということが分かりました。

次に、自然のことです。福島県はとても自然豊かな土地だと思います。その震災で「どれだけの自然がなくなってしまうんだろう」と気になりました。平野はとても果物や野菜がさかんな地域です。とてもおいしいです。

次に放射能のことです。震災の影響で放射能が体についてしまうおそれ、不安がありました。私たちはまだ幼稚園生だったのであまり覚えていないけれども、外で遊ぶことがとても楽しかったと思います。けれども放射能で外で遊ぶなくなってしまう体力があまりなくて、とても不安でした。

今は二〇一一年の震災の時からくらべると安心した生活を送れるようになったと思います。これから先、希望に輝く未来のために私たちができることが三つあります。

一つ目は、自然を大切にすることです。緑がなくなってしまうたら福島がとっても変わってしまうのではないのでしょうか。なのでもっと自然を大切にしようと思は思いました。

二つ目は、友達、家族、人間を大切にすることです。そのような人間がいなければ人生が楽しくなくなってしまうと思います。人は最終的には亡くなってしまいうので、亡くなってしまうたらとても悲しいです。その気持ちは誰でもそうだと思います。

希望に輝く未来のために私が考えたことから分かることは、何に対しても大切にすることが大切です。そして、誰でも最後は亡くなってしまう、命を亡くしてしまうのです。そのことを考えると今の人生を絶対むだにしたいです。人間を大切に思うこと、相手の気持ちを考えることも、もっとも大切なことでしょう。これから先何が起るかわかりません。どんなことがあったとしても、人生をむだにすることなく希望に輝く未来に向かってがんばりたいです。希望に輝く未来のために。

「親切で思いやりのある町」

福島市立平野中学校

後 藤 宏 哉

みなさんは、良い町と聞かれると、どんな町を想像しますか。遊ぶ所が多い町や、にぎやかな町と、答える人が多いかもしれません。だけど僕は、親切で思いやりのある町が、良い町だと思います。親切で思いやりがあれば、人とのコミュニケーションをとることができ、そこから、笑顔がだんだん増えていく。親切や思いやりは、いいことだらけだと思います。

逆に、親切や思いやりがないと、人に譲るやさしさがなく、相手とすぐけんかになってしまいます。だから、親切で思いやりのある町を目指していったほうが、いいと思いました。

では、どうしたら親切で思いやりのある町になるか、考えました。僕は二つ思い浮かびました。

一つ目は、日ごろの生活での行いです。

いきなり大きなことに、手をつけようとしても、何をするか分からず困ってしまいます。でも、身近なことから、コツコツやっていけば、大きなことに手を出そうとしても、今までやってきたことを活かせば、必ず人の役に立てると思います。例えば、おじいさんやおばあさんの重い荷物を持つや、迷子の子どもを助けたりなどのことは、人の役に立てると思います。親切なことをすると、

「ありがとう。」

と、お礼の言葉を言っていただけです。お礼の言葉を言われると、人は嬉しくなり、親切なことをしよう、という気持ちになります。親切にされた側は、（自分もされたから、今度は自分も人の役に立とう）という気持ちになって、みんなが親切になると、思いました。

二つ目は、ボランティアに積極的に参加することです。ボランティアに参加すると、人と触れ合うことができ、人の役に立つことができるからです。ボランティアは、いいことだらけだと思います。だからこれからは、積極的にボランティアに参加して、

人の役に立って、どんどん自分から、親切で思いやりのある町に、していけたらと、改めて思いました。

この二つのことをやっていけば、いつか自分達の町が、親切で思いやりのある町という目標にたどりつけると思えます。だから、自分だけで手を出さずに、友達などをさそってボランティアに参加したり、家族といっしょに出かけたときなどに、困っている人を助けて、一歩でも、目標の町に近づきたいです。そして、その目標を達成しようとすることで、自分も成長できるので、今後は、町のためになることをやりたいです。

「緑・人の心たくさんの

きれいがある市」

福島市立平野中学校

浅野 寿音

私は福島市が、緑も人の心もたくさんのきれいがある市だと思っていますしこれからももっときれいにしていきたいと思っています。

六年前、東日本大震災の影響で福島県は、大きな災害を受けました。あの辛い出来事からもう六年が経ちました。まだ復興は、完全に終わっていませんが、被害があつた当初よりたくさんの緑が、見受けられるようになりました。例えば森、私は森が大好きです。なぜなら四季ごとにいろいろな魅力が、あるからです。春には、所々に桜がありその周りをまるで守るように枝を広げる木達がいる。私は、その景色を見てあたたかさを感じました。夏には、たくさんの木達が、秋に実を落とそう、花を咲かそうと一生懸命に木をゆらしています。秋には、

葉や実や花を咲かし落とした木達が、ゆっくり風に乗りながら枝をゆらして自分の今年の役目は、終わったのだと動物達のように安らかな眠りについているようです。私は、こんな木達を見て母親の子離れしていく子供達を見ているような気分になりました。冬には、秋に役目を果たした木達の上に真白い雪達が、優しく布をかぶせるようにおおいかぶさっています。私は、これを見て外は、寒いというのに心が暖かくなりました。このように大きな災害が、あつた福島市でもこんなに四季が楽しめます。

緑・自然だけではなく人の心も東日本大震災で傷つけられました。家族・恋人・自分の大事な人が亡くなられて心が折れて立ち上がれなくなった人もいました。でもそんなときは、近所の人・知り合いなどたくさんの人が支えになってくれたのではないのでしょうか。少なくとも近所の人・知り合いではない有名な芸能界の方々が、福島の人々の心が、回復するように、福島が、復興するようにとライブや様々な活動をして下さっています。それは、六年経った今でも変わりません。ですから東日本大震災で

大事な人がいなくなったとしてもだんだん元気になりつつあります。私の周りの人達もみんなとても元気です。私の知り合いに自分の息子が、津波に流されて亡くなってしまった方がいました。ですが、その方は、私が元気がない日もどんな日でも登校時や下校時に会えば、家族のように

「おはよう。いつてらっしゃい。」

「おかえり。」

などを明るく元気に声をかけてくれます。はげます側なのに逆に励まされています。ですから私は、人の心は、強くきれいだと思いました。

福島市は、私が述べた以外にもたくさんの素晴らしい魅力が、あります。ですが、これからももっと魅力を増やしていけば、もっともっと素晴らしい市になると思います。私の目標は、今より福島市の魅力を増やすことです。

「自然が豊かな福島市」

福島市立平野中学校

木村 有 亜

私は、自然が豊かな福島市が、とてもいい所だと思います。

春には、満開の桜の花が咲き、夏には、果樹園に緑が広がり、秋には、紅葉で葉が赤く染まり、冬には、葉が雪に包まれキラキラ光り輝く、とてもいい市だと私は思います。

山や川などがきれいなので、空気がすごく澄みわたり、果物は、桃がすごくおいしいです。

最近では、自然に興味がない人や、自然を大切にしない人も増加してきている中、福島市民は、みんなで自然を守るいい市だと思います。

私も小さい時は、自然に興味はなかったけど、家で小さいいかや、トマト、アサガオを育てて、自然の大切さに気づきました。

それからは、家の人にやってもらっていた水やりや肥料、できたトマトの収穫などを自分でするようにしました。

今でも、アサガオに水をあげたりしています。

これからも自然を大切にしたいと思いました。

今年の夏休みに家族で静岡に旅行へ行った時に、商店街があり、道路のまわりには、結こうゴミが落ちていました。

あき缶やおみやげのゴミ、食べ残しなどが、あらゆる場所に落ちていました。

それに、色々な場所にゴミ箱が置いてあり、そこにみんながゴミを捨てていき、ゴミ箱からゴミがあふれ出ていて、通行のじゃまになっていました。

それにくらべて福島市は、ゴミ箱が設置されている場所が少なく、みんな自分達が出したゴミを、家に持ち帰って分別して捨て、決められたゴミの日に出して、とても自然を大切にしていると私は思います。

でも、福島市もまだまだ自分達が出来ることがたくさんあると思います。

落ちているゴミを進んでひろったり、紙パックなど、リサイクルできるゴミは分別して出したり、レジ袋を使わず、エコバッグを使い、むだを減らしていくなど、私でも出来ることがたくさんあります。

平野中では、エコキャップを集め、世界中で、お金がない人達にワクチンを届ける取り組みや、紙パックを、リサイクルするなど、ゴミを増やさない様、みんなで協力しています。

このようなことから、自分達で出来る事や、みんなで協力して出来る事がたくさんあるということが分かったので、これから私も、地域の人々にこうけん出来るよう、進んで行動したいです。

「よりよい福島をつくるために」

福島市立松陵中学校

寺 島 一 翔

僕は、福島市民憲章を初めて知りました。その中でも、「空も水もきれいなみどりのまち」について、僕達に何ができるのか考えました。

僕の住んでいる地域には、「土合山」という山があります。土合山は、僕達の住んでいる地域の誇りです。土合山では、毎年きれいなあじさいが咲きます。地域の中学校の前にも、「フラワールード」という道があります。

そんな豊かな自然を守るために、僕達ができることについて三つ考えました。

一つ目は、空気を汚さないために、一人一人、努力すればいいのではないかと思いました。空気がきれいになれば、植物も元気に育ち、誇りである土合山のあじさいも、きれいに育つのではないかと思いました。そして、一人一人の努力によって、地域の

人達との関係が深まるのではないかと思いました。

二つ目は、空気だけでなく、水もきれいにすることも大切だと思います。僕の家の近くには、「水原川」という川があります。水原川には、たくさん生き物が住んでいるのですが、時々、ゴミなど流れてくるのを見かけます。これは川を汚すことと等しい行為だと思います。川を汚すことは、川の生き物達の生活を壊すことにもつながるし、安全ではありません。水をキレイにする為には、ゴミを捨てることはどういうことにつながるか一人一人考え、実行することが大切だと思います。

三つ目は、ボランティアなどの活動に積極的に参加することです。川の清掃、山の清掃などの清掃は、僕達中学生でもできることだと思います。同時に、ボランティアに参加することで、地域の人との関係が深められるのではないかと思いました。

福島の魅力は、やっぱり植物と豊かな自然なので、それを守り続けるためには、やっぱりキレイな空気と水が必要だと思うので、みんなで豊かな自然をつくっていき

います。

これからは、自分は、

「自分に何かできることは、ないかな？」

「今、自分がすべきことはないかな？」

などのように考え、実行していきたいと思っています。

自分はこの福島市民憲章をしっかりと守り、多くの福島市民に、この福島市民憲章を発信していきたいです。

「住み良い安心なまちづくり」

福島市立松陵中学校

齋藤 清哉

僕が考える安全で健康なまちとは「地域の人々がお互いに声をかけあうまち」です。僕の通っていた小学校では、登校班ごとにまとまって集団登校をしていたので、車の通りの多い危険な道などでは必ず育成会の保護者の方や交通指導の方が立ってくれて、「おはよう」「いつてらっしゃい」との声をかけてくれていました。また帰りには見守り隊の人々が「おかえり」「気を付けて帰るんだよ」と声をかけて頂いたので、中学生になりそうした地域の方々がいて下さるので、人の目が行き届いて犯罪などの防止にもなるし子供達が安心して登下校できるので僕達も地域の皆さんと交流を通して安全なまちづくりの大切さを考えていきたいと思っています。

地域の方々が、子供だけでなくお年寄りまで気軽に声をかけ合い助け合えば一人暮

らしのお年寄りでも安心して生活できるまちになると思います。

また、人々の気持ちの他に道路についても同じ事で僕が小学校五年生の時に、道路のは装の割れ目に自転車が入った事があり、ころんで右うでにひびが入った事がありました。道路がきちんと整備されていれば転ぶことはなかったな。と思うと僕だけでなく小さい子供やお年寄り、体の不自由な人は、もっと大変だと思います。そうした経験を考えてみても一口に安全といってもいろいろな事があると思います。その中で僕は人々のあたたかさや道路の安全について皆にも知ってもらいたいと思いました。

視覚障害者の人は、足の裏の感覚で安全に誘導するために点字ブロックを利用しています。一方足の不自由な人や車椅子を利用している人にとっては、点字ブロックのある場所を通行する際に足のつまさきがでっばりの部分につっかかり通行しにくいという難点があります。

現在全ての人の利便性にはいりよした「ユニバーサルデザイン」としてゴム製の点字ブロックを利用した調査を行うなど快

適に利用できる様に「点字ブロック」「誘導マット」のへいような点字ブロックの改良も進んでいます。まだまだ問題点も多く視覚障害の方にとっては住み良いまちではないので設置方法や素材の見直しを含め全ての人に優しいまちづくりを考えるのは大変むずかしいと思います。

それらを踏まえて、現状の問題を全て直すというわけにはいかないけれど今後の留意点として知っておく必要があると思います。人の認識が変わる事により住みやすいまちづくりが実現できると僕は思います。

もし困っている人を見かけたら率先して声をかけて手伝えることがあれば手伝い困っている人の力になれるように努力していきたいです。

「心地よく住める町を目指して」

福島市立松陵中学校

菅 野 由佳理

私は、福島市民憲章というのはどのようなものなのかと初めは思いました。福島市という桃やリンゴを思い浮かべることができません。

私が、幼稚園の年長のときに東日本大震災がおきました。私はこの時、まだ幼くて東日本大震災について何も分かりませんでした。テレビで放送されている地震や津波についての情報。その全てが幼い私にも大変な事だということを伝えるものでした。

その後、福島第一原子力発電所が爆発し放射能が飛び散りました。その影響で福島の桃、りんごなどの農作物に悪影響が出ました。「放射能がついている。」や「福島のものだから食べたくない。」など、たくさん言われました。私の親戚にも果物農家の人がおり、実際私は福島の果物を食べてい

ました。その果物は、とても甘くておいしいものでした。放射能の影響をあまり受けていない遠くの地域にまで悪影響があったのです。松川も校庭やプールで遊ぶことができなかったりしました。「親切で愛情あふれるまちづくり」という一言が最も目指すものだと思います。福島は五年前このようなことができていました。

このような町にするために私が考えたことはまず市民全員に福島市民憲章を知ってもらうことだと思います。市民全員が知ることによってお年寄りや子供を手助けしてくれる人が出てくると思います。市民に知ってもらうためにやることは市役所の前に福島市民憲章を掲示すべきだと思います。

次に、目の見えない人、耳の聞こえない人のために盲導犬、聴導犬が入れる店や施設を増やすことだと思います。このような施設が増えることでみんなが住みやすい、愛情あふれる町になると思います。

最後に、私たち一人一人ができることは、二つあると思います。

一つ目は、お年寄りが重そうな荷物を

持っていたら手伝ってあげることです。勇気が出なくても頑張ってみるといいと思います。

二つ目は、ゴミが落ちていたら拾うことです。ゴミを拾えば、それを見た人が「自分もやらなければ」と思うようになるからです。

私も、福島市の一員として福島市を「親切で愛情あふれるまち」にしていきたいと思っています。

これから福島市民として自分ができることはお年寄り、幼い子供に道をゆずり、逆にゆずってもらったら礼をして感謝の気持ちを伝えることをしていきたいと思います。福島市をいい町にできるようにがんばりたいです。

「福島市民憲章作文コンクール」

福島市立松陵中学校

齋藤 琉菜

私は福島市民憲章があることを今回初めて知りました。私はこの五つの憲章は一つ一つが福島にぴったりでいいなと思いました。この憲章をもっとたくさんの方が知ればもっとすばらしい福島がつけれるのではないかと思いました。その中でも、私は特に「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」という憲章が心にひびきました。そこで、福島市がこの憲章を行って良いところと少し工夫するといふところを自分なりに、考えてみました。

まず良いところです。良いところは、東日本大震災が起きてから、しっかりと放射能の検査をしているところです。特に食べ物の検査です。その検査をしつかりすることと人々に、安全と健康を与えていると思います。私は、こういう検査などをこれからも続けていくことで、放射能に困ってい

る人々などが、不安や心配もなくなると思っています。これが、私が思うこの憲章の良いところだと思っています。

次は、悪いところです。悪いところは、人が歩くところが危ないというところです。それは、歩道に段差があったり道がせまかったりして、子どもからお年寄りも転びそうになったり、ケガをしてしまったりするということです。

そこで私が考えたことがあります。それは、人が歩くところをもう少し広くするということです。歩道に木の根っ子が太くなり盛り上がりて危ないところや段差があるところなどに「この先、段差があります。気をつけて下さい」などの看板を設置したり、ボランテニアでよびかけをしたりするということです。このようなことをすることで、お年寄りなども人とぶつかることが少しでもへり、それに車いすの人たちのものびのと歩くことができ段差などがあるところに看板を設置しておくことで、歩道を歩いている人達が、「この先に段差があるんだな」と思うようになって、子どもからお年寄りまでみなさんがケガが少しでも少なくなる

と思います。

このようなことを一人一人が意識して生活すればきっと福島の復興のどこかにつながっていくと思います。自分達ができることは、しっかりと取り組むことと、道ばたで、お年寄りなどの人が困っているような姿を見たら、自分達から声をかけ、助けるといった行動を取ることと、地域の人達とのきずなが深まると思います。お年寄りが、荷物を重そうにしていたら持つてあげたり、道が分からなかったりしたら、少しでも役に立てるように助けるといった行動をとり、少しでも福島の復興のために役に立てたら良いなと思いました。

「福島市民憲章から見る

福島市の現状」

福島市立松陵中学校

渡 邊 大 河

私は、夏休みに入る少し前に、初めてこの「福島市民憲章」を読みました。そこで、私は、「福島市民憲章から見る福島市の現状」として、三つの視点から考えてみました。

一つ目は、「空も水もきれいな みどりのまち」についてです。これについては、地域などによって違いはあると思いますが、いい状況にあると思います。例として、私の住む松川町では、地区ごとにごみ拾いや廃品回収を、土日や祝日、長期休暇中に、大人と子供で協力して行ったり、町のクラブや愛好会などが、周辺住民などとともに大がかりなクリーン活動などを行っています。これらは、福島市民憲章の「きまわりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」の、「隣近所なかよく、助けあいましょう。」ということにも、通ずるところがあると思います。

ました。

二つ目は、「教育と文化を尊び 希望に輝くまち」の、「家庭、学校、地域社会が一体となり子どもたちに行き届いた教育をしましょう。」についてです。これについて、例として松陵中をあげると、とてもいろいろな活動を行っていると思います。地域交流活動として、委員会ごとに地域の方々とふれあえる場が設けられていたり、地域の企業の方をお呼びして、インタビューをしたり、逆にこちらから地域の企業を訪問して、もっとくわしくお聞きするなどの、地域交流のできる場が設けられています。

三つ目は、「きまわりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」の、「乗り物や公共施設などの、利用ルールを守り、人に迷惑をかけないようにしましょう。」についてです。これについては、問題点もあると考えました。ここで例としてあげるのは、電車と地域の学習センターです。まず、電車では通話は禁止と決まっているのにも関わらず、平気で通話をしている人がいます。また、電車が混んできても、座席を荷物でうめてしまっている人も見かけます。次

に、学習センターでは勉強している人もいるのに、騒いだり、大音量で音楽を聴いている人もいました。公共の場での、このような行動は厳しく対処するべきだと思います。

このように、改めて福島について考えてみると、良い点もあるが、悪い点もあることが分かりました。これからも、良い点は続けて受け継いでいきたいと思います。悪い点は、中学生が直していくことで、大人もこのままではいけないと考えられると思うので、まずは僕達中学生が行動していけば改善されると思います。良い点は受け継ぎ、悪い点を改善すれば、福島市はもっと良くなると思います。

「空も水もきれいな

みどりのまちをつくろう」

福島市立松陵中学校

橋 本 尚 弥

僕の周りは、公園や川、山などの自然がとても豊かで空気などがとてもおいしいです。

それと比べて、都会などに行くとゴミや、工場などがたくさんあり、木が少ししかなくてあとはビルや店、駅などが多くあります。福島に比べて緑がとても少なく感じます。

福島や東北の人達は、六年前に忘れたくても忘れない出来事がありました。東日本大震災です。東日本大震災が起こった時、放射線などの影響で外で遊んだり出ない状況にまでなり、その頃は空気がキレイな福島とは言えませんでした。また、福島は桃がとても有名ですが、農家の人達は桃の実が育たなくなったり、実が甘くならなくて虫に食われダメになったりしたそうです。

あの頃の農家の人達は大変だったと思います。

次に福島市の国体記念体育館のそばにある荒川についてです。荒川は震災で、他県からの印象が悪いイメージがついてしまい信頼度が減ったと思います。その印象を直すのにはとても時間や苦労があったと思います。福島の誇れる一つの名所なので「きれいな川荒川」というイメージを壊さないようにこれからも大切にしていきたいです。

東日本大震災が起きて、福島市には地震の被害がありました。大きなものではありませんでした。しかし、とても恐ろしい津波が人々の命を奪いました。しかしそこから立ち上がり、復興の努力をしています。僕はその復興した浜通りのチームワークなどを福島市でも再現して街をキレイにしたり、川を今の川より魚達が喜ぶようにゴミを拾ったりしてキレイにしたり、山のゴミを無くすボランティア活動を行って、町などを緑豊かにするために活動したいです。具体的には花や植物などでいろんなメッセージを作って初めて福島市に来た人など

を驚かせてみたいです。そして行こうかな、など思ってもらいたいです。来た人がうれしくて、福島市は川がキレイ、空気がおいしいと思っしてほしいです。ボランティアをみんなが行う事によって、旅行者などにとってもいい印象をあたえられるので積極的に行動すべきだと思います。

これから、この様な活動を行って、福島市に来る人達に安心して旅行にきてもらえるように、福島市を緑豊かで川にゴミなどを捨てないように、呼びかけたりして町がキレイと言われるようにしたいです。学校や会社などで例えば、花を植えたり、花びんに花をいっぱい育てたりすることも、私たちができることの一つです。

これらの、活動を行なって福島市をすばらしい市にしたいです。

「ほこりを持って！」

福島市立信夫中学校

丸 山 虹

「山のおいがするね。」

「うん。雨のおいもするね。」

東京へ一泊二日の旅行へ行って福島につき、新幹線を降りて、兄とした会話です。

東京は、信じられないくらいの人や物の量と、いろいろな食べ物屋さん、流行りの洋服屋さん、雑貨屋さん、魅力的な物ばかりでした。とっても楽しくて、とっても満足して、東京に住みたいなんて思ってた。帰って来ませんでした。

でも、新幹線を降りた時、山に囲まれた、福島の土や葉っぱのにおい、雨が降った後のひんやりとした夜の空気がとても居心地が良くて、なんだかほっとしました。ああ私は、この感じが好きなんだと思いました。

私は今、中学一年生です。五年後には、高校を卒業していて、福島を離れるかもしれ

れません。

たった五年しかありません。

だから、この作文をきっかけに、福島のすばらしい所をたくさん見つけたいです。

私は中学校まで、自転車通学をしています。通学路は、自転車専用通路はなく、せまいですが、毎朝、旗を持って、交通整理をして下さるボランティアの方々がいて、安全に通学できます。

通学路は、中学生だけではなく、小さな小学生達も、一緒になります。なので、横断歩道は、自転車から降り、押して歩きます。

大きな県道を渡り終えるまで、左折する自動車も、私達を待っていてくれます。

学校のルールだから、やっている事だけど、いろんな人の親切や思いやりがあつての事なんだと思います。

私は、福島市民憲章を初めて知りました。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」

「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」

「親切で愛情あふれるまちをつくりま

しょう。」

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」

福島市民憲章を知らなくても、福島の自然を居心地よく感じたり、安全に通学できたりたくさんの方々に囲まれているそんな福島が大好きです。

これからもっと福島を知り、ほこりを持って生き生きと生活していきたいです。

「ふくしまのために」

福島市立信夫中学校

青 田 槇 花

福島は緑豊かでとても美しいまちです。外を歩けば美しい空気。外を見わたせば美しいけしき。そんな美しい福島の中にも、汚れた所があるのです。

私は去年、四季の里の夏祭りに行った。たくさんさんの屋台にたくさんさんの人。これぞ夏祭りっていう感じだった。シーツをしいて花火を今か今かと待つ人もいれば、屋台だけよって帰る人もいた。その中で私達は、シーツをしいて花火を見ることにした。花火を見るまでに時間があつたため、私は屋台に行くことにした。人混みがひどかったため、お母さんと二人で行く事にした。屋台に近づくたびにおいしそうなにおいがする。何を買おうか決めて屋台にならんでいた、その時だった。私の目の前を通つたある男性が、自分が持っていたゴミをそこらへんに捨てたのです。私は、あつと思つて、

声をかけようとしたが、そんな勇気なんて私にはありませんでした。捨てられたゴミは、人混みの中で人にさけられながら、ぼつんとあるだけでした。こんなに美しい福島にわざわざ汚れることをしなければならぬのだろうか。そのくせいは今だけじゃありませんでした。花火が終わり、みんなが帰つていったその所々にゴミがちらこちらにちらかつていたのです。これはみんな誰のために汚すのでしょうか。このままでは美しかった福島がそうではなくなつてしまふ、そう私は思いました。ゴミを平気で捨てるということは、どういう事なのか、どう福島が変わつていつてしまふのか、ゴミをそこらへんに捨てる前に、もう一度良く考え直してほしいです。福島の人達のためにも。福島のためにも。

私は、何か、誰かをぎせいにして自分だけ楽をしようという考えは良くないと考えています。福島は、緑豊かなまちです。そんな福島を悪くしていく人達は福島にはいてほしくありませんし、そのような考えをしてほしくありません。そんな時こそ、みんなで協力して力をあわせていけばいいと思

います。

今では、ボランティアで活動してくださっている方々がいますが、その人達は、だれのために、どのような気持ちで活動しているのでしょうか。ただ、やってみよう。というその気持ち、必ず人の役になっているのです。そんな気持ち、いつか福島の方々に伝わればなと思いました。

「空も水もきれいなみどりのまち」

福島市立信夫中学校

大橋 さくら

私は、この福島市を緑がたくさんある町だと思っています。なぜなら、私に通っている信夫中学校の周りは、田んぼや山々などの植物にかまれているからです。それに、空が美しく青々として、日光もほどよく照っていて米もほつたが落ちるほどおいしいです。

一方、福島市は水は汚い方だと私は思います。それは、私の家の近くには川が流れています。ですが、時々くさった野菜・果物やゴミがたくさん流れます。そして、川はにごり、茶色くなっています。私は、その原因は人がいらなくなったものを川などに捨てているからだと考えます。なぜなら、前に年よりが新聞を川にこっそり捨てていたのや小学一・二年生が、おたよりを投げ捨てているのを見たからです。

ですから、川をきれいにするために、私

は次の三つのことをすれば良いと思います。

一つ目は、川に物を捨てないように呼びかけることです。例えば、川や交番の近くに「ポイ捨て禁止」という内容のポスター・かんばんをつくれれば読んでくれて、ポイ捨てする人も減ると思います。

二つ目は、川や道路のゴミを拾うボランティアをつくればいいと思います。それは、小学生の社会で、今までゴミだらけだった川をボランティアの人がそうじしたら、わずか一年でゴミもなく水もとう明になったからです。

三つ目は、ゴミをゴミ箱に捨てたら商品券がもらえるという機械をつくればいいと思います。それは、小学生の時にゴミを減らすためのレポートを作るために、パソコンで調べていた日です。そうしていたら、フィンランドでペットボトルがある機械に入れると、ゴミを入れた数だけ近くのスーパリーの割引券がもらえるということが分かりました。それは、ゴミを捨てる人も環境にもいいことなので、福島でもやってみたら効果があるのではないのかと私は思います。

す。例え、そのような機械がなくても、ゴミ箱の近くに割引券を持った人がいれば、その代わりになるかもしれません。

そのようなことを、何年もやっていくうちに、川にゴミを捨てる人も減り、色がとう明になったりするのではないのでしょうか。川をきれいにする三つの方法は、やるにはたくさんのお金や苦労がいるとは思いますが、私も福島の水をきれいにするためにがんばりますので、これからよりよい空も水もきれいなみどりのまち「福島市」をつくっていきましょう。

「きれいなまちを造るため」

福島市立信夫中学校

佐藤 花菜

私は、福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまち」というものから、福島市は、自然豊かだなど改めて思いました。

福島市は、道を歩いていても、ほとんどゴミが落ちていなくともきれいだと思えます。それは、みんなが道などにゴミを捨てないよう普段から心がけているからだと思います。でも河川や川などに行くと缶や袋などのゴミが捨てられているのを見ますよね。河川などではバーベキューをする人がいて、ゴミなどが落ちていたり、汚れてしまったりするのだと思います。だからといって、ゴミを河川や川などに捨てることは許せません。

それは、川などが汚れてしまい、環境が悪くなってしまうこと、地球温暖化をすすめてしまうことの二つにつながってしまうと思うからです。

そのようにしないため、まずは「自分の使った場所はきれいにする」、あたりまえのことを全員が心がけるようにしたいです。そして、もつと、ゴミを拾うボランティア活動や、環境を良くするための活動を活発に行っていくべきだと思います。

環境を良くするための活動として、木などを植える、身の周りの環境をきれいに保つ、自然を大切にするなどがあります。最初は、自分が出来る、身の周りのことから取り組んでいくべきだと思います。それから、他のボランティア活動をしていけたらいいのではないのでしょうか。

これらの活動をしていくことで、福島市民憲章の一つである、「空も水もきれいなみどりのまち」を実現することができるのではないのでしょうか。実現することができたら、ただ、自然がきれいなまち、ではなく、友情の輪も広がっていくと思います。それは、ボランティア活動を行っていくうちに、仲間や友達が増えていくはずだからです。このようになれば、もう一つの福島市民憲章である「親切で愛情あふれるまち」にも、つながっていきます。

みどりあふれるきれいな「まち」をつくるだけでなく、人と人とが仲が良くなってほしいです。このような理想の福島のために、一人一人が福島市民であることを自覚し、みんなで協力して、ボランティア活動や、自主的活動を行っていくことをしてほしいです。

「勉強は楽しい」

福島市立信夫中学校

大塚 妃 奈

私は今、学校に行って勉強するという生活が当たり前になっている。でも、勉強が苦手できらいだから、やりたくないという人がほとんどだ。でも、今当たり前になっている「勉強する」ということは、とても幸せなことなんだ。私がこのことに気付いたのは、つい最近だった。

それは、私が家で勉強していた時だった。私は、どうしても分からない問題があり、お母さんに聞いた。でも、お母さんにも分からなかった。勉強ってめんどくさい、と私は言った。でも、お母さんは今学校に行って勉強できるということは、とても幸せなことなんだよ、と言った。大人になつて、勉強しようと思っても、そう簡単にはできない。学校という勉強できる場所がある。先生に教えてもらえる。教科書やノート、筆記用具などを使える。今勉強できる

環境があるということに感謝しなければならぬということを教えてもらった。

それから私は変わった。勉強することが楽しいと思うようになり、学校へ行くのも楽しみになった。もつと学びたい、もつと知りたいと思うから、家での自主学習も増えた。苦手な教科も頑張るようになった。

でも、学級では、勉強がきらいだから、できないからと言って、進んで勉強をしたくない人が多い。そのため、授業では手を挙げて発表しないし、学力も低い。先生にみんなが勉強しようとする意識が足りないと言われた。私もその通りだと思った。勉強がきらいだから、できないからと言って、勉強しない人でも、やれば好きになるかもしれない。やればできるかもしれない。学級みんなできるとすれば、必ず学校が楽しくなると思う。私はみんなが勉強を楽しくやろうとするような学級にしていきたいと思っている。それは、私がいる学級だけでなく、学校全体もそのようになったら、もつと勉強が楽しいと思う人も増えてくるはずだ。

そこで、福島市で、世界で勉強できない

子どもたちのことを学べる授業をやったらどうかと思った。そうすれば、みんなが自分が今勉強できる環境があるという大切さに気付き、自分から進んで勉強できるようになると思った。そして、学んだ世界の子どもたちを応援しようと思う。だから、ぜひ、そうゆう授業をやってほしい。

「日常から一つ一つ」

福島市立信夫中学校

渡 邊 結 宇

「このくらいなら別におこられないし、やってもいいよ。」

この言葉で事故に遭うことや、友達を傷つけてしまうことがある。それを阻止するためにはどうすればいいだろうか。

例えば、学校のクラス内で休み時間になったとしよう。先生が教室から出ていった。勉強をしている人や読書をしている人もいる。そんな中、教室内を走り回ったり、大声を出し、さわいでいる人がいる。こんな人たちがいたら勉強や読書をしている人はどう思うことになるだろう。そして、だれも注意しようとしなない。だから、さわいでいる人たちはどんどん気持ちが高まっていき、ひどい時には数人で一人をいじめ出すようになる。それでもだれも注意しようとしなない。こんな中、だれか一人が

「やめなよ。」

この一言を言うだけで、学級は良くなると思う。みんなの前で声を出したり、数人相手に注意したりするのは勇気がいると思う。でも悪いことをしている人がたとえとても仲の良い友達であろうと「だめなことだめ」としつかりと言えないとだめだと思う。また、だれかがいなくなつたから、という考えでいる人は、信じられなくなり、自分の回りにだれもいなくなつてしまふ。だから、だれがいても、いなくてもしつかりとルールを守ることがとても大事だと思う。また、これは、どんな時でも守らなないといけないことだと思う。

仕事をしている時も同じだ。みんながルールを守り、それぞれの役割を果たすことで、誰かが多く負たんすることはなく、逆に、ボランティアで手伝え、ほめられ、喜び、楽しくほこりを持って仕事に取り組むことができる。そこから生まれてくるのが助け合いである。自分以外にも困っている人がいたら、助ける。このような行動で人は信らいされる。人は、ちょっとした行動で相手に良く思われたり、悪く思われたりする。あいさつ、へんじができない人は

相手に失礼なことをしている、と思い、恥ずかしがらずにしつかりとやるべきだと思う。

一つ一つのちょっとした行動で、ちょっとしたふざけで人は変わる。基本ができなかつたら何をやってもだめだと思う。だから、ルールは守り、だめなことはだめ、と言いつけて助け合う。これがみんなが楽しく気持ち良い気持ちでいられるまちだと僕は思います。

「読書の輪でつながるまち」

福島市立信夫中学校

山田 晴生

みなさんは本を読むことが好きですか。

私は、これから先、より良い暮らしをするには本を読むことが必要だと思います。

まず、一日のわずかな時間、数十分でも数分でも読書をする時間をつくりましょう。私の学校では、朝に読書をする時間があります。これまでに何冊も本を読みました。そのことをきっかけに様々な考え方を持つことができました。本は心を豊かにしてくれる大切なものです。また、作者の伝えたいことや意見を知ること、日常での人との接し方を考える機会にもなるはずですよ。

次に、自分が読んで、「面白い」「不思議だな」「共感した」と思う本を身近な人に伝えてみましょう。こうすることでさらに人との交流がふえます。人それぞれで、好きなものは違います。そのことをしっかりと

と理解して接することも、とても重要なことです。あまり本を読まない人も、その話を聞けば興味がわいてくるかもしれません。するとそれは本を通した、自分の一つの経験になります。ほんの少しのことでも、自分の考えや思いを伝えることでコミュニケーションをとることもできるのです。

そして一番大切なことは、読書のサイクルを心がけ、つくっていくことです。まず、自分が気になる本を見つけてます。次に本を読んで思ったこと感じたことをまわりにいる身近な人に話します。その話を聞いた人も、話した人も、ある一冊の本をきっかけに新しいものを探します。このようなサイクルは、途中に何度も人との交流をします。たった一冊、たった一回の話が、どんどんと新しい読書というサイクルを広げていくのです。

さらに、おたがいの事をよく知り、理解することができるようになります。

本は、たった一人だけで読む小さなものではありません。読んだ人に大きないきょうをあたえます。読んだ人に新しい「見方」や「考え方」も教えてくれます。人と

のつながりのきっかけ、そしてかぎとすることができるようになります。

だからこそ、本という新しいきっかけで、福島市を良くしていくことができると思います。

読書を通して、様々な見方や考え方を持ちましょう。

おたがいへの関心を忘れずに過ごしましょう。

読書を通して、人との交流を大切に、健康で豊かな心を持ちましょう。

この三つが大切で、私たちがより良い生活を送るために必要なことだと思います。

「愛情や希望あふれる町にしよう」

福島市立信夫中学校

齋藤 茉紘

私は、福島市民憲章で、『愛情や希望あふれる町作りをしよう』と言うタイトルをつけました。今、私が住んでいる、大森地区にはたくさんさんの希望があふれています。

三月十一日、この日に、私たちは、東日本大震災にみまわれました。その当時、私は、ちょうど、幼稚園を卒園する、幼稚園年長の時でした。あの日の事は、もうあまりおぼえていません。ですが、震災の時でも、支え合い、助け合う人たちの姿はおぼえています。震災の時、自分の家だけを支えるのも大変なのにもかかわらず、地域の人たち一体となって、地域を守る大人達の姿を見ました。私の家でも、水がとまり、道路からは水があふれていました。水が出なくなると、飲み水が無くなり、お風呂にも入れず、生活に大きなえいきょうをおよぼしました。そんな時でも、近所の水が出

る家から、水をもらったり、友達の家へ、お風呂をかしってもらったり、地域で支え合う、地域の愛情が感じられました。

そして、今までで、一番大きな影響をおよぼしたものは、「原発」私たちの生活の豊かさをさらって行きました。私が一年生の頃、もう、生活の不自由がいっぱいで、前までやっていた事が出来なくなり、色々な事を制限されていきました。例えば、登下校時のマスクの着よう、プールでは、スイミングスクールでの、屋内授業、さらには、福ちゃん牛乳までも制限されてしまいました。私たちは、その程度ですんだものの、今でも家に帰れない人達がいる事や、その人達の思い出が、まだそこに取り残されている事。六年たった今でも、原発の被害の跡が残っています。

しかし、今、希望を持ち、たくさんの方が福島復興を願い、そして、福島県外の人々の支えもあり、今ここに、福島があるのだと思います。県外からの、果実や野菜がたくさん気持ちといっしょに届けられています。人生の中での、大きい未来への影響がありました。過去からの経験を生か

し、希望を持って福島復興を考えたいと思います。

この、福島市民憲章で、つくりたいと思った、愛情や希望あふれる町を今までたくさん経験から学んだ事を生かして、福島市のためにも、未来へ希望を持って、良い町づくりをしたいと思います。そして、経験した事からの、色々な人への感謝をしていきたいと思っています。

「魔法の言葉」で

たくさんの笑顔を」

福島市立信夫中学校

山口 香帆

六年前、たくさんのものをうばっていった東日本大震災。みんなが傷つき、悲しんだ時、まだ幼かった私達を今まで見守り、優しくしてくれたのは、近所の方々でした。

震災直後に、私たちは大きなランドセルを背負い、小学校へ入学しました。放射線の問題で、校庭やプールでの授業ができず、いつもマスクをつけて生活していました。この大変な時期に私達をサポートしてくれたのは、見守り隊の人でした。毎日横断歩道近くに立ち、笑顔で

「おかえりなさい。」

と言ってくれました。その時の私は気づかなかったけれど、その一言や行動が私のはげみになっていたな、と今感じます。

私が近所の人の優しさを感じ始めたのは、小学六年生の時です。最高学年になり、

下級生のお手本となる立場になった私達、学校の先生からもたくさんの指導をしていただきました。その中でも特に多かったのが、「あいさつ」に関してです。いつでもだれにでもあいさつするように、と先生が言っていたので、私と友達は、登下校時に会う近所の人にあいさつをするようにしました。二、三日続けていると、あいさつをした後におばさんが、

「いつもあいさつしてえらいねえ。」

と言ってくれました。私達はうれしくなつて、それから登下校時以外でも、会った人には必ずあいさつをしました。「いつでもどこでもあいさつ」が身に付き、毎日が明るくなりました。

私は、あの時にあいさつを始めて良かったな、と思っています。あいさつで声を出すことで元気が出るし、何より地域のひとさらに仲良くなることができたからです。私があいさつをして、返してくれなかった人はほとんどいませんでした。笑顔であいさつを返してくれたり、「おかえり。」や「いつてらっしゃい。」と言ってくれたり、散歩させていた犬をさわらせてくれたり、

前は話さなかった人とも、あいさつを通じてたくさん話すようになりました。あいさつで、地域の人の優しさ、あたたかさを知り、地域の輪を広げることができたと思います。

どんな状況でも、あいさつをすると明るくなれます。あいさつは、私の「魔法の言葉」です。あいさつをこれからも続け、この地域が「あいさつと笑顔のあふれる地域」になればいいと思います。

「福島市民憲章をもっと知ろう」

福島市立信夫中学校

佐藤 千颯

もし、他県の方々の中には、「福島は嫌だ」と思っている人がいるかもしれない。でも私は、そんなの外見だけで福島のことちゃんと見てないと思う。それは二つの理由からだ。

六年前にあった東日本大震災。津波の強い響で、放射線が県中に飛んでいった。そのころから、世間が見る目が変わったんだと思う。震災の一ヶ月後、私は小学校に入学。入学してちょっとしてから、震災での強い響があった。友達が引っこしてしまっただ。そのころはなぜ引っこしたのか分からなかった。でも今は分かる。親が、「危ない!!」と思ったからだ。そして私の家でも、福島県産の米や牛乳をあまり飲まなくなった。今思うと、「一つの大きい地震で暮らしがこんなにも変わってしまうんだな。」と実感している。

もう一つの理由は、ニュースを見て感じる事だ。観光客は震災前よりかなり減っているらしい。スキー場なんかは、前より約九十二パーセントもの人が福島にこなくなったのだ。

でも、震災があったからって福島市などは、悪いところではない。

水や空気は最初のころ、放射線であまり飲めなかったりしたが、今は色んな人達ががんばって放射線が最初のころに比べかなり減ってきている。最近では、給食に福島県産で作った郷土料理が出るようになってきています。

地域の方々には、みんな親切です。学校の帰りに、「おえかり。」っていつてくれる方がいっぱいいます。工事中のところでは安全に誘導してくれます。

中学校では、「めざす生徒像」の中のきをまりをみんな守っています。授業や部活動にしっかり取り組み、時間を守って行動したり、あいさつ、返事などもみんなちゃんと守って生活しています。

福島市の子どもはとっても元気いっぱいです。小学生などは、休み時間になると、

外に行き、元気に遊んでいます。お年寄りの方々も、外を歩いていたりして、子どもからお年寄りまでみんな元気です。

この他にも福島市には、たくさんいいところがあります。大変なことがあったとしても、みんな協力して乗り越えられる福島はとってもいいところだと思います。でも福島市はまだ改善できるところがあります。それを直していき、福島市民憲章を広く知って、一人一人が努力すればきっと今以上のいい福島になると思います。

「福島市をきれいにする」

福島市立野田中学校

遠藤 慎也

僕は、この市民憲章を初めて知りました。僕は、「空も水もきれいな、みどりのまち」についてかきたいと思います。

福島は、とてもみどりが多くきれいなところだと思います。以前東京に行ったときは、歩道や道路にもごみがたくさん落ちていました。福島に帰ってきて改めてきれいなところだと思いました。でもまだところどころにごみが落ちていたり、その落ちているごみを捨てない人達がいりしています。そこをなおせば、福島市も福島全体がもつときれいでみどりあふれるところになると思います。

そのためには、福島市民全員がまわりに気を配る必要があると思います。ごみはきちんとごみ箱に捨てたり、ごみが落ちてたら捨ててあげたり、また、リサイクルなどをしてごみを減らすことをまずはしていけ

ばいいと思います。そのうち、気を配りながら行うのではなく、それが当たり前になつてくればもつといいと思います。

他に福島をきれいにするためには、人が一番重要だと思います。まず人の心がきれいにならないと福島はきれいにはなれないと思います。なぜならば、福島をきれいにするのは人です。福島を汚くするのも人です。人が動かなければ何も変わらないからです。だから、まず福島の人一人一人が心をきれいにし、行動しなければなりません。僕は、一人が動けば周りの人たちがそれを見て動くと思います。その一人に僕たちが動いて行かないと福島はきれいにならないと思います。また、人が福島を汚くすることをしていたら、呼びかけたり注意したりするなどのようなこともしていけばいいと思います。

それだけでなく、川や海でもごみをそこら辺に捨てず、持ち帰らなければなりません。僕がたまに川や海にいくと、砂浜にごみがたくさんあります。海や川で楽しむのはいいけど、その後の片づけをしつかりや

ってほしいと思います。そうすればこの海も川もきれいになり、僕たちが普段使っている水道から出る水も、もつときれいになると思います。

空もそうです。福島市民一人一人がごみを減らせば燃やさなくてすみ、空気も空もきれいになると思います。

福島市をきれにするには、まず人が動き、ごみを減らし、ごみをきちんと捨て、ごみを拾う。そういうことが必要だと思います。動く人も一人が動けば、周りの人も動き、そのうち福島市だけじゃなくて福島県全体に広がり全国に広がると思います。だから最初に僕が動き出します。そしてみんなに動いてもらいたいです。

僕が目指すのは、初めに福島市をきれいにし、福島県をきれいにし、そして日本をきれいにし、自然豊かなところにあることです。

「みどり豊かな輝く明日へ」

福島市立野田中学校

氏 家 悠

私は市民憲章から考えることが三つあります。

一つ目はみどりの町をつくることです。最近では農業をする人が減ってきて福島のおいしい野菜が少なくなっています。また、たくさんのお木が切られ、全体的な福島の豊かなみどりが減少しています。そのみどりを取りもどすため、私は木を植えるボランティアに積極的に参加しています。地域のひととの交流も広がりとても楽しいです。福島市の人が一人でもみどりを守ろうとボランティアに参加することでみどり豊かな福島市を築いていけると 생각합니다。

二つ目は、相手を思いやれる町です。お年よりの人が増えている高れいか社会になった今こそ考えなければいけないと思います。お年よりや病気をもっている人の中には、私達があたり前にできることをできな

い人もたくさんいます。中には、その人達をからかったり、差別する人もいます。ですが、病気はなりたいたからなる訳じゃありません。また、その人はその人なりに努力してあたりまえなことでもできるようにしています。なので私達はそういう人たちの力に少しでもなれるように手をかしてあげたり、声をかけてあげたりとはげまし、助けあうことがとても大切だと思います。いじめや差別のない明日がくると願い、自分も、笑顔でいっぱいいる学級、学校になるように努力していきたいと思っています。

三つ目は、夢が輝く町です。私にも一つ夢があります。それは、世界中の貧しい人のお手伝いをする、国際ボランティアをやることです。一人一人が個性あるすてきな夢や希望に向かってチャレンジしていると 생각합니다。その夢を実現するために大事なことは勉強と優しさだと私は考えます。学校にいていけることをほこりに思い、集中して学習すること知識の他にもさまざまなことが身につきます。優しさは、人が困っているときやどん底にいる時、声をかけられること。となりにそっとよりそえること。

その一つ一つのささいではあるけれど大きな支えとなる行動から生まれてくると学童の先生に言われたことがあります。福島の人には優しい人がとても多く、すぐくほこれる場所です。たくさん希望をもちそれを叶えるため努力する人が増えれば増えるほど輝きのある明日、未来がまわっていると私は考えました。「ありがとう」のとびかう明るく笑顔の町を目指し、福島の人とともにがんばりたいです。

福島市民憲章から考えることや思うことの数々を実現するには、あと先考えず、今の自分にできることを地域のことや学活に生かしていくことが大切だと思います。私もボランティアや地域の行事に進んで参加し、交流の場を増やしたいです。みどりと希望のあふれる町。それは福島市のことだと思います。

「これからの福島を

よくするために」

福島市立野田中学校

佐藤 愛

私は、この作文を通して初めて福島市民憲章について知りました。そして、この福島市民憲章のとりくみやこうもくの中で気になったものについてこの作文で考えたいです。

子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましようというこうもくです。これは、高れい化してきている今、大切なものなんじゃないかなと思っし、私達の安全にも大きく関わる重要なものだと感じます。まず身近に感じたのは交通安全についてです。毎朝登校するときには、旗を持ち、ゆうどうしてくれる地域の方々がいます。私達はその方々のおかげで毎日安全に登校することができています。小学校もそうです。危ない線路、太く車が多い道、交差点などはいつも地域の方々が私達を安

全へと導かせてくれています。本当に感謝して生活を送りたいし、私達も事故やけがに気をつけていきたいです。

次に、おとしよりの方の安全についてです。これはしょうがいを持つ方といっしょに考えます。私は前横断歩道をわたっているとき近くにおとしよりの方がいました。その方は歩くのが大変そうでした。そして、少しだけ赤信号になった時車に乗っている人は優しく、どうぞと車の中からいっていました。私は、そういう一つ一つの気づかいがこの福島をよくしていくのかなと思いました。そして、しょうがい者の方は、もっと大変なのかなと思いました。小学校のころ、私はしょうがい者の方のことについて調べたことがあります。その時、てんじブロックや、駅でおちることがなくなるようにガードするところがあつたりするものを知りました。その取り組みはとてもよいことだけれど、全部整っているところはまだ少ないです。なので、そういう取り組みをもっと広めてほしいし、差別などもなくなつてほしいです。

最後に、私が大切にしていきたいと思つ

たのは、福島を自然を大事にしていきたいことと、人には優しく接することです。環境を大切にしていきたいことは、福島にも大きくかわつてくると思うからです。福島は自然が豊かなところなので、この自然をずっと守つていきたいです。そして、美しい環境でいつまでもあつてもらいたいと思います。私も身近にある植物を大切にし、たくさん育ていき、環境がよくなることを目指したいです。そして、人に優しくすることとでみんなの心がまるくなることができそうです。そうすることによってコミュニケーション力が高まり、増えていき、たくさんの人々との交流を私は大切にしていきたいです。

福島市民憲章。初めて聞いた取り組みはすごくいいものだと感じました。どのこうもくも、福島のことがかつたからこそのできるものもたくさんあるので、これからも続けてほしいし私も大切にしていきたいと思ひます。

「福島市民憲章の大切さを知り」

福島市立野田中学校

佐藤 叶夢

私は「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というテーマが印象的でした。そのわけは、バスでの出来事があったからです。

私が友達とバスで移動していました。その時、停まるたびに人が下りていき、慣れないせいか変に緊張してしまい、不安でいっぱいでした。でも、そのバスに乗っていたおばさんが私達に声をかけてくれました。私達の不安そうな表情を見て、心配になったとおっしゃいました。その言葉と親切さが温まりました。そんな温かい出来事があったから、小さい子でも、お年寄りでも関係なく優しく親切にしようと心に決めました。そして、バスや電車ではお年寄りや妊婦さんに席をゆずったり、小さい子が一人であったときには

「どうしたの？大丈夫？」

と声をかけたりするようになりました。

私が誰にでも親切にしようと思い、それを実行出来たのは全てあの優しく親切なおばさんのおかげです。また、おばさんの優しさで私は優しくなり、私の優しさで別の誰かが優しくなってくれるといいなと考えました。その優しさのサイクルが続けば、きっと福島市も福島県もみんなが優しいところになれると思います。だから、一人一人が誰にでも優しく親切に接することで福島全体も「優しさで親切と笑顔があふれる場所」にすることが出来ます。ですが、人だけが一方的に優しくなるよりも、私達の周りも見たら笑顔になれるような環境にしたいです。それが「空も水もきれいなみどりのまちをつくらう」というもう一つの福島市民憲章です。人も環境も良ければ、さらに素晴らしい市でいられます。

例えば、学校やどこかへ行つたときにごみを見つけたら拾って捨てる。また、市や県などが行っているようなボランティア活動に参加する。などの色々な策があります。そういった策を自分が実行し、もつと良い福島市をつくっていききたいです。そうすれば、家の外に出たときに気持ち良く過ごせます。きれいな環境で毎日を過ごすことでみんなが笑顔になれます。

私は二つの市民憲章について取り上げました。一つ目は「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」です。もう一つは「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。この二つの市民憲章から、私達がやるべきことは「誰にでもどこでもいつでも人に優しくして愛情をもち、親切サイクルをつくる」ということです。また「積極的にボランティア活動に取り組み、外に出たくなるような環境づくりをしていく」ということです。この二つのやるべきことを実行していき、福島市民も観光客も笑顔になるまちにしたいです。福島市民憲章を知らない人ばかりですが、話をして広めたり、機会があればまた作文を書き、たくさんの人に知ってもらいたいです。

「身近なものが幸せ」

福島市立野田中学校

野 地 日 向

高くそびえたつあづま山。そこから降りてくる風に吹かれる場所。周りの田んぼのいねの生長を、一年を通して見る事が出来る場所。そんな福島市の自然で、たつぷり囲んだような場所にある、野田中学校。そこに通う私は、福島市の自然に囲まれて育ってきた。

小さいころは、家が信夫山の真下だった。木の実を採ったり、花をつんだり、妹と山に登ったり…。毎日のように外で遊んだ。ひっこすと聞いた時はうれしかった。新しい家に住めるし、そこの方が便利だ。喜んで新しい家に住んで、一週間たったら、もう恋しくなってしまうのだ。山で遊んでいた日々が。

「福島は山にかこまれて盆地だから暑いんだよ。」

親やまわりの人から一度は聞いたことの

あるこのセリフ。私はこんなことを言っているくせに、都会へ行くと山が少なくて、少し落ちつかないのだ。

こういうことなんだ。

今の家はもちろん前の家よりもキレイで、場所もいい。こっちの方がいいに決まっている。でも、時々恋しくなる。もしも時間をもどせるといふのなら、迷わず「あの家に住んでいた時。」というだろう。

都会は最高だ。楽しいし便利だし、好きなお店もいっぱいある。でも私は、しょう来どちらに住むと聞かれれば、必ず福島だと答えるだろう。ビルに囲われた生活より、山に囲まれた生活を選ぶだろう。

秋に金色の田んぼが、風にゆれてさらさらーと海みたいになるのが好き。

雪うさぎを見て、

「今年も春が来たな。」

と思う合図みたいなのが好き。

朝日が山から登って、夕日が山にしずむのが好き。

都会みたいには便利ではないけれど、とってもいなかという訳じゃないけれど、有名な観光地がある訳じゃないけれど。どこか

ほっとする、ものすごい物が無いからこそ、身近な自然に感動出来る。「何もない」の中には、たくさん大切なものが入っているんだと思う。それが、私が思う福島市の自然の魅力なんだと思う。私はその身近な自然を見つけて生きていきたい。福島のがほこりに思えるような物を、自分は作れないかも知れないけど、福島に帰ってきた人に、

「やっぱり帰ってきて良かった。」

と、私を感じた、「いいなあ。」というような、温かい環境を作りたいと思う。それが例えば家庭でも、職場でも、どこでも福島のような温かさになりたい。

たくさん自然を感じながら。

「親切で愛情あふれるまち」

福島市立野田中学校

大 沼 ほのか

わたしは、福島市が、だれにでも親切で、愛情あふれるまちになったらいいなと思います。

例えば、体の不自由な方が利用するための店の入り口の近くにある駐車場や、点字があります。歩くという事が困難なわたしのおばあちゃんも、病気で倒れ、左半身のまひが残っています。買い物に行つたとき、体の不自由な人が使う駐車場に、健常者が車をとめていました。本当に歩くことがゆつくりだったり、困難だったりする人のために、ルールを守って使えるようになるのと、もつとよいまちになると思います。また、お母さんとまだ幼かった妹と電車に乗ると、混んでいてすわる所がありませんでした。すると、すわっていた高校生が席をゆずってくれました。他にも、おとしよりに席や手すりをゆずったり、重そうな荷物

を上の方にある荷物置き場にのせてくれる優しい人がいました。みんなが、そのような親切な人をお手本とし、支え合っているといいと思います。

みんなに愛情を持って接するということは、だれにでも優しく、思いやる気持ちをもつということだと思います。例えば、先生方は、生徒がちがう道へそれてしまいそうになったら、悪いところを指摘してください。親も、子どもを立派な大人に育てるために、悪いことは悪いと言ってくれる、よいことをしたらほめてくれます。近所のおとしよりも、ていねいなあいさつ、交差点などで指導をしてくれます。それは全部、優しく、他人のことを思っているからこそのできる行動だと思います。それでも、自分の子どもを殺したり、けがをさせたり、暴言をはいたりする親もいると、ニュース番組で見ます。なぜそのようなことをしてしまうのかと考えると、他人の気持ちを考えずに行動してしまったり、自分がいつも中心で、全てが正しいと思っているからではないかと思います。親などに注意されると、いやだなと感じることがありますが、

何で注意されたんだろうと考えると、自分のことを思っているから、全部「愛情」かなんだなと思いました。わたしは「厳しさの中には愛情、優しさがある」という言葉を聞いたことがあります。何事も愛情があることは素晴らしいことだなと思いました。

わたしの将来の夢は、人の役に立つ仕事をする事です。医療関係の仕事ができれば、命を救いたいです。そのことにも、だれにでも親切で、愛情をもって対応しなければいけません。今からその心を身につけていきたいです。福島市の未来が、愛情のある人々で、あふれるようなまちになったら最高だろうなと思いました。

「福島の良き未来のために」

福島市立野田中学校

小林 瑞歩

私が十三年間福島で生きてきて感じるのと、それは、「福島ってあったかいな。」ということですよ。

以前私が近くの公園のまわりを走っていたとき、小さい子がブランコで遊んでいた。すると、急にバランスをくずし、頭から落ちてしまいました。その子はすぐ泣きだし、私は見ることにできませんでした。

「だいじょうぶ?どうだったの?」

泣きじゃくる子どもに声をかけたのは見知らぬ女の人でした。その子の親ではないようでした。女の人は、しばらくその子のそばにいて、頭をなでていました。さきほどまで泣きじゃくっていた子がしだいに泣きやんで、

「お姉ちゃん、ありがと。」

と、何事もなかったかのように帰っていき

ました。スキップをしながら。

もしあの人がいなかったらその子はずっと泣いていたかもしれません。

「お姉ちゃん、ありがと。」

と言ったあの子の表情は笑顔であふれていました。

「私も、困っている人をすすんで助けたい。笑顔でお礼を言われない。そして、あの「お姉ちゃん」のような存在になりたい。」と、心から思いました。

まわりになかなか困っている人がおらず、目標は達成できていませんが、それは近所の人達が協力して生活しているからかなと感じました。私もその中に入って、助けあいながら生きていこうと思います。

このように、福島市はとてもあたたかいところです。自然がいっぱいで空気がおいしいし、教育や文化を大切にしているし、日々助けあって過ごしているし、自分のやるべき事をちゃんとやっているし、みんな安全に気をつけて過ごしています。しかし、メリットに対して、デメリットもあります。お聞きしたところによると「福島はとてもきたない」そうです。確かに、道ばたや田

んぼ、畑にごみが捨てられているのをよく見かけます。そのままにしていると、ごみは増えるし、福島に観光にきた方々も不快な思いになります。

そこでポイ捨てを防ぐため、まずポスターをつくってみたいかがでしようか。外出中、あまりそういうポスターを見たことがないのでポスターをつくることでポイ捨て者が減るのではないのでしょうか。それでも無理な場合、道ばたや柱などに小さなごみ箱をせっちするのはいかがでしようか。しかし、それはかなりの手間がかかるのであまりオススメはしません。

福島市民、みんなで助けあい、努力すれば、福島は必ず良い方向にすすみます。また、三年後のオリンピックでもっとたくさんの方々にきていただけるかもしれない。ですから、福島の良き未来へ向かってがんばりましょう。

「『福島市が愛情でいっぱい』に

なるために」

福島市立野田中学校

駒 場 彩 花

福島市では、温かい心の人達がたくさんいます。私が悩んでいる時は、友達が話を聞いてくれました。おかげで私は、もう一回前を見る事ができました。もちろん、家族や友達以外の地域の方々にもやさしくしてもらいました。朝学校に来る時などは、交通安全として、道路に立って私達の安全を一番に考えて動いてくださったり、毎日、毎日、朝早くから道路に行き、私達が来ると笑顔であいさつしてくれます。なので、学校に着くまで安心した気持ちで、歩く事ができます。私は、毎日楽しく安全で暮らせる福島市が大好きです。なので、福島市がもっと愛情であふれるように考えてみたのが、二つあります。

一つ目は、誰にでも親切にする事です。誰にでもという所に少し驚きますが、誰に

でもやさしくできるのは、福島市だけだと思つて書きました。私達のほとんどの人は知っている人や友達などに、親切にしているかと思ひます。なので、誰かが困っていたら助け、何かできる事があればすぐ行動する。そうすれば、福島市を愛情でいっぱいにできると思ひました。

二つ目は、「ありがとう」と感謝をする事です。あたり前と思つている人もいると思いますが、あたり前ではなく、感謝を伝えられる大切な言葉。そう思つてもらえろと、感謝を伝えられやすいかと思ひました。では実際に、感謝の言葉を伝えられている人がいるのか、調べてみました。友達が困つてゐる時に助けました。すると、「ありがとう」ではなく、「どーも」など、冷たい言葉でした。そのほかにも、何も言わない人がいました。「ありがとう」ときちんと言つてゐる人も何人かいましたが、何も言わない人や冷たい言葉を言う人もいました。やっぱり、何かいい事をしたら、「ありがとう」って言われたいですよね。なので一人一人が、感謝の言葉を伝えられれば、いい事をしたなあつて、再び実感できると

思ふので、「ありがとう」と言う言葉を、しっかり相手に伝え、日頃の生活でできたいいなと思ひました。

私が考えたのは、この二つでした。福島市がもっと愛情であふれるのは、この二つかなあと思つて書きました。人つてゐるのは、誰かに支えられて生きていくと私は思つてゐるので、その支えられた分福島市をいっぱい支えていきたいなと思つてゐます。福島市が親切で愛情あふれるまちになるように、私は考えを出して、実行をし、私からその思いと行動がみんなに伝わつていけばいいなと、思ひました。「ありがとう」つて言う言葉を大切にし、これからの未来でもちゃんといい、少しでも未来が変わつてほしいです。いい未来にして、これから生まれてくる人達も、私達全員の思いをうけついで、福島市を今よりよい環境・暮らしをしてほしいと思ひました。

「福島の良いさを広げる」

福島市立野田中学校

中村 ひらり

福島の良いさは、自然があるところだと思います。自然がたくさんあることで、人が優しくなり、その優しさが親切につながるので、そういった福島の自由なところが私は好きです。都会のようにいろんな建て物に囲まれずゆったりとした自然に囲まれて心が落ち着けるのは、福島でしかできないことだと私は思います。そういった福島に私が気になったことは、自然である川が汚れてしまっていたりすること、また、道ばたにゴミが落ちていることです。私がよく見かけるのは、ゴミが道に落ちていることです。空きかんやふくろなど、ところどころに落ちていたりします。また、私が少しがっかりしたことが、前に人がいるにも関わらず、ゴミを捨てていることや気づいていた人も、見て見ぬふりをして通って行ってしまうことです。ですが、実際に私も見

ていても、見て見ぬふりをしてしまうと思うので、もっと自主的にゴミを拾ったりしながらゴミをなくしていく対策をしていきたいです。

また、洗いや油、また捨ててしまったゴミによって川が汚染されてしまうので、そういった自然環境といったものを見直し、自然を大切にしていきたいです。福島という自然そのものが私は好きなので、自然がともきれいでありたいと思います。

福島には良くないことがあるかもしれませんが、せんが、良いところもたくさんあります。たとえば、自然でつくられる果物です。福島の特徴である暖かい気候が果物を美味しく実らせています。特に桃は実が大きく引きしまっていて、何よりも甘いところがあるので、福島の桃は美味しく、安全だというのをピールし、たくさんの人に福島の桃を食べてもらいたいです。

もう一つは、人が優しく、親切であることです。私はあいさつをしてくれる近所の方々や、お店の方など、福島には優しい方々がたくさんいることが良いところだと思います。いつも笑顔で見守ってくださる人達

により、私の心も明るくしてくれます。そういった優しい心が福島の人となり、多くの人を安心させてくれる力があると思うので、これからも優しさで親切である心を持って私達を明るくしてほしいと思います。

福島にはたくさんの方がいますが、まだ信じてくれない人がいると思います。原爆つが起きた場所で、福島は止まっていると思うので、今未来に向かっている福島の良さを知ってもらい、放射能も少なく、安全な場所だということを当たり前のように思ってもらいたいです。また、福島の伝統である食事に手を加えてみたりして、子供も福島になじめて、また、道の駅や気になるような店をつくり、たくさんの人に来てほしいと思います。私はたくさんの方の良さがある福島が好きです。

「あたたかいまちにするために」

福島市立野田中学校

長尾実穂

私は、今まで福島市民憲章についてよく知りませんでした。ですが、市民憲章について知り、市民の方々がどんな活動をしていたか考えてみました。いろいろな活動が思い浮かびましたが、私が一番身近に感じたことは、地域の方の見守り活動です。毎朝あいさつをしてくれたり、下校するときを送ってくれたりしました。私は、その活動のおかげで毎日安全に登下校ができています。

小学生の時、毎朝、地域の方々が道路に立って

「おはよう！いつてらっしゃい。」

と明るくあいさつしてくれました。私は、その一言で元気が出て、明るい気持ちになりました。下校の時もです。

「おかえり。気を付けて帰りな。」

と声をかけてくれます。私はそれでとても

安心しました。暗くなってきたり、一人だつたりすると、家の近くまで送ってくれることもありました。私はとてもうれしかったです。その声かけ、見守りで、私は小学校生活六年、特に大きな事故も事件もなく楽しく過ごしていました。

ですが、私は中学生になりました。今までは通学路も変わってしまいます。もう、あの明るいあいさつが聞けないのかと思うと、とても寂しく思いました。しかし、中学校生活一日目の朝は、思っていたものと違いました。家を出ると、近所の方が

「おはよう。今日は入学式かい？」

と声をかけてくれました。それから、学校まで何人かの人にあいさつをされました。中学生になっても、明るいあいさつがふれる通学は変わっていませんでした。下校の時も、パトロールの方や近所の方、犬の散歩をしている方に、「おかえり」や「こんにちは」とあいさつをされます。小学生の時に道路に立っていた方と会う機会は減ってしまいましたが、私の登下校はいつもとっても、明るく、やさしく、あたたかいです。

私は、地域の方への感謝を伝え、福島市をさらに親切で愛情あふれるまちにするために自分ができることを考えました。それは、自分も明るいあいさつをし、自分にもできる親切を進んで行うことです。明るいあいさつをされると、私はとてもうれしく、あたたかい気持ちになります。そして、あいさつをするのも、とても気分がいいです。したほうもされたほうもうれしいあいさつを目指します。そして、私は今まで、たくさんの人に親切にされました。なので、そのことへの感謝の心を持ち、重い荷物を持つている人の手伝いをしたり、道に迷っている人の案内をするなど、自分にもできる親切を積極的に行います。

私の大好きな福島市を、まずは一人一人の心がけから、親切で愛情あふれるまち、そしてあたたかいまちにしたいと思っています。

「笑顔あふれる福島市に」

福島市立飯野中学校

荒 木 柚 乃

私は、小学校四年生から六年生まで、よさこいを踊っていました。同級生七人と、大人の人達に混じって踊っていました。町内のお祭りから地域のイベントまで、いろいろな場所で踊りました。そういう時、いつもうれしい気持ちになります。それは、踊りを見てくださるお客さん達が、一緒に笑ってくれたり手をたたいて楽しんでくれたりするからです。

けれども、練習の時、何回も言われているのに出来なくて、おこられることもよくありました。「もう、踊りたくない。」「練習に行きたくない。」と、何回も思いました。でも、踊りを見てくれる人達は、みんな笑顔で見てくれました。すると、踊り終わった後は、練習の時のいやな気持ちは無くなっているのです。今でも、お客さんの笑顔を思い出すと「がんばろう」という気

持ちになります。私は、福島の人達はとても優しく温かい人達だなと思います。

飯野町の人達もとても温かい人達です。

朝、学校に行く途中にすれちがうと、必ず「おはよう。」と笑顔で話しかけてくれます。私は、あまり知らない人達とお話するのは苦手で、四年生まではあまりあいさつをしていませんでした。五年生になっても声が小さくて、相手に聞こえていなかったと思います。でも、勇気を出して相手の目を見てあいさつをしたら、笑顔で返してくれました。とてもうれしくて、気持ちがよかったです。このように、あいさつと笑顔は、温かいつながりをつくってくれると思います。これは、福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまち」に、近づく一歩だと考えます。

しかし、そんな飯野町や福島市でも、危ないことがあります。それは、交差点などで急に車や人が飛び出して来ることです。私が車に乗っている時、壁の陰から急に車が飛び出して来て、ぶつかりそうになったことがあります。飯野町でも、車と車がぶつかってしまう事故があります。私は、

そのような事故が増えてしまわないように、呼びかけをした方が良くと思うのです。特に、お年よりの人は出来るだけ車を運転するのをひかえた方がいいのではないのでしょうか。なぜならお年よりの運転は、判断力や反応がおそくなりがちだからです。しかし、だからといってお年よりが運転することを一方的にへらすと、お年よりも困ると思います。そこで、私はふれあいバスや移動スーバーを増やして、お年よりが車を運転する時間を減らしていけるように工夫すると良いと思います。

福島市にも飯野町にも、親切な人達がたくさんいます。しかし、危険なこともあります。一人一人が、相手を思いやる気持ちや心に余裕を持って過ごせば、「親切で愛情あふれるまち」となり、笑顔あふれる、楽しく安全な町になると、私は思います。

「きれいなまちづくりのために」

福島市立飯野中学校

佐久間 大和

僕は、福島市民として生活していきましたが、福島市民憲章を聞いたり、見たりする機会は今までありませんでした。

この作文を作成するにあたって、福島市民憲章について知る事が出来ました。その中でも僕は、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましようという憲章を見て、自分の日常生活について考えさせられることがあります。

僕は、今年中学校に入学しました。少しでもお母さんの手伝いが出来ればと思い、ごみ出しを手伝うことにしました。僕はごみの分け方が分からなかったため、まず福島市民に配布されているクリーンガイドブックを見ることにしました。可燃ごみや不燃ごみ、資源物等、いろいろなごみの種類が有ることにびっくりし、そして何よりも表紙に書いてある福島市は全国の十万人以

上の都市において、一人一日当たりのごみの排出量が日本一多いという記事を見てショックを受けました。とても残念な結果だと思えます。自分も今まで何も気にせずにごみを出していた事にくやしい気持ちになりました。これからは、ポイポイと簡単にゴミを捨てるのではなく一つでも多くゴミを減らす事を考えて行動したいと思っています。

また、自分が通う通学路では朝の通学時には無かったペットボトルやたばこの吸い殻などが帰りには捨ててあったりと、ポイ捨てがすごく多くなったと感じています。これでは市民憲章に有るきれいな町づくりは実現出来ないと思います。

きれいな町づくりを達成するには、福島市民一人一人が憲章の精神を持って、小さな事から取り組んでいかなければならないと思っています。僕も、これを機にさらにサイクルやごみに対する知識を深めて一つでもきれいな町づくりにこうけん出来る様に生活していきたいです。

「安全で健康な町にしよう」

福島市立飯野中学校

佐久間 雛

私は、福島市民憲章とはどのようなものなのかくわしくは分かりませんでした。そのときに、このような市内の中学一年生を対象とした福島市民憲章作文コンクールというとても良い機会がありよかったです。憲章の五つの中で私は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」が大切なのではないかと思いました。理由は、今子供が減ると同時に、六十五歳以上のお年寄りが増えていく、少子高齢化が進んでいるので、安全、健康というのは大切なのではないかと思ったからです。

初めに、安全についてです。車に乗るときは必ずシートベルトをする、自転車に乗るときは、必ずヘルメットをかぶる、このように自動車に乗るときは必ず着用し、安全に乗れると思います。シートベル

トをするかしないか、ヘルメットをかぶるか、かぶらないかで自分の運命が変わるといえるほど大切だと思います。

私の家の近くは、交通量が多く、十字路や丁字路がありますが信号がないので少し危険な場所があります。もし子供が飛び出してしまったりしたら、とても危険です。お年寄りの人でも車の音に気付かなかったりしても危険です。このようなことを防ぐために、近くには、安全運転などを呼びかける看板やカーブミラーがあります。そうすると、運転する方も子供もお年寄りも安心できると思います。

私が小学生の登校時に、町の「見守り隊」というお年寄りの方々が毎朝早くから立っていてくださり、私達はいつも安心安全で登校する事ができました。

健康面では、見守り隊のお年寄りの方々にとっても、生活習慣が整い、健康が保てるのではないかと思います。だから、この活動はまだまだ続いてほしいです。

憲章が五つある中で一つだけ考えてみるのではなく、その一つはそのほかのものにつながっていくので、ほかのものも考えて

みたいです。あたり前のことを守るだけで自分の身を守ることができると思います。交通ルールを守ること、安全歩行をすること、安全運転をすることを一人一人がすれば少しでも子どもやおとしよりを事故から守れます。子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをめざして、みんなが笑顔があふれるように、私も生活していくなかで考えていきたいです。

「親切で愛情のあふれる町に」

福島市立飯野中学校

服部 花菜

私は、福島県福島市飯野町に住んでいます。緑に囲まれた、とても自然豊かな場所です。

私が住んでいるこの町では、町全体が明るくとても仲が良いです。

そこで、どうして町全体が仲良く明るい生活が送れるのかを考えてみました。すると、この町の良いところがたくさん見えてきました。

一つ目は、「あいさつ」です。私は自分からあいさつをする事を心がけています。自分から進んで声をかけると、とても気持ちが良いからです。私は、すれ違う時によくあいさつをします。すると、笑顔で優しく返してくれます。離れている道路越しのところであいさつをしても相手の人は、だまることなく必ずあいさつを返してくれます。当たり前前の事だけどこのようにさりげ

ないところでも、親切に接してくれる事がこの町の人の良いところだと思っています。

二つ目は、「行事」です。この町では、お祭りなどの行事に、積極的に取り組んでいます。私も幼稚園の年長から小学校の六年生まで地域の子供会に入っていました。秋祭りのおみこしを創って祭りに参加したり、町の盆おどりに参加したりしていました。他にもお祭りはたくさんあります。二月から三月にはつるし雛祭りが開かれ、毎年多くの観光客の人がおとずれます。つるし雛祭りでは大人の方々の作品だけではなく、小学生や中学生の作品もあります。小学校では、町の方々が学校へ来て、作り方を教えて下さり、出来上がった作品を飾っていました。このような行事でも町全体のコミュニケーションがとられ、気軽に話せるような仲になるのかと思いました。

私の住むこの町では、なぜこんなに仲が良く親切で明るいのかを考えてみると、小さい頃からたくさんの方々の行事に参加し、大人の方々と触れ合う事でいつでも気軽に話せるような仲になっているのだと思います。そして、親から子へずっと受けつがれ

てきたのだと思います。私は、この町に育って良かったです。

これからもこのような様々な活動が続いていき、みんなでもっと親切で愛情のあふれた町にしていきたいです。

「やさしさ溢れる町のために」

福島市立飯野中学校

鈴木唯花

私は福島市で生まれ育った。これからも住み続けるであろう福島市のために何ができるか考えてみた。

私たちが普段歩いている町をよくみてみると、何気なくゴミが落ちているときがある。それが普通だと思い込み、気にもしないですりすぎてしまう。見つけても周りを気にしてしまい、見てみぬふりをする人がほとんどだろう。それに「めんどくさい」「誰かやってくれるだろう」と都合の良いように考えてしまう。私はそれではいけないと思う。市民憲章に「空も水もきれいなみどりのまち」とある。まずは私自身がゴミに気付いたら拾うことをあたりまえにしていきたい。私一人では小さいことかもしれないが、どんどん周りにもあたりまえのことにしていったら、「きれいなみどりのまち」が作れればいいと思う。

そして、自然にやさしい気持ちを持つことができたなら、次に人にもやさしい気持ちを持てるようにしたい。町の中で困っている人、助けを求めている人がいたら、すぐに手助けできるような勇気を身につけたいと思う。私も小さな頃から今まで、たくさんの人に助けられて成長してきた。これからは、私のできる範囲で「親切で愛情あふれるまち」づくりにつぎつぎといきたい。みんなが少しずつできる範囲の親切をすること、誰もが笑って暮らせるまちになったら最高だ。

また、自然にも人にもやさしい自分になると同時に、きまりもしつかりと守れるように強い心を持ちたいと思う。きまりを守るということは、人に迷惑をかけないようにすることだが、相手のことを考えたやさしさでもあるからだ。きまりをしつかりと守れない人間は、他人をいたわり親切にすることなどできないと思う。交通ルールもきまりと同様しつかりと守ることで命を守り、笑って楽しく暮らせる日常があると思っている。「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」はとても重要なことだ。

それから「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」とあるように、私も将来やりがいのある仕事を協力しあいながらできたいと思う。

最後に、「教育と文化を尊び希望に輝くまち」とある。将来私自身がやりがいのある仕事ができるようになるためにも、今のうちにしつかりと知識を身につけたい。そして、福島市の文化財について学ぶことは、昔の人々の知恵や工夫などを知ることでもある大切なことだと思う。将来大人になるまでにできる限り学習して、自然と人にやさしいまちづくりの一員になりたい。

「福島がよりよいまちに

なるために」

福島市立飯野中学校

佐藤 愛心

私は、福島市民としてよりよいまちづくりはどのようなものかなど、これまで、一度も考えたことはなかった。また、市民憲章というものの存在すら知らなかった。実は、福島市の自然の豊かさや、文化、歴史などについても、これまで全く知らずともしてこなかった。そんな福島について知ろうともしてこなかった私だが、嫌でも気になった時期が一度ある。それは、平成二十三年三月十一日の東日本大震災がきっかけになっている。それまで気にもとめていない当たり前の景色が、一気に変わったのを、今でも覚えている。当時、私はまだ小学校入学前。三月十一日の午後二時四十六分、体験したこともないような大きなゆれで私は、不安でいっぱいだった。水道や電気が数日止まり、もっと不安でいっぱいになっ

た。その後、水道や電気がもどり安心して暮らせるようになった。でも、約五年間過ごした、大切なふるさとを一度離れなくてはいけなくなった。今まで普通に、当たり前のように生活できていたありがたさを感じることができた。色々あったが、その後、六年以上が経ち、震災後の復旧もかなり進んだように見える。普段、生活していると、震災前と少し生活や環境は変わってしまったけれど、ほぼ変わらない毎日が送れているように思える。しかし、ふと考えると、周りの大人たちが、復旧作業や除染作業など、傷ついたまちなどをもと通りにしようと必死で取り組んでいる様子など、目で見ることがなかなかないので、まちなどは、時間の経過とともに、自然に震災前の姿に戻ってきているように勘違いしてしまう。きっとこんな感覚を持つてしまうのは、私がなにも知らずとしてこないせいだろう。私一人には、目に見えてよりよいまちをつくる力は何もないが、市民憲章を読むと、「これができる」「それならできる」と思えることがたくさん見つかる。自分の取り組み一つは、本当に小さなことかもしれない

けど、それを周りに伝え、皆で同じ取り組みを続けることで、私が福島のまちづくりに参加できるなら、すぐにやろうと思うことがいくつもある。それをいつか実践して、福島市を、もっとよりよいまちにしていきたい。